

令和6（2024）年度第1回みよし市こども未来会議 次第

と き 令和6（2024）年6月11日（火）

午前10時から

ところ みよし市役所3階 研修室4・5

1 委嘱状交付

2 市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 諮問

5 議題

（1）ニーズ調査の結果報告について（資料1）

（2）こども会議等について（資料2-1、資料2-2）

（3）今後のスケジュールについて（資料3）

みよし市子ども未来会議委員名簿

(委嘱期間: 令和8(2026)年3月31日まで)

No.	区分	所属機関及び役職等		氏名
1	学識経験者	学識経験者	名古屋学芸大学教授	渡辺 桜
2	児童福祉・ 教育関係団体	みよし市民生児童委員代表	みよし市民生児童委員	梅川 小夜子
3		みよし市立小学校代表	北部小学校長	山北 淳
4		私立幼稚園代表	三好丘聖マーガレット幼稚園園長	伊藤 幸雄
5		私立幼稚園父母の会代表	三好丘聖マーガレット幼稚園保護者の会会長	三保 雅子
6		みよし市立保育園父母の会代表	城山保育園父母の会会長	山岡 直子
7		みよし市PTA連絡協議会代表	三吉小学校PTA会長	林 丹美
8		みよし市子ども会育成連絡協議会代表	みよし市子ども会育成連絡協議会会計	谷澤 智子
9		みよし市子育てクラブ連絡協議会代表	みよし市子育てクラブ連絡協議会副会長 (ひばりヶ丘子育てクラブ会長)	安本 順子
10		みよし市子育て支援グループ代表	子育てネットみよし代表	松本 美佐
11	産業関係団体	みよし市工業経済会代表	(株)三五 代表取締役 副社長	坂田 浩己
12	市民	市民委員		菅沼 恵子
13		市民委員		松浦 三智代
14	行政関係	行政関係	豊田加茂福祉相談センター児童育成課長	田畑 彰啓

みよし市 こども計画策定のための
アンケート調査報告書（概要版）

令和6年5月

みよし市

目 次

こども・子育て支援ニーズ調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の対象	1
3. 調査の方法	1
4. 調査の期間	1
5. 回答結果	1
6. 報告書の見方	2

第2章 就学前児童家庭のニーズ調査結果

1. お子さんご家族の状況	3
2. こどもの育ちをめぐる環境	4
3. 保護者の就労状況	6
4. 平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況	7
5. 地域の子育て支援事業の利用状況	10
6. 幼稚園や保育園などの土曜日・日曜日・祝日・長期休暇中の定期的な利用希望	11
7. お子さんが病気になったときの対応	12
8. 幼稚園や保育園などの不定期な利用や宿泊を伴う一時預かりなどの利用	13
9. 小学校就学後の放課後のすごしかた（お子さんが5歳以上の方）	15
10. 育児休業など、仕事と子育ての両立	17
11. みよし市の子育て支援の現状に対する満足度	20

第3章 小学生児童家庭のニーズ調査結果

1. お子さんご家族の状況	21
2. こどもの育ちをめぐる環境	22
3. 保護者の就労状況	23
4. お子さんの放課後のすごしかたと放課後児童クラブの利用	24
5. 病気になった時の対応や、不定期な一時預かり等の利用状況	27
6. 地域の子育て支援サービスの利用状況	29
7. みよし市の子育て支援の現状に対する満足度	30

こどもの生活状況調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	31
2. 調査の対象	31
3. 調査の方法	31
4. 調査の期間	31
5. 回答結果	31
6. 報告書の見方	31
7. 本市における分析区分	32

第2章 調査結果

1. 基本属性	33
2. 保護者の状況	37
3. こどもの学校生活・学習状況	39
4. こどもの健やかな成長	61
5. 支援制度・支援体制について	89
6. こどもまんなか社会について	91

こども・若者の意識と生活に関する調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	99
2. 調査の対象	99
3. 調査の方法	99
4. 調査の期間	99
5. 回答結果	99
6. 報告書の見方	99

第2章 調査結果

1. あなたの状況について	100
2. 普段の生活について	101
3. 「居場所」について	107
4. 家族、友人等とのかかわりについて	110
5. こども・若者を対象とした支援について	113
6. あなたの今・将来について	115
7. こどもまんなか社会について	119
8. 少子化対策について	121

こども・子育て支援ニーズ調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

子育て家庭の実態や子育て支援ニーズ、子育てに関する意識等を把握することにより、今後の子育て支援策の充実に活かすとともに、「子ども・子育て支援事業計画」を策定するための基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査の対象

就学前児童保護者	市内在住の就学前児童の保護者全員
小学生児童保護者	市内の小学校に通う小学2年生・5年生児童の保護者

3. 調査の方法

就学前児童保護者	郵送により案内文を配布し、Webアンケートにより回答
小学生児童保護者	学校を通じて案内文を配布し、Webアンケートにより回答

4. 調査の期間

令和6年2月28日～令和6年3月17日

※0歳児の保護者は、令和6年5月7日～令和6年5月19日に調査を実施しました。

※回答期日までにWebアンケートで回答があったものを有効回答として扱い、集計・分析を行いました。

5. 回答結果

	案内文配布数	回答数	回答率
就学前児童保護者	3,096件	1,075件	34.7%
小学生児童保護者	1,189件	324件	27.2%

6. 報告書の見方

- 回答は、各質問の回答者数（計）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、グラフには「0.0」と表記しています。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 基本属性等とのクロス集計は、原則として、表側の各属性等の「無回答」を表示していません。ただし、「全体」は属性の「無回答」を含んでいます。
- 集計によっては、回答者数が10人未満と非常に少ない場合もあり、このような集計は参考程度として見る必要があります。
- グラフや表およびコメントにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合があります。

【年齢、学年の定義】

就学前児童の年齢定義は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

年齢区分	該当する生年月
0歳児	2023年4月～2024年3月
1歳児	2022年4月～2023年3月
2歳児	2021年4月～2022年3月
3歳児	2020年4月～2021年3月
4歳児	2019年4月～2020年3月
5歳児	2018年4月～2019年3月

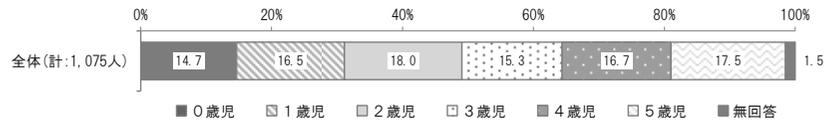
第2章 就学前児童家庭のニーズ調査結果

1. お子さんご家族の状況

(1) お子さんの年齢

単数回答

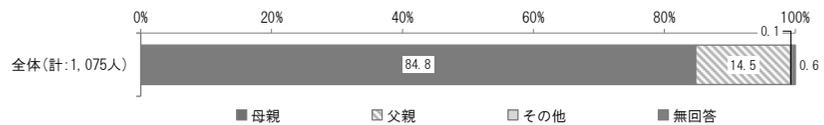
- ◆ お子さんの年齢について、「2歳児」と回答した人の割合が最も高く、18.0%となっています。次いで、「5歳児」(17.5%)、「4歳児」(16.7%)となっています。



(2) 調査票の回答者

単数回答

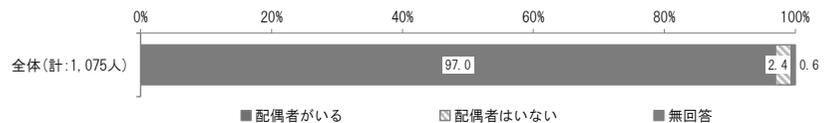
- ◆ 回答者について、「母親」と回答した人の割合が最も高く、84.8%となっています。次いで、「父親」(14.5%)、「その他」(0.1%)となっています。



(3) 回答者の配偶関係

単数回答

- ◆ 回答者の配偶関係について、「配偶者がいる」と回答した人の割合は97.0%、「配偶者がいない」は2.4%となっています。



(4) 子育てを主に行っている方

単数回答

- ◆ 子育てや教育は、主にどなたがおこなっていますかとたずねたところ、「父母とも」と回答した人の割合が最も高く、69.6%となっています。次いで、「主に母親」(29.6%)、「主に祖父母」(0.2%)となっています。

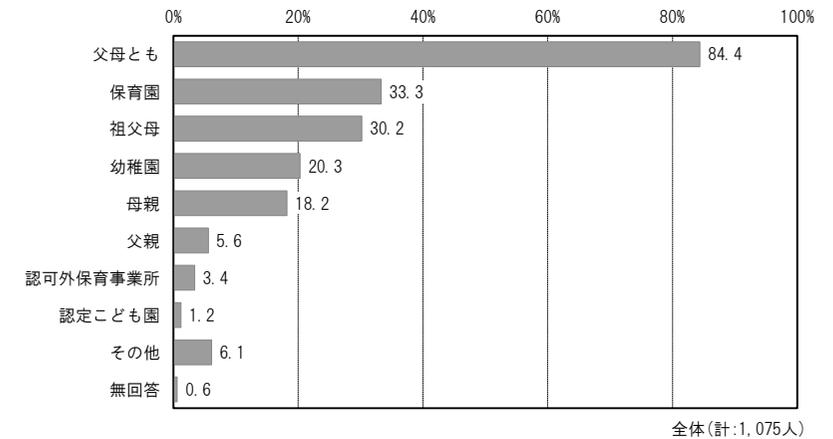


2. こどもの育ちをめぐる環境

(1) 子育てや教育に日常的に関わっている人や施設

複数回答

- ◆ お子さんの子育てや教育に日常的にかかわっている人や施設についてたずねたところ、「父母とも」と回答した人の割合が最も高く84.4%となっています。次いで、「保育園」(33.3%)、「祖父母」(30.2%)となっています。

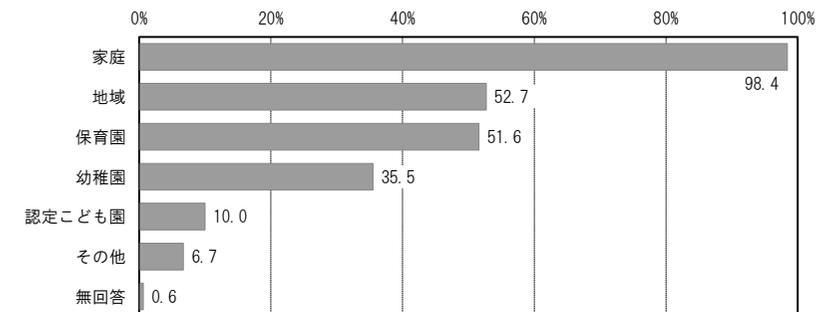


全体(計:1,075人)

(2) 子育てや教育に影響すると思われる環境

複数回答

- ◆ お子さんの子育てや教育に影響すると思われる環境として、「家庭」と回答した人の割合が最も高く、98.4%となっています。次いで、「地域」(52.7%)、「保育園」(51.6%)となっています。

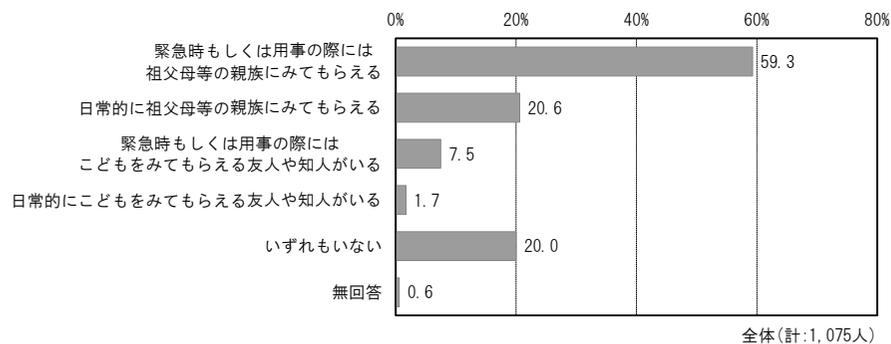


全体(計:1,075人)

(3) 子育てに関する協力者

複数回答

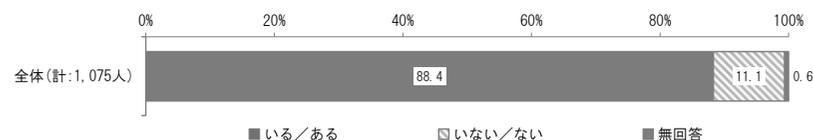
- ◆ 保護者がお子さんの世話ができないときに、どなたにみてもらえますかとたずねたところ、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した人の割合が最も高く、59.3%となっています。次いで、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(20.6%)、「いずれもない」(20.0%)となっています。



(4) 子育てや教育について、気軽に相談できる人または場所

単数回答

- ◆ お子さんの子育てや教育について、気軽に相談できる人または場所があるかとたずねたところ、全体では「いる／ある」と回答した人の割合が88.4%、「いない／ない」が11.1%となっています。



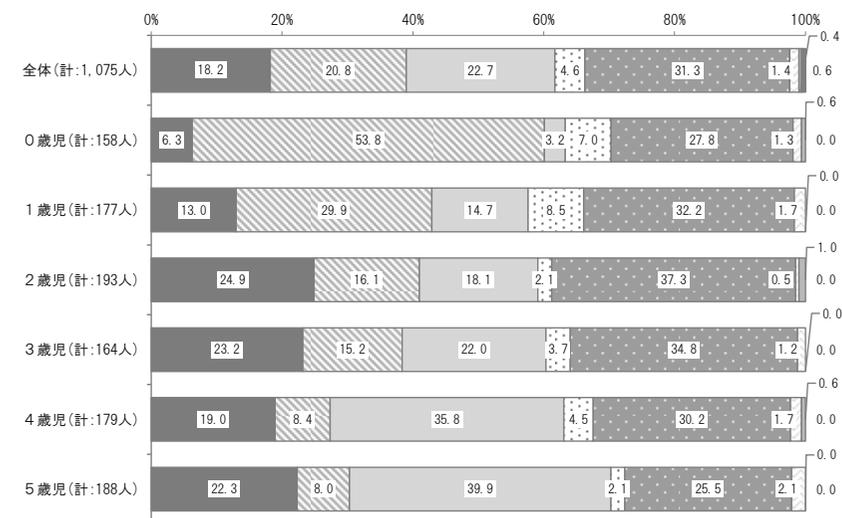
3. 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

単数回答

- ◆ 母親の就労状況について、全体では「以前は就労していたが、現在は就労していない」と回答した人の割合が最も高く、31.3%となっています。次いで、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(22.7%)、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」(20.8%)となっています。
- ◆ お子さんの年齢別にみると、0歳児では「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」と回答した人の割合が最も高くなっています。また、年齢が上がるにつれて、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」と回答した人の割合が高くなっています。

母親の就労状況



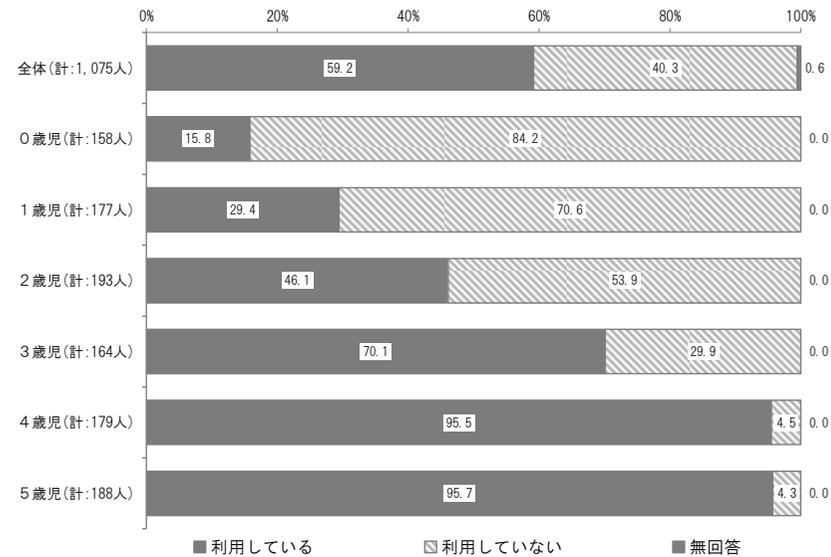
- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▤ パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 父子家庭等のため該当しない
- 無回答

4. 平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況

(1) 平日のこどもを預かる施設やサービスの利用状況

単数回答

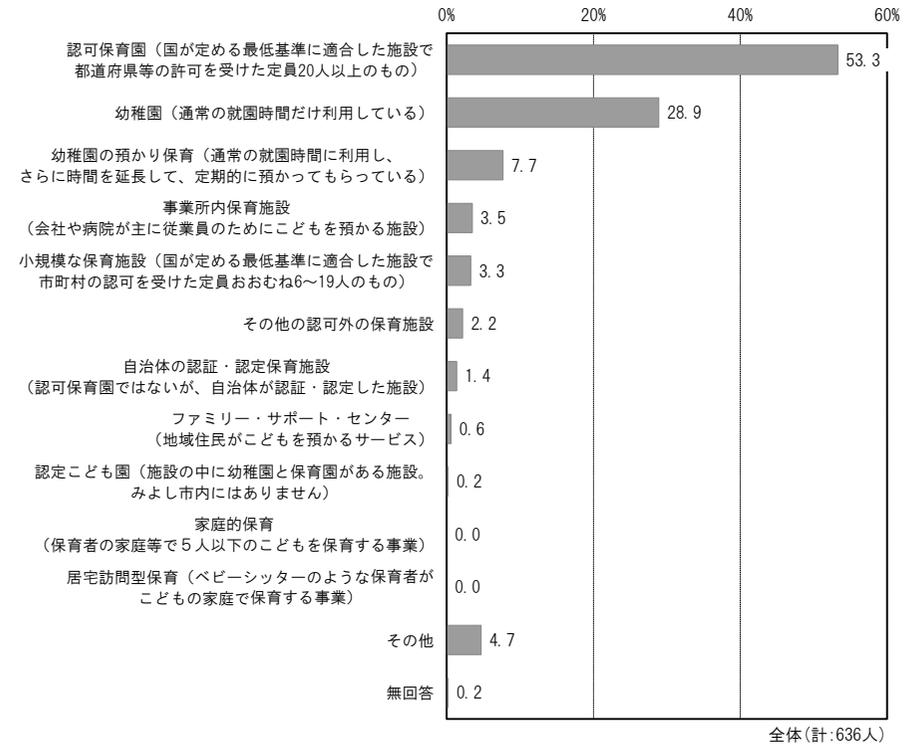
- ◆ 平日に、幼稚園や保育園などのこどもを預かる施設やサービスを定期的に利用されていますかとたずねたところ、全体では「利用している」と回答した人の割合は59.2%となっています。一方、「利用していない」と回答した人の割合は40.3%となっています。
- ◆ お子さんの年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「利用している」と回答した人の割合が高くなっています。



(2) 平日の定期的な教育・保育サービスの利用実態

複数回答

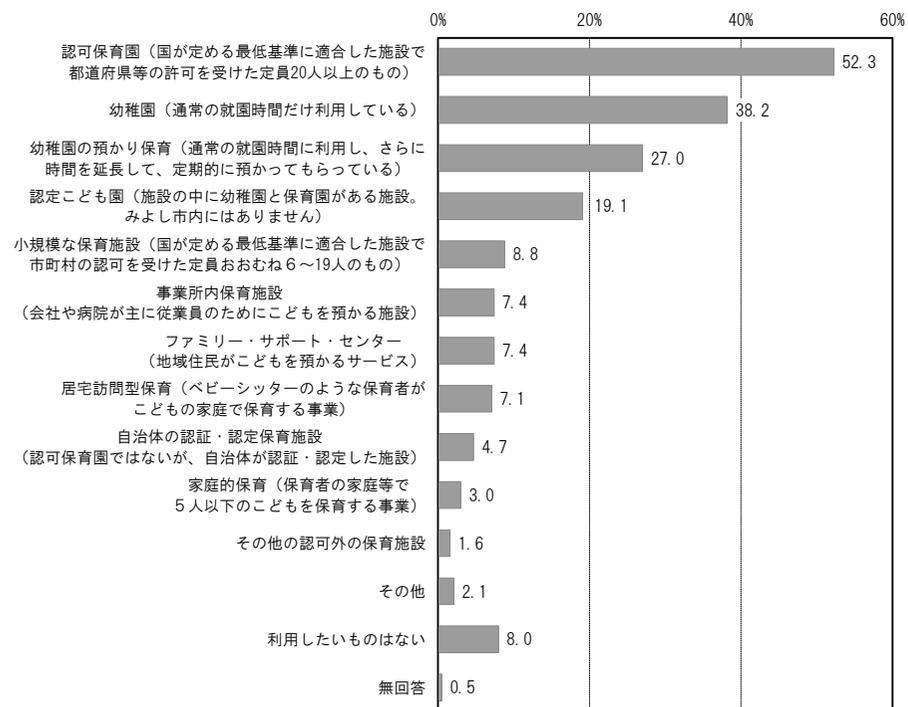
- ◆ 現在、どのような施設やサービスを利用しているかたずねたところ、「認可保育園（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の許可を受けた定員20人以上のもの）」と回答した人の割合が最も高く、53.3%となっています。次いで、「幼稚園（通常の就園時間だけ利用している）」(28.9%)、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間に利用し、さらに時間を延長して、定期的に預かってもらっている）」(7.7%)となっています。



(3) 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望

複数回答

- ◆ お子さんが平日に定期的に利用したいものについて、「認可保育園（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の許可を受けた定員20人以上のもの）」と回答した人の割合が最も高く、52.3%となっています。次いで、「幼稚園（通常の就園時間だけ利用している）」(38.2%)、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間に利用し、さらに時間を延長して、定期的に預かってもらっている）」(27.0%)となっています。



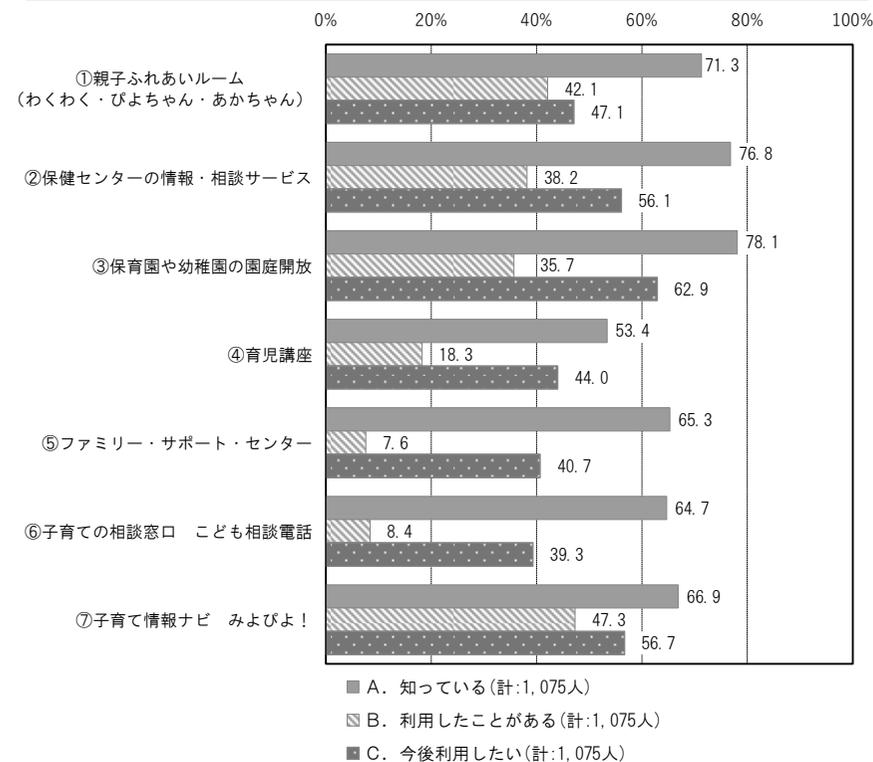
全体(計:1,075人)

5. 地域の子育て支援事業の利用状況

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況と認知度

単数回答

- ◆ 「A. 知っている」サービスについて、「③保育園や幼稚園の園庭開放」と回答した人の割合が最も高く、78.1%となっています。次いで、「②保健センターの情報・相談サービス」(76.8%)、「①親子ふれあいルーム（わくわく・びよちゃん・あかちゃん）」(71.3%)となっています。
- ◆ 「B. 利用したことがある」サービスについて、「⑦子育て情報ナビ みよびよ！」と回答した人の割合が最も高く、47.3%となっています。次いで、「①親子ふれあいルーム（わくわく・びよちゃん・あかちゃん）」(42.1%)、「②保健センターの情報・相談サービス」(38.2%)となっています。
- ◆ 「C. 今後利用したい」サービスについて、「③保育園や幼稚園の園庭開放」と回答した人の割合が最も高く、62.9%となっています。次いで、「⑦子育て情報ナビ みよびよ！」(56.7%)、「②保健センターの情報・相談サービス」(56.1%)となっています。



■ A. 知っている(計:1,075人)

▨ B. 利用したことがある(計:1,075人)

■ C. 今後利用したい(計:1,075人)

※地域子育て支援拠点事業：子育て支援センターにおいて、親子が集まって過ごしたり（親子ふれあいルーム（わくわく、びよちゃん、あかちゃん）、子育ての相談をしたり情報を受けたりする場です。

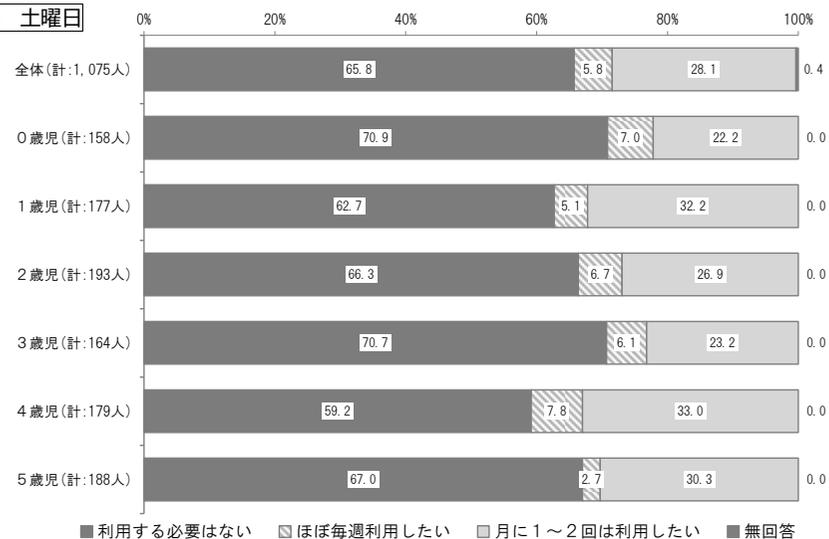
6. 幼稚園や保育園などの土曜日、日曜日・祝日、長期休暇中の定期的な利用希望

(1) 土曜日の幼稚園や保育園などの利用希望

単数回答

- ◆ 土曜日の、幼稚園や保育園などの定期的な利用希望について、全体では「利用する必要はない」と回答した人の割合が最も高く、65.8%となっています。次いで、「月に1～2回は利用したい」(28.1%)、「ほぼ毎週利用したい」(5.8%)となっています。
- ◆ お子さんの年齢別にみると、どの年齢においても「利用する必要はない」と回答した人の割合が最も高く、全体同様の傾向となっています。他の年齢と比べ1歳児、4歳児、5歳児では、「月に1～2回は利用したい」と回答した人の割合がやや高くなっています。

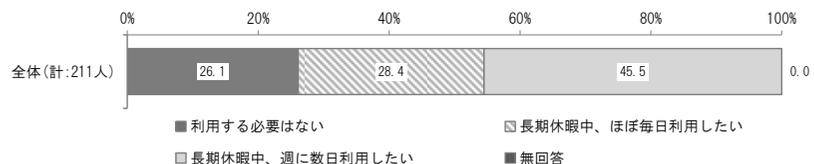
① 土曜日



(2) 夏休み・冬休みなど長期休暇中の幼稚園や保育園の利用希望

単数回答

- ◆ お子さんが「幼稚園」を利用されている方に、夏休み・冬休みなど長期休暇中に幼稚園や保育園の利用を希望しますかとたずねたところ、「長期休暇中、週に数日利用したい」と回答した人の割合が最も高く、45.5%となっています。次いで、「長期休暇中、ほぼ毎日利用したい」(28.4%)、「利用する必要はない」(26.1%)となっています。

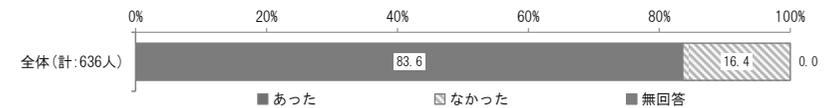


7. お子さんが病気になったときの対応

(1) 病気やけがで幼稚園や保育園などを利用できなかった経験

単数回答

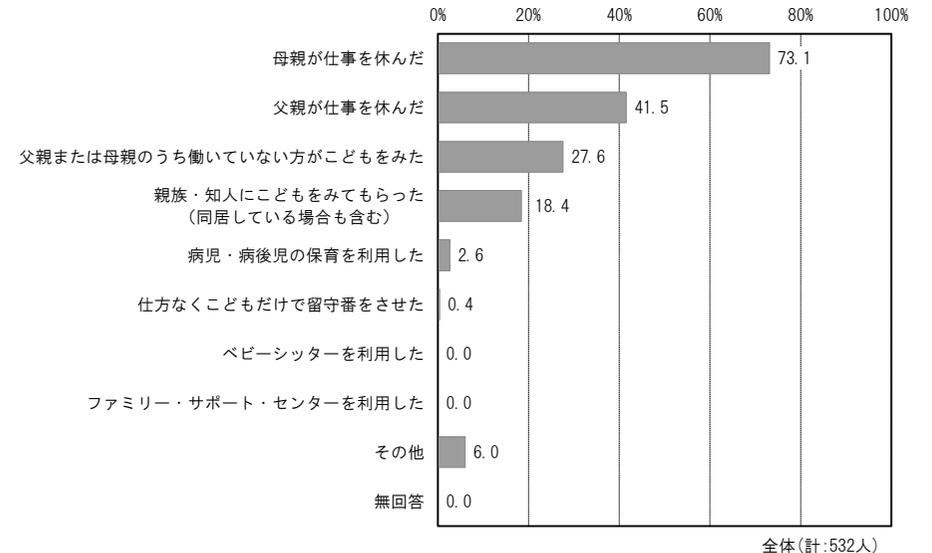
- ◆ この1年間に、お子さんが病気やけがで、幼稚園・保育園などを利用できなかったことはありますかとたずねたところ、「あった」と回答した人の割合は83.6%となっています。一方、「なかった」と回答した人の割合は16.4%となっています。



(2) 病気やけがで幼稚園や保育園などを利用できなかった場合の対処方法

複数回答

- ◆ この1年間で、お子さんが病気やけがで幼稚園や保育園などを利用できなかった場合の対処方法についてたずねたところ、「母親が仕事を休んだ」と回答した人の割合が最も高く、73.1%となっています。次いで、「父親が仕事を休んだ」(41.5%)、「父親または母親のうち働いていない方が子どもをみた」(27.6%)となっています。

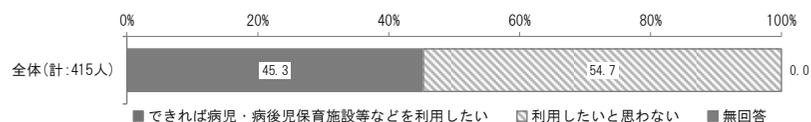


全体(計:532人)

(3) 病児・病後児のための保育施設等の利用希望

単数回答

- ◆ 仕事を休んだときに「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたかとたずねたところ、「できれば病児・病後児保育施設等などを利用したい」と回答した人の割合は45.3%となっています。一方、「利用したいと思わない」と回答した人の割合は54.7%となっています。

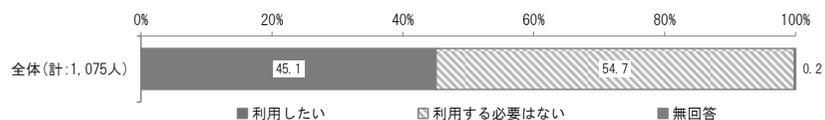


8. 幼稚園や保育園などの不定期な利用や宿泊を伴う一時預かりなどの利用

(1) 不定期な教育・保育サービスの利用希望と利用目的

単数回答

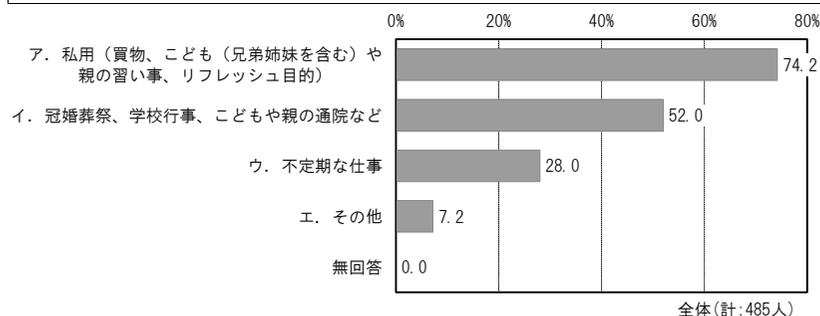
- ◆ 私用、ご自身や配偶者の親の通院、不定期な仕事などを理由として、1年間に何日くらい子どもを預けるサービスを利用したいと思うか利用希望をたずねたところ、「利用したい」と回答した人の割合は45.1%となっています。一方、「利用する必要はない」と回答した人の割合は54.7%となっています。



●子どもを預けるサービスの利用目的

複数回答

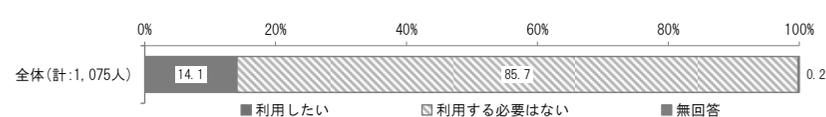
- ◆ 利用目的について、「ア. 私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事、リフレッシュ目的）」と回答した人の割合が最も高く、74.2%となっています。次いで、「イ. 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」（52.0%）、「ウ. 不定期な仕事」（28.0%）となっています。



(2) 子育て短期支援事業（ショートステイ）の利用希望

単数回答

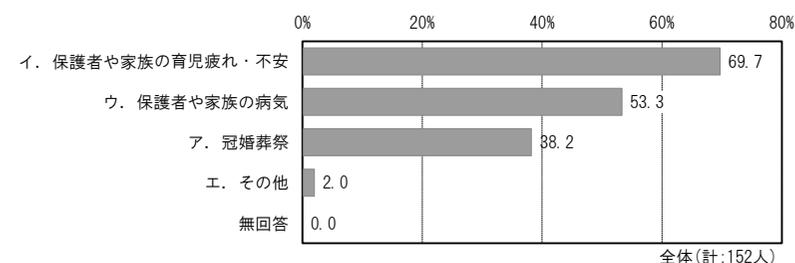
- ◆ 保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があるかについて、子育て短期支援事業を「利用したい」と回答した人の割合は14.1%となっています。一方、「利用する必要はない」と回答した人の割合は85.7%となっています。



●子育て短期支援事業（ショートステイ）を利用したい目的

複数回答

- ◆ 子育て短期支援事業の利用目的についてたずねたところ、「イ. 保護者や家族の育児疲れ・不安」と回答した人の割合が最も高く、69.7%となっています。次いで、「ウ. 保護者や家族の病気」（53.3%）、「ア. 冠婚葬祭」（38.2%）となっています。



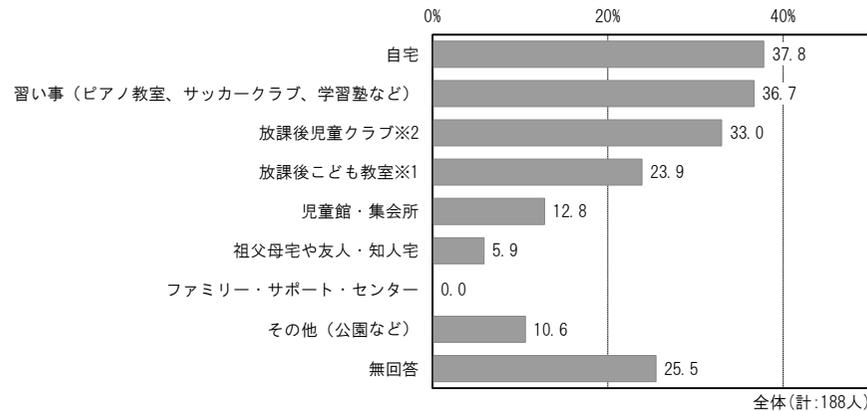
9. 小学校就学後の放課後のすごしかた（お子さんが5歳以上の方）

(1) 小学校就学後の放課後（平日の小学校終了後）の過ごし方

複数回答

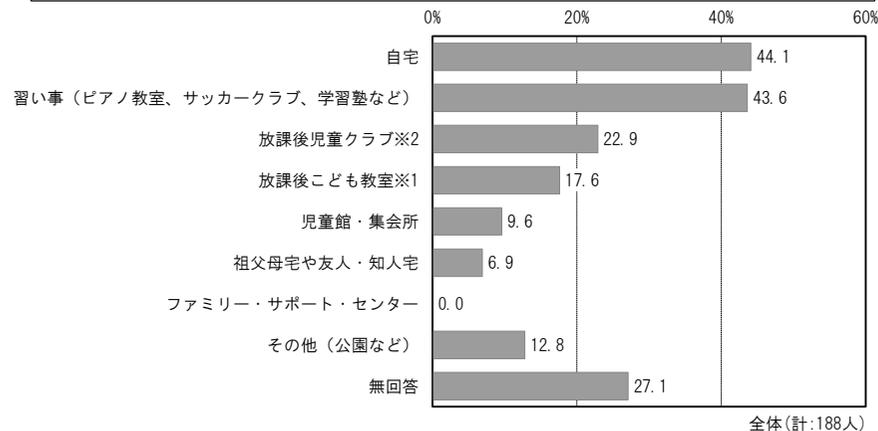
小学校低学年（1～3年生）

- ◆ お子さんが小学校低学年のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますかとたずねたところ、「自宅」と回答した人の割合が最も高く、37.8%となっています。次いで、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（36.7%）、「放課後児童クラブ」（33.0%）となっています。



小学校高学年（4～6年生）

- ◆ お子さんが、小学校高学年になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますかとたずねたところ、「自宅」と回答した人の割合が最も高く、44.1%となっています。次いで、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（43.6%）、「放課後児童クラブ」（22.9%）となっています。

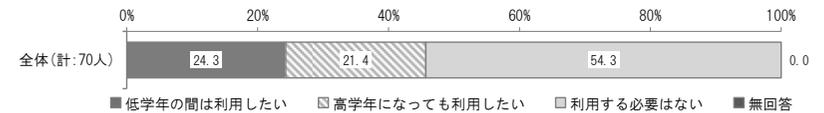


(2) 土曜日の放課後児童クラブの利用希望

単数回答

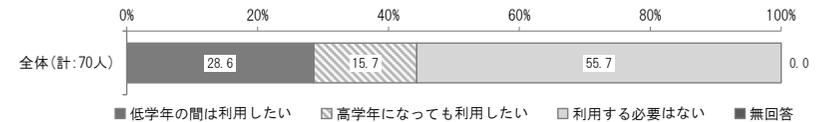
① 土曜日

- ◆ 土曜日の放課後児童クラブの利用希望について、全体では「利用する必要はない」と回答した人の割合が最も高く、54.3%となっています。次いで、「低学年の間は利用したい」（24.3%）、「高学年になっても利用したい」（21.4%）となっています。



② 日曜日・祝日

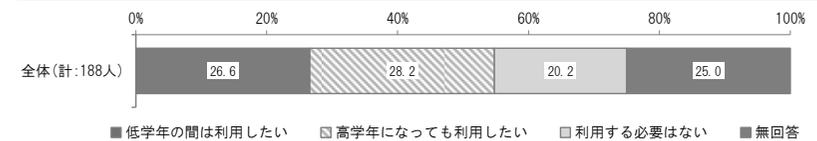
- ◆ 日曜日・祝日の、放課後児童クラブの利用希望について、全体では「利用する必要はない」と回答した人の割合が最も高く、55.7%となっています。次いで、「低学年の間は利用したい」（28.6%）、「高学年になっても利用したい」（15.7%）となっています。



(3) 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望

単数回答

- ◆ 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望について、全体では「高学年になっても利用したい」と回答した人の割合が最も高く、28.2%となっています。次いで、「低学年の間は利用したい」（26.6%）、「利用する必要はない」（20.2%）となっています。

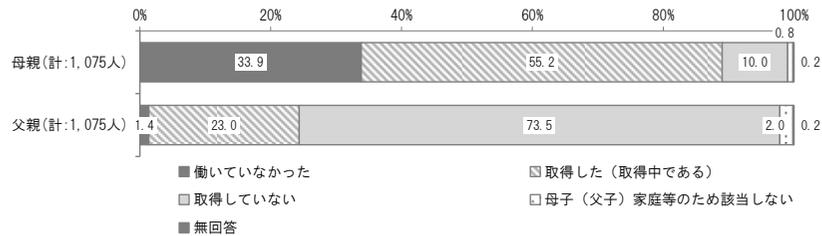


10. 育児休業など、仕事と子育ての両立

(1) 育児休業の取得状況

単数回答

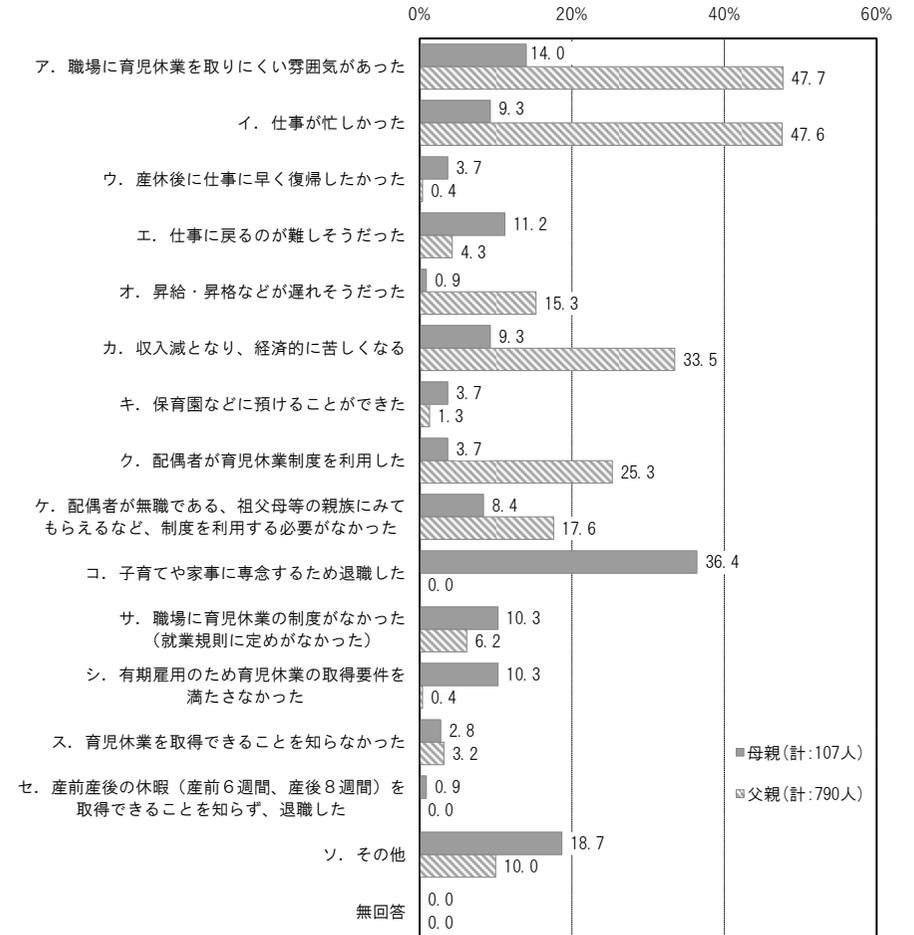
- ◆ 母親の育児休業の取得状況について、「取得した（取得中である）」と回答した人の割合が最も高く、55.2%となっています。次いで、「働いていなかった」（33.9%）、「取得していない」（10.0%）となっています。
- ◆ 父親の育児休業の取得状況については、「取得していない」と回答した人の割合が最も高く、73.5%となっています。次いで、「取得した（取得中である）」（23.0%）、「働いていなかった」（1.4%）となっています。



●育児休業を取得していない理由

複数回答

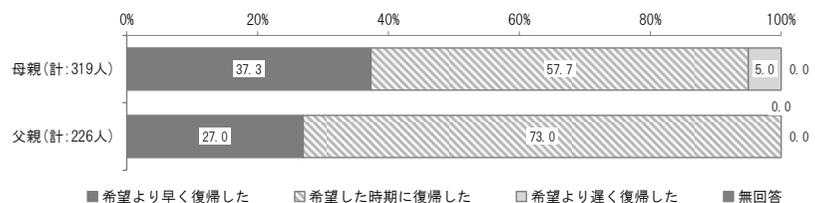
- ◆ 育児休業を取得していない理由について、母親では、「コ. 子育てや家事に専念するため退職した」と回答した人の割合が最も高く、36.4%となっています。次いで、「ア. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（14.0%）、「エ. 仕事に戻るのが難しそうだった」（11.2%）となっています。
- ◆ 父親では、「ア. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」と回答した人の割合が最も高く、47.7%となっています。次いで、「イ. 仕事が忙しかった」（47.6%）、「カ. 収入減となり、経済的に苦しくなる」（33.5%）となっています。



(2) 職場復帰の状況

単数回答

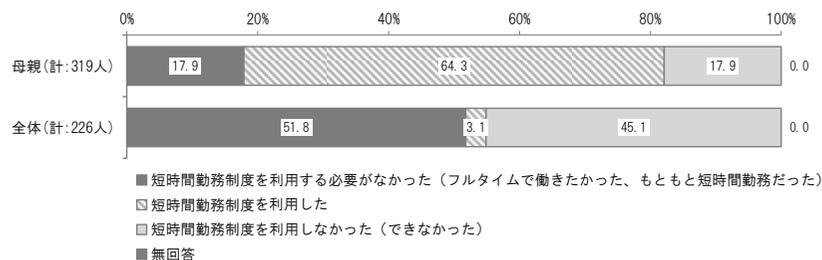
- ◆ 希望の時期に職場復帰したかについて、母親では、「希望した時期に復帰した」と回答した人の割合が最も高く、57.7%となっています。次いで、「希望より早く復帰した」(37.3%)、「希望より遅く復帰した」(5.0%)となっています。
- ◆ 父親では、「希望した時期に復帰した」と回答した人の割合が最も高く、73.0%となっています。次いで、「希望より早く復帰した」(27.0%)となっています。



(3) 職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況

単数回答

- ◆ 育児休業からの職場復帰時に短時間勤務制度を利用したかについて、母親では、「短時間勤務制度を利用した」と回答した人の割合が最も高く、64.3%となっています。次いで、「短時間勤務制度を利用しなかった(できなかった)」、「短時間勤務制度を利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」(ともに17.9%)となっています。
- ◆ 父親では、「短時間勤務制度を利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」と回答した人の割合が最も高く、51.8%となっています。次いで、「短時間勤務制度を利用しなかった(できなかった)」(45.1%)、「短時間勤務制度を利用した」(3.1%)となっています。

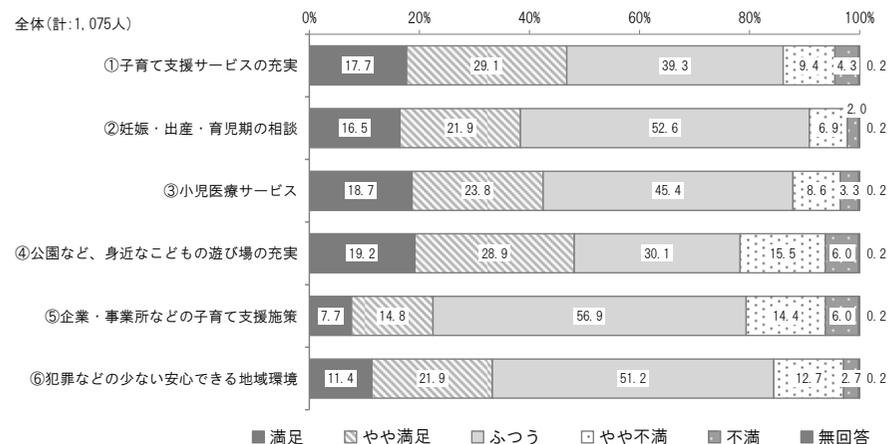


11. みよし市の子育て支援の現状に対する満足度

単数回答

(1) 子育て支援事業の満足度

- ◆ みよし市における①子育て支援サービスの充実度について、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、39.3%となっています。次いで、「やや満足」(29.1%)、「満足」(17.7%)となっています。
- ◆ ②妊娠・出産・育児期の相談については、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、52.6%となっています。次いで、「やや満足」(21.9%)、「満足」(16.5%)となっています。
- ◆ ③小児医療サービスについては、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、45.4%となっています。次いで、「やや満足」(23.8%)、「満足」(18.7%)となっています。
- ◆ ④公園など、身近なこどもの遊び場の充実度については、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、30.1%となっています。次いで、「やや満足」(28.9%)、「満足」(19.2%)となっています。
- ◆ ⑤企業・事業所などの子育て支援施策については、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、56.9%となっています。次いで、「やや満足」(14.8%)、「やや不満」(14.4%)となっています。
- ◆ ⑥犯罪などの少ない安心できる地域環境については、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、51.2%となっています。次いで、「やや満足」(21.9%)、「やや不満」(12.7%)となっています。



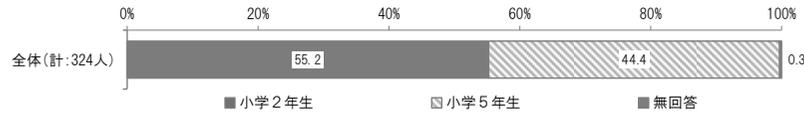
第3章 小学生児童家庭のニーズ調査結果

1. お子さんご家族の状況

(1) お子さんの学年

単数回答

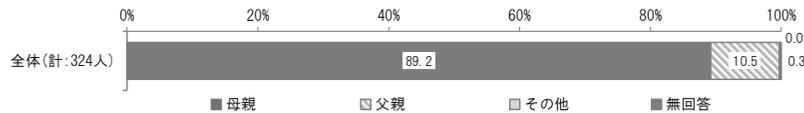
- ◆ お子さんの学年について、「小学2年生」と回答した人の割合は 55.2%、「小学5年生」と回答した人の割合は 44.4%となっています。



(2) 調査票の回答者

単数回答

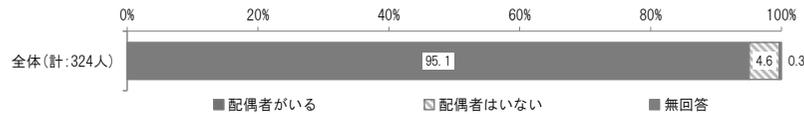
- ◆ 回答者について、「母親」と回答した人の割合が最も高く、89.2%となっています。次いで、「父親」(10.5%)となっています。



(3) 回答者の配偶関係

単数回答

- ◆ 回答者の配偶関係について、「配偶者がいる」と回答した人の割合は 95.1%、「配偶者はいない」と回答した人の割合は 4.6%となっています。



(4) 子育てや教育を主におこなっている方

単数回答

- ◆ 子育てや教育は、主にどなたがおこなっているかについて、「父母とも」と回答した人の割合が最も高く、62.3%となっています。次いで、「主に母親」(36.7%)、「主に父親」(0.3%)となっています。

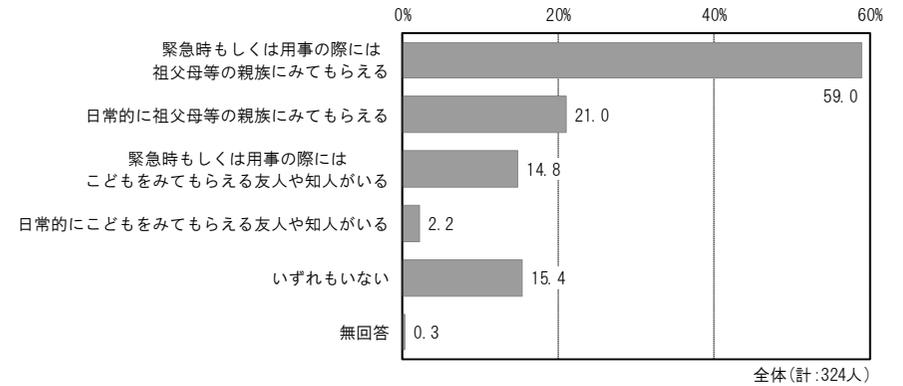


2. こどもの育ちをめぐる環境

(1) 子育てに関する協力者

複数回答

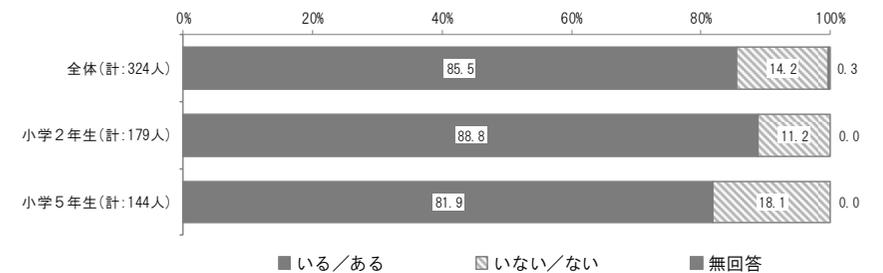
- ◆ 保護者がお子さんの面倒を見られないときに、お子さんの面倒をみてもらえる人について、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した人の割合が最も高く、59.0%となっています。次いで、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(21.0%)、「いずれもない」(15.4%)となっています。



(2) 子育てや教育について、気軽に相談できる人または場所

単数回答

- ◆ お子さんの子育てや教育について、気軽に相談できる人または場所について、全体では「いる／ある」と回答した人の割合は 85.5%となっています。一方、「いない／ない」と回答した人の割合は 14.2%となっています。
- ◆ 学年別にみると、小学2年生で「いる／ある」と回答した人の割合が、小学5年生より高くなっています。



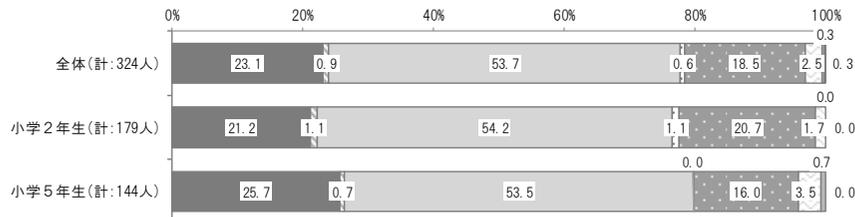
3. 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

単数回答

- ◆ 母親の就労状況について、全体では、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」と回答した人の割合が最も高く、53.7%となっています。次いで、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(23.1%)、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(18.5%)となっています。
- ◆ 学年別にみると、小学5年生で「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」と回答した人の割合が、小学2年生より高くなっています。

母親の就労状況



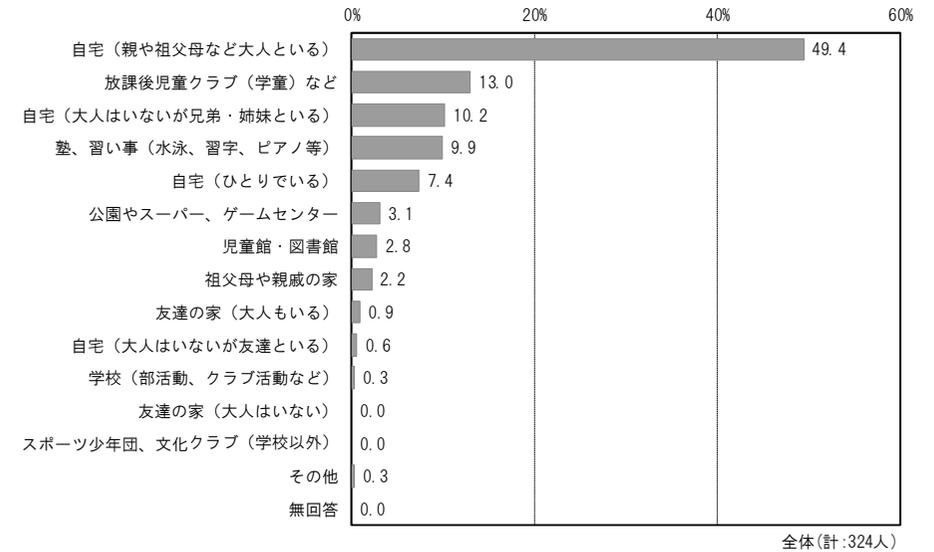
- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ▩ パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▧ パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- ▩ 父子家庭等のため該当しない
- 無回答

4. お子さんの放課後の過ごしかと放課後児童クラブの利用

(1) お子さんの放課後の過ごし方

単数回答

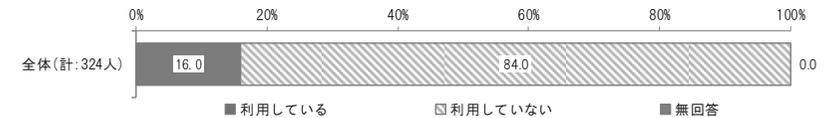
- ◆ お子さんは、放課後は主にどこで過ごすことが多いですかとたずねたところ、「自宅（親や祖父母など大人がいる）」と回答した人の割合が最も高く、49.4%となっています。次いで、「放課後児童クラブ（学童）など」(13.0%)、「自宅（大人はいないが兄弟・姉妹がいる）」(10.2%)となっています。



(2) 平日（月曜日から金曜日）の放課後児童クラブの利用実態

単数回答

- ◆ 平日（月曜日から金曜日）に、現在、放課後児童クラブを利用されていますかとたずねたところ、「利用している」と回答した人の割合は16.0%となっています。一方、「利用していない」と回答した人の割合は84.0%となっています。

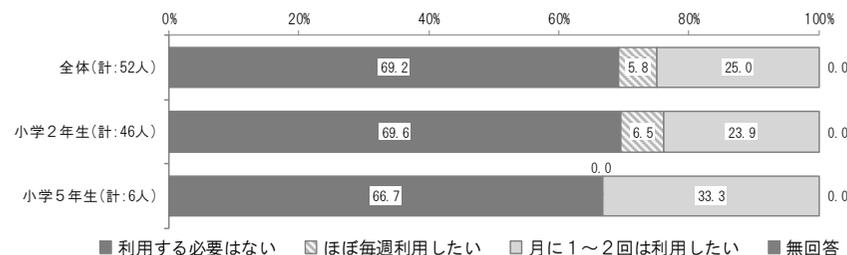


(3) 土曜日、日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望

単数回答

①土曜日の放課後児童クラブの利用希望

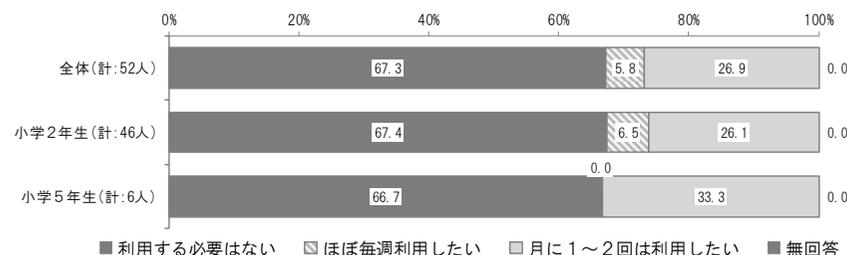
- ◆ 土曜日の放課後児童クラブの利用希望について、全体では「利用する必要はない」と回答した人の割合が最も高く、69.2%となっています。次いで、「月に1～2回は利用したい」(25.0%)、「ほぼ毎週利用したい」(5.8%)となっています。
- ◆ 学年別にみると、小学2年生で「ほぼ毎週利用したい」と回答した人の割合が、小学5年生より高くなっています。



②日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望

単数回答

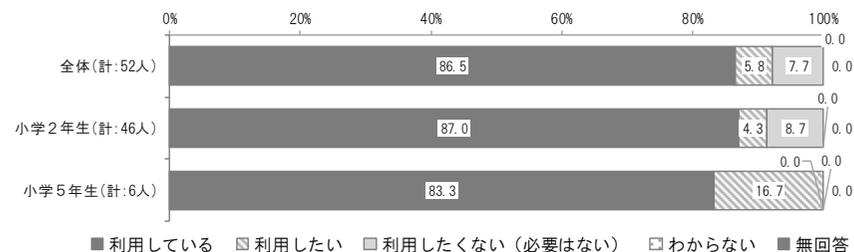
- ◆ 日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望について、全体では「利用する必要はない」と回答した人の割合が最も高く、67.3%となっています。次いで、「月に1～2回は利用したい」(26.9%)、「ほぼ毎週利用したい」(5.8%)となっています。
- ◆ 学年別にみると、小学2年生で「ほぼ毎週利用したい」と回答した人の割合が、小学5年生より高くなっています。



(4) 夏休みや冬休みなどの長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望

単数回答

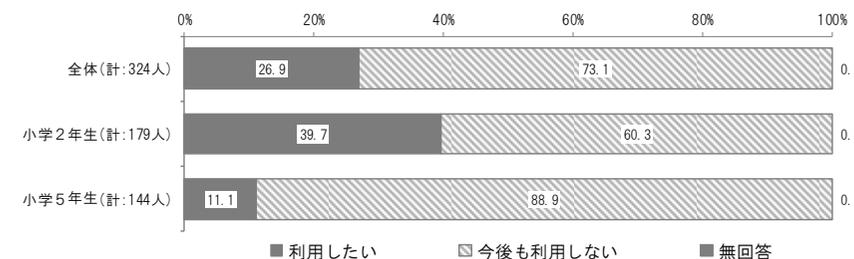
- ◆ 夏休みや冬休みなど、長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望について、全体では「利用している」と回答した人の割合が最も高く、86.5%となっています。次いで、「利用したくない(必要はない)」(7.7%)、「利用したい」(5.8%)となっています。
- ◆ 学年別にみると、小学2年生で「利用している」と回答した人の割合が、小学5年生より高くなっています。



(5) 今後の放課後児童クラブの利用希望

単数回答

- ◆ 今後、父母とも働く予定があるなどの理由で、放課後児童クラブを利用したいですかとたずねたところ、全体では「利用したい」と回答した人の割合は26.9%となっています。一方、「今後も利用しない」と回答した人の割合は73.1%となっています。
- ◆ 学年別にみると、小学2年生で「利用したい」と回答した人の割合が、小学5年生より高くなっています。

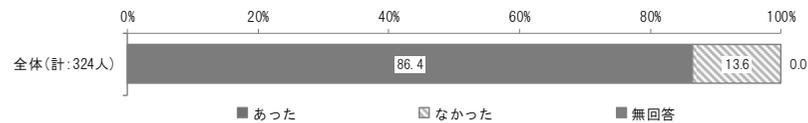


5. 病気になった時の対応や、不定期な一時預かり等の利用状況

(1) 病気やけがで小学校を休まなければならなかった経験

単数回答

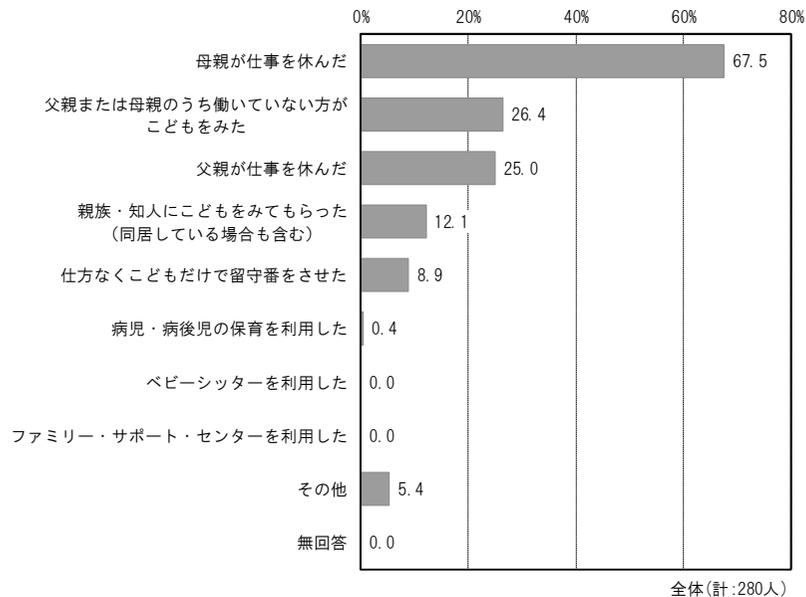
- ◆ この1年間に、お子さんが病気やけがで、小学校を休まなければならなかったことの有無について、「あった」と回答した人の割合は86.4%となっています。一方、「なかった」と回答した人の割合は13.6%となっています。



(2) 病気で小学校を休まなければならなかった場合の対処方法

複数回答

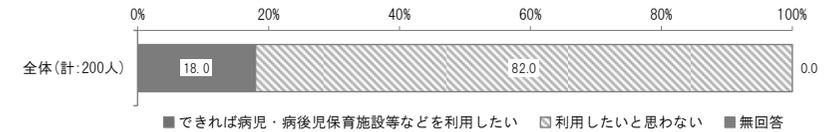
- ◆ お子さんが病気で小学校を休まなければならなかった場合の対処方法とその日数についてたずねたところ、「母親が休んだ」と回答した人の割合が最も高く、67.5%となっています。次いで、「父親または母親のうち働いていない方がこどもをみた」(26.4%)、「父親が仕事を休んだ」(25.0%)となっています。



(3) 病児・病後児のための保育施設等の利用希望

単数回答

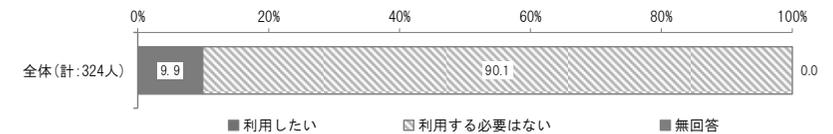
- ◆ 仕事を休んだときに「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたかとたずねたところ、「できれば病児・病後児保育施設等などを利用したい」と回答した人の割合は18.0%となっています。一方、「利用したいと思わない」と回答した人の割合は82.0%となっています。



(4) 子育て短期入所生活援助事業(ショートステイ)の利用希望

単数回答

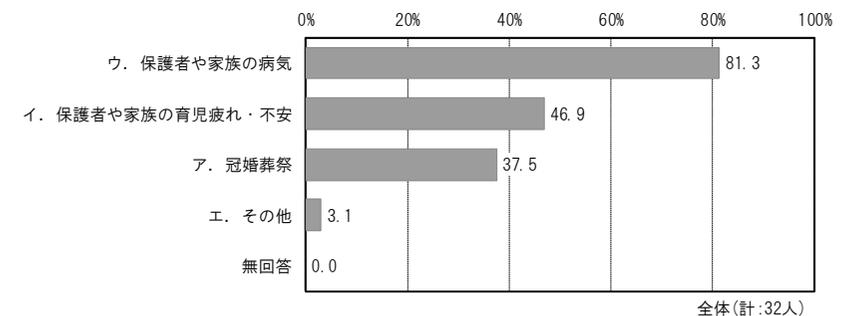
- ◆ 短期入所生活援助事業(ショートステイ)の利用希望の有無について、「利用したい」と回答した人の割合は9.9%となっています。一方、「利用する必要はない」と回答した人の割合は90.1%となっています。



●短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用したい目的

複数回答

- ◆ 短期入所生活援助事業の利用目的について、「ウ. 保護者や家族の病気」と回答した人の割合が最も高く、81.3%となっています。次いで、「イ. 保護者や家族の育児疲れ・不安」(46.9%)、「ア. 冠婚葬祭」(37.5%)となっています。

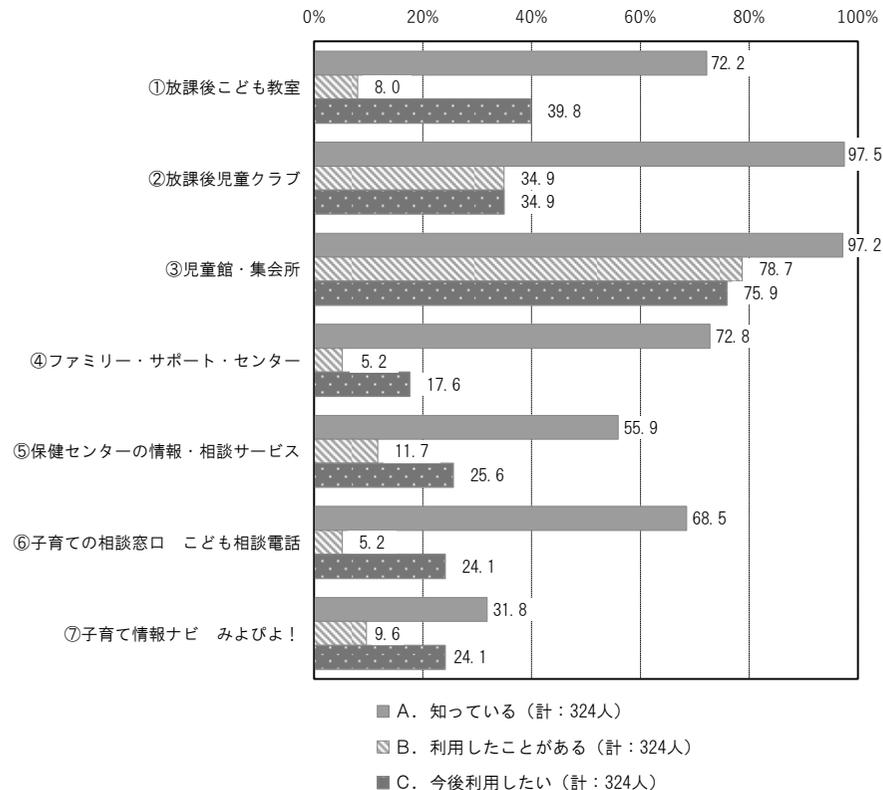


6. 地域の子育て支援サービスの利用状況

(1) 地域子育て支援サービスの利用状況と認知度

単数回答

- ◆ 「A. 知っている」サービスについて、「②放課後児童クラブ」と回答した人の割合が最も高く、97.5%となっています。次いで、「③児童館・集会所」(97.2%)、「④ファミリー・サポート・センター」(72.8%)となっています。
- ◆ 「B. 利用したことがある」サービスについて、「③児童館・集会所」と回答した人の割合が最も高く、78.7%となっています。次いで、「②放課後児童クラブ」(34.9%)、「⑤保健センターの情報・相談サービス」(11.7%)となっています。
- ◆ 「C. 今後利用したい」サービスについて、「③児童館・集会所」と回答した人の割合が最も高く、75.9%となっています。次いで、「①放課後こども教室」(39.8%)、「②放課後児童クラブ」(34.9%)となっています。

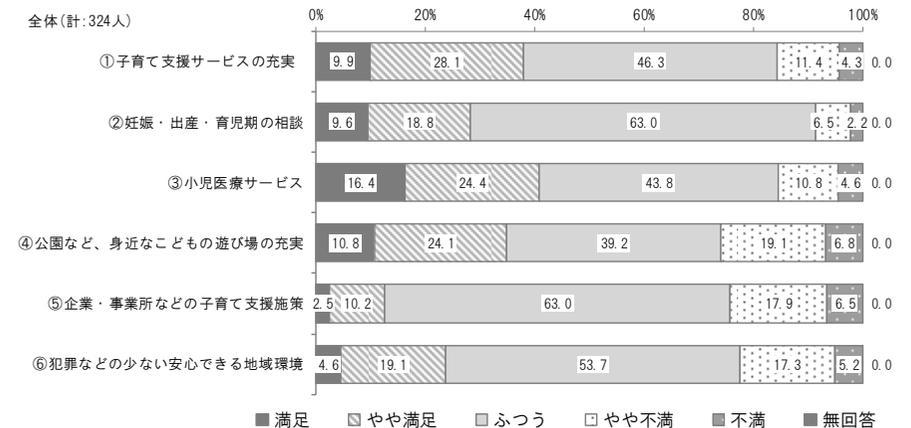


7. みよし市の子育て支援の現状に対する満足度

(1) 子育て支援事業の満足度

単数回答

- ◆ ①子育て支援サービスの充実について、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、46.3%となっています。次いで、「やや満足」(28.1%)、「やや不満」(11.4%)となっています。
- ◆ ②妊娠・出産・育児期の相談について、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、63.0%となっています。次いで、「やや満足」(18.8%)、「満足」(9.6%)となっています。
- ◆ ③小児医療サービスについて、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、43.8%となっています。次いで、「やや満足」(24.4%)、「満足」(16.4%)となっています。
- ◆ ④公園など、身近なこどもの遊び場の充実について、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、39.2%となっています。次いで、「やや満足」(24.1%)、「やや不満」(19.1%)となっています。
- ◆ ⑤企業・事業所などの子育て支援施策について、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、63.0%となっています。次いで、「やや不満」(17.9%)、「やや満足」(10.2%)となっています。
- ◆ ⑥犯罪などの少ない安心できる地域環境について、「ふつう」と回答した人の割合が最も高く、53.7%となっています。次いで、「やや満足」(19.1%)、「やや不満」(17.3%)となっています。



こどもの生活状況調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

子育て家庭の日ごろの生活や子育ての実態を把握することでみよし市におけるこどもの貧困対策のあり方を考えるとともに、安心して子育てをするために必要な取組を検討し、「みよし市こども計画」を策定するための基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査の対象

市内の小学校と中学校に通う全児童、生徒とその保護者

3. 調査の方法

学校を通じてアンケート案内文を配布し、Webアンケートにより回答

4. 調査の期間

令和6年2月28日～令和6年3月17日

※令和6年3月17日までにWebアンケートで回答があったものを有効回答として扱い、集計・分析を行いました。

5. 回答結果

	案内文配布数	回答数	回答率
小学生児童	3,646件	861件	23.6%
中学生生徒	1,855件	1,337件	72.1%
小学生児童の保護者	3,646件	912件	25.0%
中学生生徒の保護者	1,855件	439件	23.7%

※親子のマッチング状況 926件

6. 報告書の見方

- 回答は、各質問の回答者数（計）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、グラフには「0.0」と表記しています。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 基本属性等とのクロス集計は、原則として、表側の各属性等の「無回答」を表示していません。ただし、「全体」は属性の「無回答」を含んでいます。
- 集計によっては、回答者数が10人未満と非常に少ない場合もあり、このような集計は参考程度として見る必要があります。
- グラフや表およびコメントにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合があります。
- 小学校低学年は小学1～3年生、小学校高学年は小学4～6年生を集計しています。

7. 本市における分析区分

本調査では、下記3つの視点から分析を行いました。なお、下記の区分は本市の現状を把握するためのひとつの目安として定義したものであり、区分されたすべての世帯が実際に困窮しているということではありません。

(1) 所得区分（相対的貧困）

本調査では、経済状況による影響を分析するため、世帯収入（税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入）と生計を共にしている人数を用いて、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）を算出しました。可処分所得の算出にあたっては、世帯収入の中央値を用いています（例：50万未満の場合は25万円）。

分類にあたっては、厚生労働省の「2019年国民生活基礎調査」における貧困線（122万円）に基づき、愛知県と同様、以下の4つの区分に分類しています。

所得4区分表

区分の名称	等価可処分所得	貧困線をベースにした係数
所得区分Ⅰ	122万円以下	国民生活基礎調査の貧困線以下
所得区分Ⅱ	183万円以下	国民生活基礎調査の貧困線の1.5倍以下
所得区分Ⅲ	244万円以下	国民生活基礎調査の貧困線の2.0倍以下
所得区分Ⅳ	244万円より上	国民生活基礎調査の貧困線の2.0倍より上

(2) 生活困窮世帯

低所得による経済的困窮だけでは貧困の実態を十分に捉えられないとは限らないため、剥奪指標を用い、生活困窮の状況について多面的な把握に努めることとしました。

具体的には、経済的理由により、必要な「食料」や「衣服」が購入できなかったり「電気料金」や「ガス料金」などの公共料金の支払いができなかったりした世帯を「生活困窮世帯」と定義し、本市独自指標として分析軸に加えました。

※剥奪指標の1つ以上に該当した場合は「生活困窮世帯」と定義

(3) ひとり親

困窮世帯が多いと言われている「ひとり親世帯」について、本市独自指標として分析軸に加えました。

※愛知県と同様、保護者の人数により「ひとり親世帯」を定義

第2章 調査結果

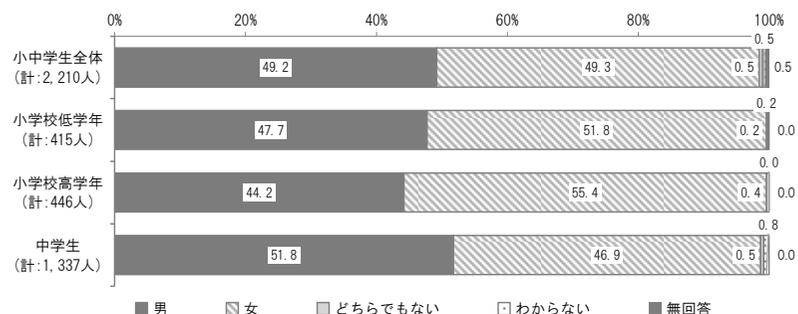
1. 基本属性

(1) 性別・年齢

① お子さんの性別

<小学生・中学生票>問2 あなたの性別について○をつけてください。(○はひとつ)

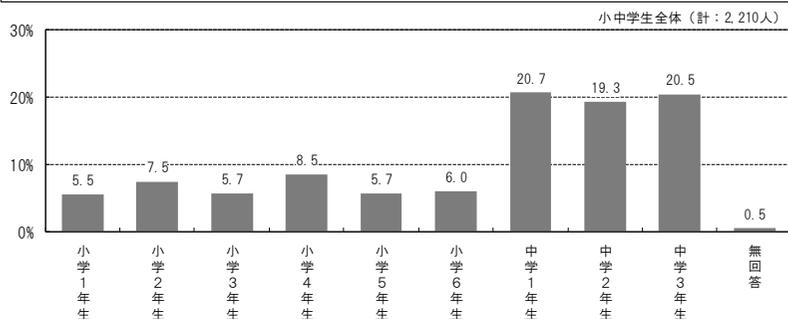
◆ 性別について、小中学生全体では「女」と回答した児童・生徒の割合が49.3%、「男」は49.2%となっており、「どちらでもない」、「わからない」はともに0.5%となっています。



② お子さんの学年

<小学生・中学生票>問3 あなたは小学生ですか。それとも中学生ですか。(○はひとつ)

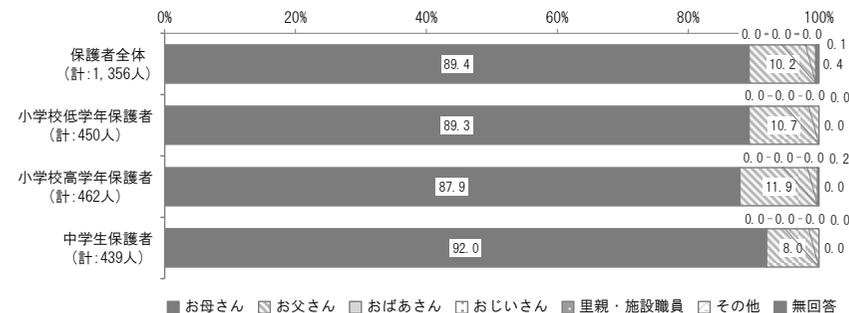
◆ 回答者の学年は、小中学生全体では「中学1年生」の割合が最も高く、20.7%となっています。次いで、「中学3年生」(20.5%)、「中学2年生」(19.3%)となっています。



(2) 回答者の属性

<保護者票>問4 この調査票を回答している方は、お子さんから見てどなたにあたりますか。(○はひとつ)

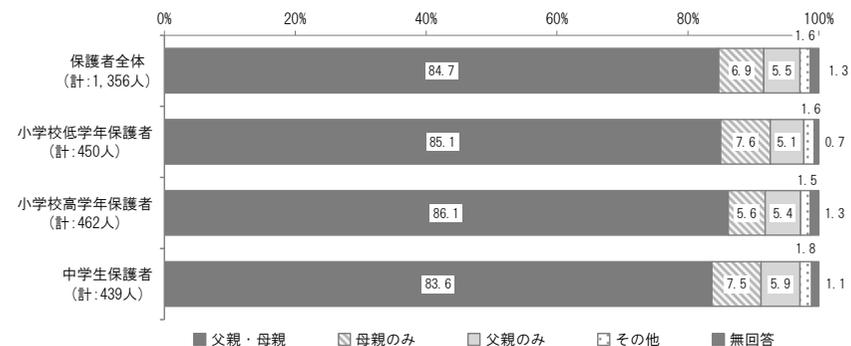
◆ 回答した保護者の属性について、保護者全体では「お母さん」と回答した保護者の割合が最も高く、89.4%となっています。次いで、「お父さん」(10.2%)、「その他」(0.1%)となっています。



(3) 生計を同一とする家族

<保護者票>問3 7 問3 6の生計を共にしている方について、お子さんからみた関係(続柄)にあてはまるすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

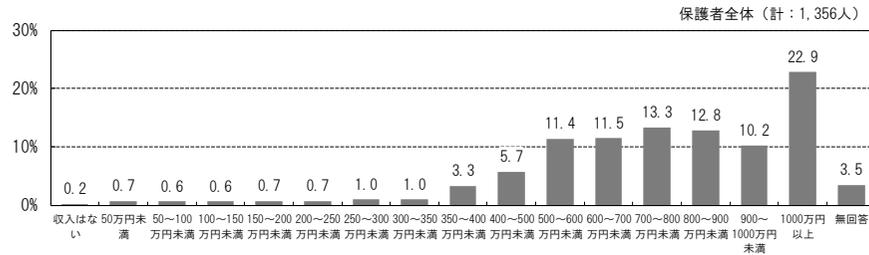
◆ 生計が同じ家族について、保護者全体では「父親・母親」の割合が最も高く、84.7%となっています。次いで、「母親のみ」(6.9%)、「父親のみ」(5.5%)となっています。



(4) 世帯収入

<保護者票>問38 あなたのご家庭の全員の収入を合わせた「世帯の収入（年間のボーナスを含む手取り額）」を教えてください。単身赴任や進学などで、一時的に別居している方も含みます。（〇はひとつ）

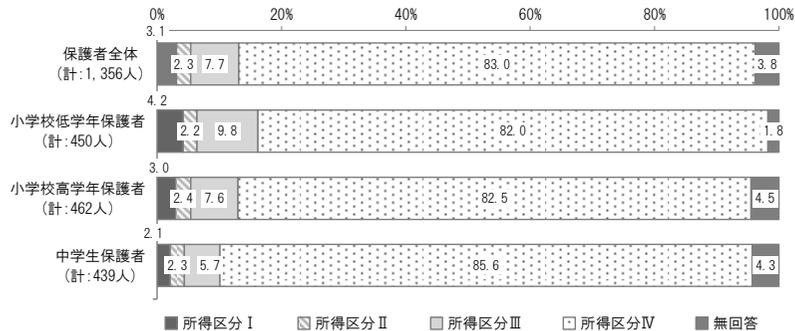
◆ 世帯の年間手取り収入について、保護者全体では「1000万円以上」と回答した保護者の割合が最も高く、22.9%となっています。次いで、「700～800万円未満」（13.3%）、「800～900万円未満」（12.8%）となっています。



(5) 困窮分類

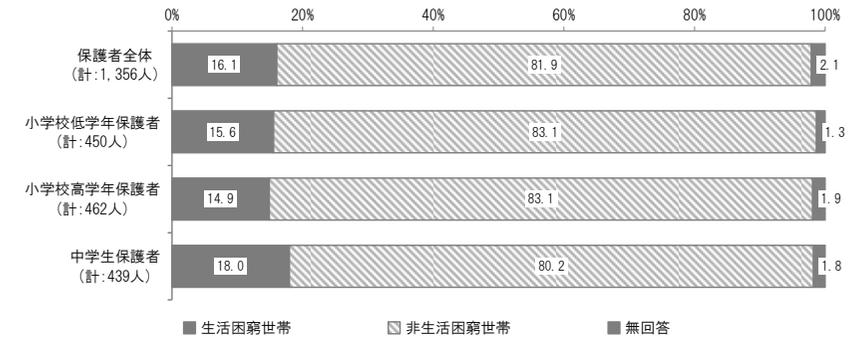
① 所得区分

◆ 保護者票の問38の世帯収入と問36の生計を共にしている人数を用いて算出した等価可処分所得による所得区分について、保護者全体では「所得区分Ⅳ」と回答した保護者の割合が最も高く、83.0%となっています。次いで、「所得区分Ⅲ」（7.7%）、「所得区分Ⅰ」（3.1%）となっています。



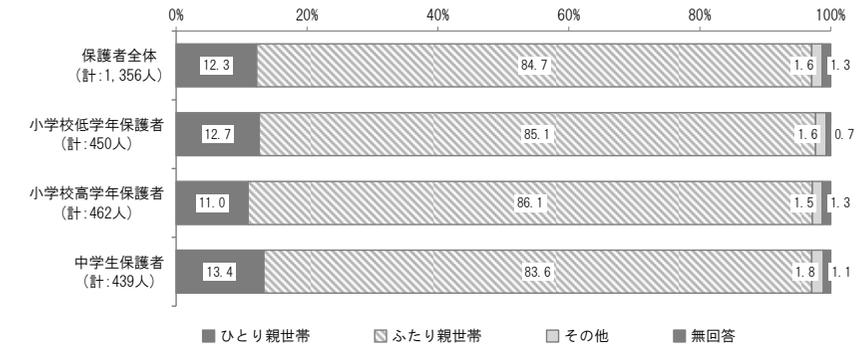
② 生活困窮世帯

◆ 保護者票の問27（「2～4」のいずれかと回答）を用いて、生活困窮の状況を見たところ、保護者全体では「生活困窮世帯」の割合は16.1%となっています。一方、「非生活困窮世帯」の割合は81.9%となっています。



③ ひとり親世帯

◆ 保護者票の問37を用いてひとり親の状況を見たところ、保護者全体では「ひとり親世帯」の割合は12.3%となっています。一方、「ふたり親世帯」の割合は84.7%となっています。

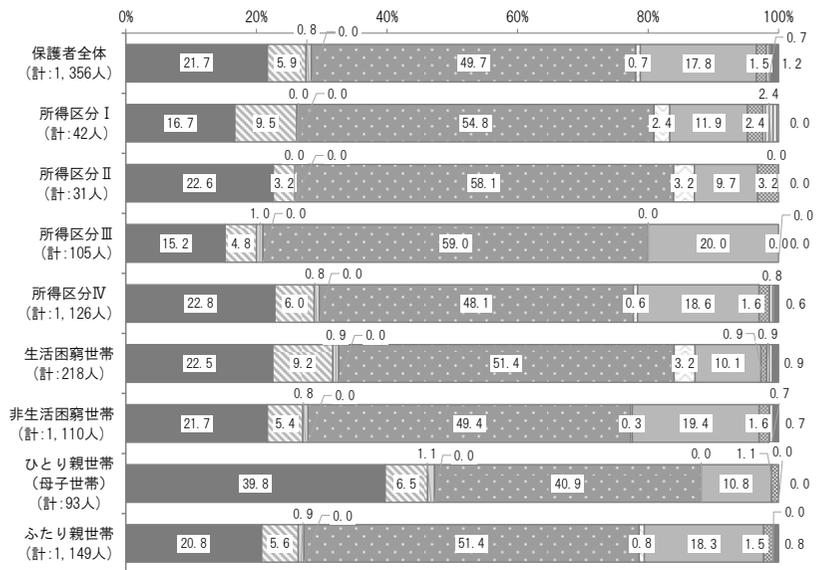


2. 保護者の状況

(1) 母親の就労状況

<保護者票>問30 「母親」の働いている状況についてお伺いします。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

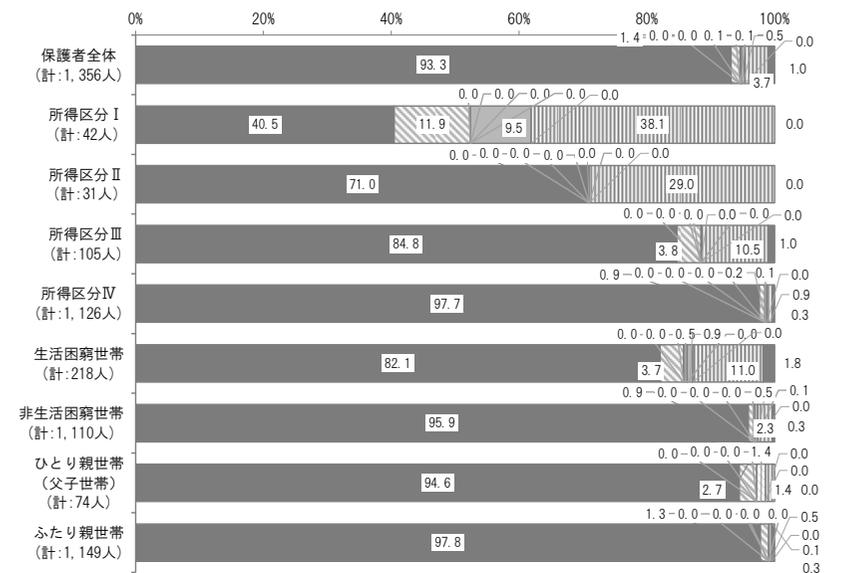
- ◆ 母親の就労形態について、保護者全体では「パート・アルバイトなどで働いている」と回答した保護者の割合が最も高く、49.7%となっています。次いで、「正規のフルタイムで働いている（正社員、正職員など）」(21.7%)、「以前は働いていたが、今は働いていない」(17.8%)となっています。
- ◆ 所得区分別では、所得が低いほど「以前は働いていたが、今は働いていない」と回答した人の割合が低くなっています。
- ◆ 非生活困窮世帯では、「以前は働いていたが、今は働いていない」と回答した人の割合が19.4%に対し、生活困窮世帯ではその割合が10.1%と低くなっています。
- ◆ ふたり親世帯では、「正規のフルタイムで働いている」と回答した人の割合が20.8%に対し、ひとり親世帯ではその割合が39.8%と高くなっています。



- 正規のフルタイムで働いている
- 正規のフルタイムで働いているが、今は休んでいる
- パート・アルバイトなどで働いている
- 以前は働いていたが、今は働いていない
- 母親はいない
- 非正規のフルタイムで働いている
- 非正規のフルタイムで働いているが、今は休んでいる
- パート・アルバイトなどで働いているが、今は休んでいる
- これまで働いたことがない
- 無回答

(2) 父親の就労状況

- ◆ 父親の就労形態について、保護者全体では「正規のフルタイムで働いている（正社員、正職員など）」と回答した保護者の割合が最も高く、93.3%となっています。次いで、「父親はいない」(3.7%)、「非正規のフルタイムで働いている（契約社員、嘱託職員、臨時職員など）」(1.4%)となっています。
- ◆ 所得区分別では、所得が低いほど「正規のフルタイムで働いている（正社員、正職員など）」と回答した人の割合が低くなっています。
- ◆ 非生活困窮世帯では、「正規のフルタイムで働いている（正社員、正職員など）」と回答した人の割合が95.9%に対し、生活困窮世帯ではその割合が82.1%と低くなっています。また、生活困窮世帯では「非正規のフルタイムで働いている（契約社員、嘱託職員、臨時職員など）」、「父親はいない」と回答した人の割合が非生活困窮世帯より高くなっています。
- ◆ ふたり親世帯では、「正規のフルタイムで働いている（正社員、正職員など）」と回答した人の割合が97.8%に対し、ひとり親世帯ではその割合が94.6%とやや低くなっています。



- 正規のフルタイムで働いている
- 正規のフルタイムで働いているが、今は休んでいる
- パート・アルバイトなどで働いている
- 以前は働いていたが、今は働いていない
- 父親はいない
- 非正規のフルタイムで働いている
- 非正規のフルタイムで働いているが、今は休んでいる
- パート・アルバイトなどで働いているが、今は休んでいる
- これまで働いたことがない
- 無回答

3. こどもの学校生活・学習状況

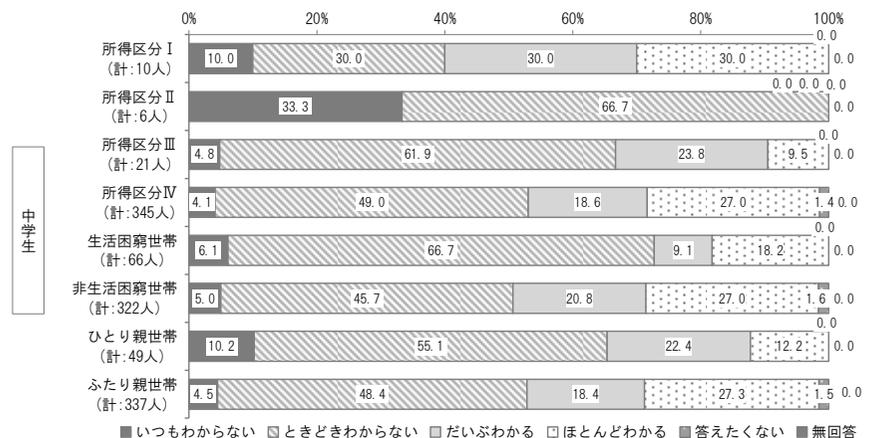
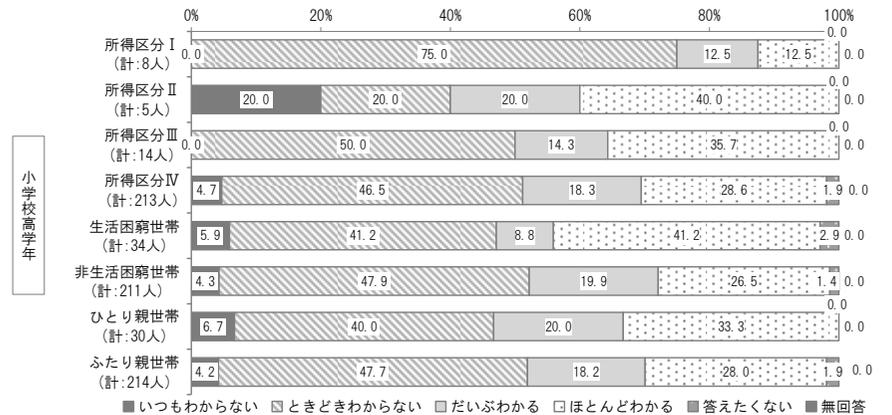
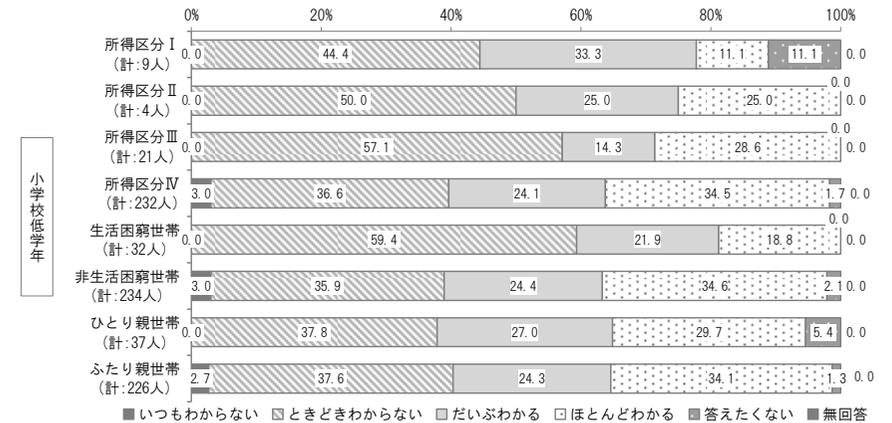
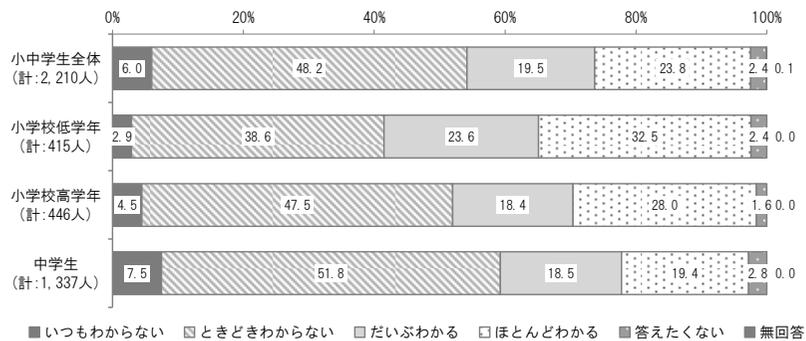
(1) 学習意欲・習熟

① 学習の習熟度

<小学生・中学生票>問25 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。
(○はひとつ)。

- ◆ 学校の授業がわからないことがありますかとたずねたところ、小中学生全体では「ときどきわからない」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、48.2%となっています。次いで、「ほとんどわかる」(23.8%)、「だいぶわかる」(19.5%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ときどきわからない」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活困窮世帯で「わからない(「いつもわからない」+「ときどきわからない)」と回答した児童の割合が所得区分Ⅳ、非生活困窮世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅱを除き小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ときどきわからない」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「わからない(「いつもわからない」+「ときどきわからない)」と回答した児童の割合が所得区分Ⅰ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、所得区分Ⅰを除き小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ときどきわからない」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「わからない(「いつもわからない」+「ときどきわからない)」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。

【授業の習熟度(小学生・中学生票 問25)】



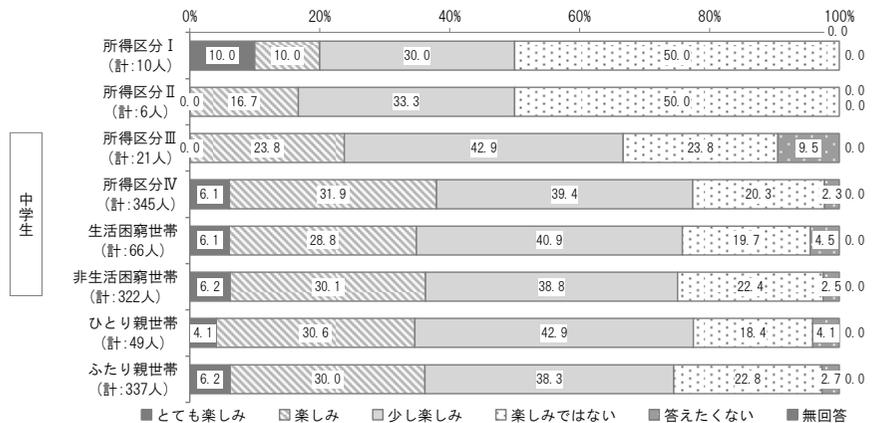
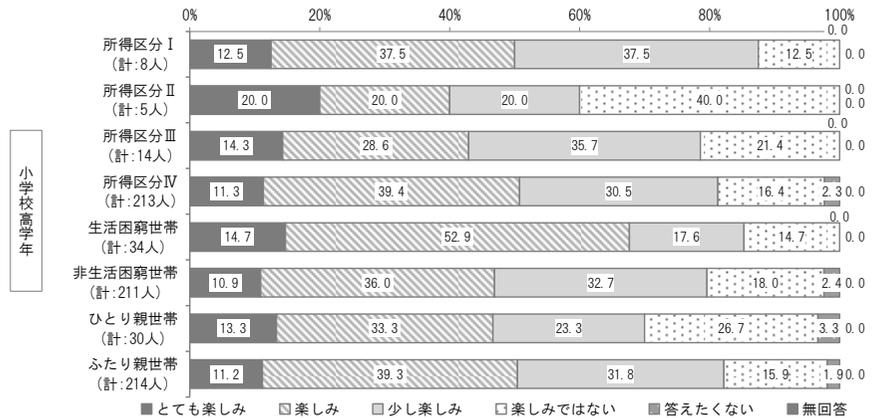
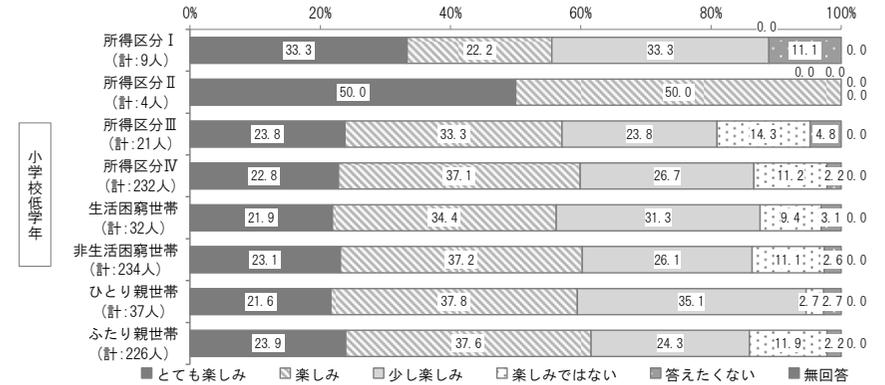
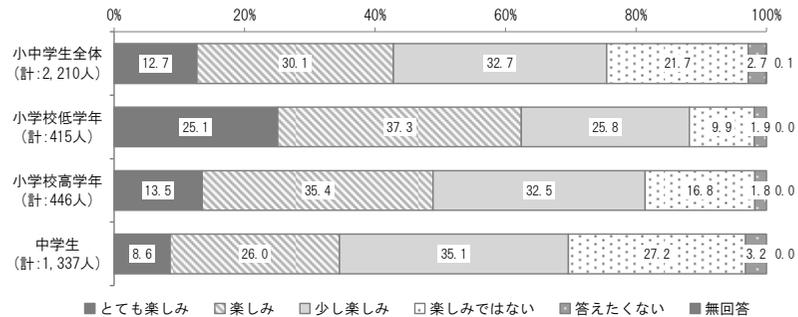
② 学習意欲

a) 授業の楽しみ

<小学生・中学生票>問19 あなたの学校での生活についてお聞きます。次のア～キについて、もっともあてはまる番号に○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

- ◆ 授業をうけることについて、小中学生全体では「少し楽しみ」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、32.7%となっています。次いで、「楽しみ」(30.1%)、「楽しみではない」(21.7%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅰ・Ⅱで「楽しみ(「とても楽しみ」+「楽しみ」+「少し楽しみ」)」と回答した児童の割合が高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「楽しみ(「とても楽しみ」+「楽しみ」+「少し楽しみ」)」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅰ、生活困窮世帯で「楽しみ(「とても楽しみ」+「楽しみ」+「少し楽しみ」)」と回答した児童の割合が高くなっています。ひとり親世帯で「楽しみ(「とても楽しみ」+「楽しみ」+「少し楽しみ」)」と回答した児童の割合がふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、所得が低いほど「楽しみ(「とても楽しみ」+「楽しみ」+「少し楽しみ」)」と回答した生徒の割合が低くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「楽しみ(「とても楽しみ」+「楽しみ」+「少し楽しみ」)」と回答した生徒の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯よりやや高くなっています。

【授業をうけることについて (小学生・中学生票 問19 ア.)】

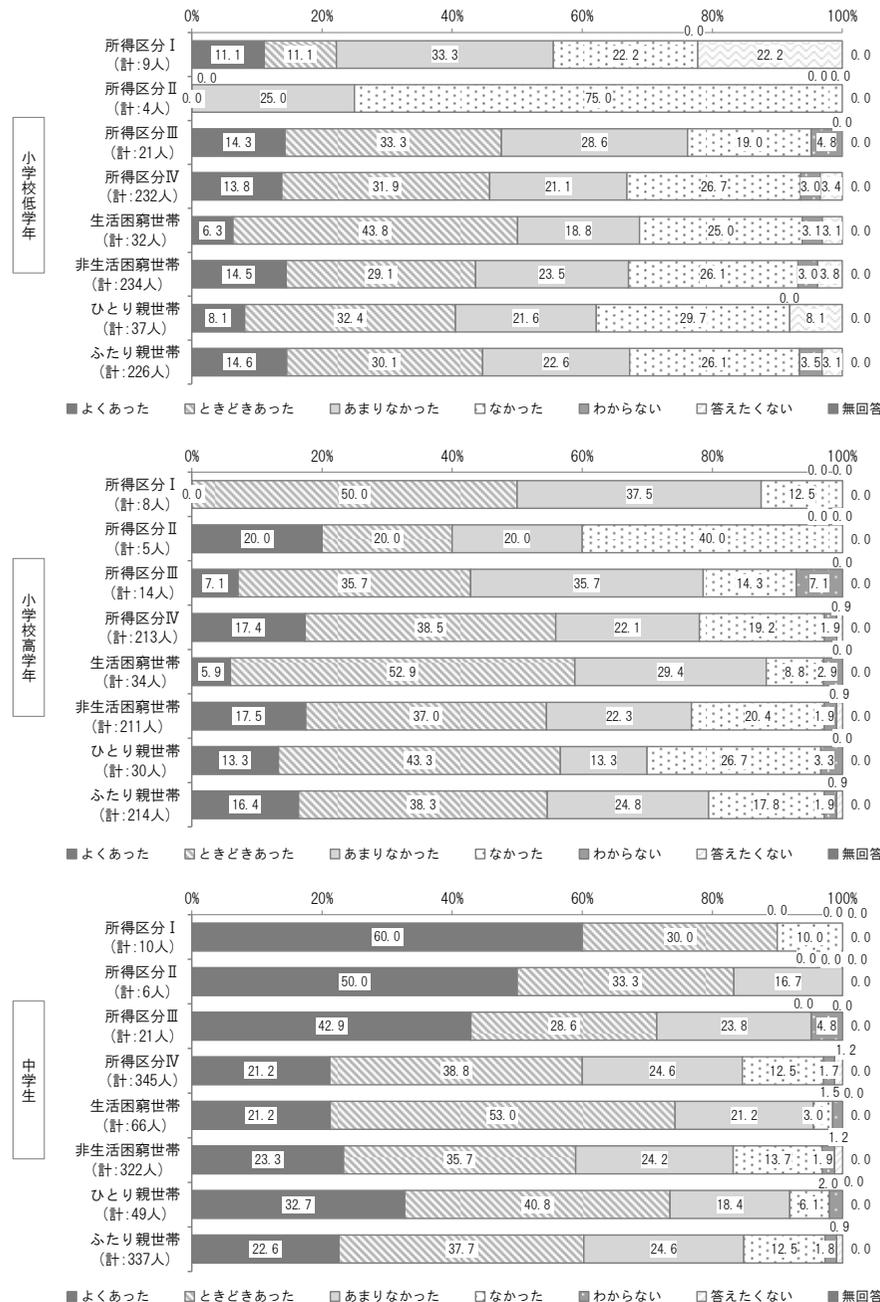
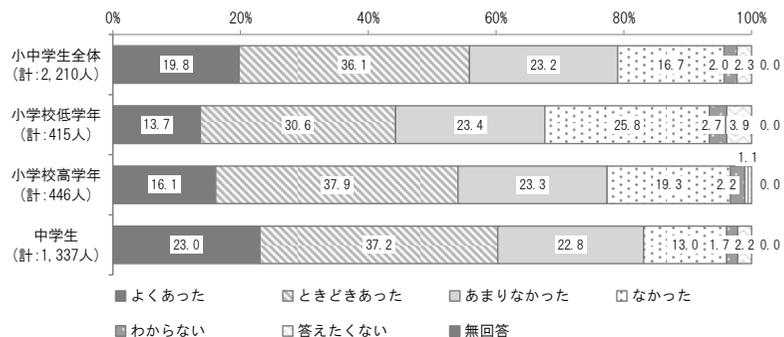


b) 学校生活

<小学生・中学生票>問31 あなたは、これまでにア～オのようなことはありましたか。
(それぞれ○はひとつ)

- ◆ 学校に行きたくないと思ったことがあるかについて、小中学生全体では「ときどきあった」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、36.1%となっています。次いで、「あまりなかった」(23.2%)、「なかった」(23.2%)、「よくあった」(19.8%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅲ・Ⅳで「あった(「よくあった」+「ときどきあった」)」と回答した児童の割合が高くなっています。生活困窮世帯で「あった(「よくあった」+「ときどきあった」)」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅱを除き「ときどきあった」と回答した児童の割合が最も高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「あった(「よくあった」+「ときどきあった」)」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを除き「ときどきあった」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。所得区分が低いほど「あった(「よくあった」+「ときどきあった」)」と回答した生徒の割合が高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「あった(「よくあった」+「ときどきあった」)」と回答した生徒の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。

【学校に行きたくないと思ったこと (小学生・中学生票 問31 ア.)】



③ 学習スペース・学習時間の確保

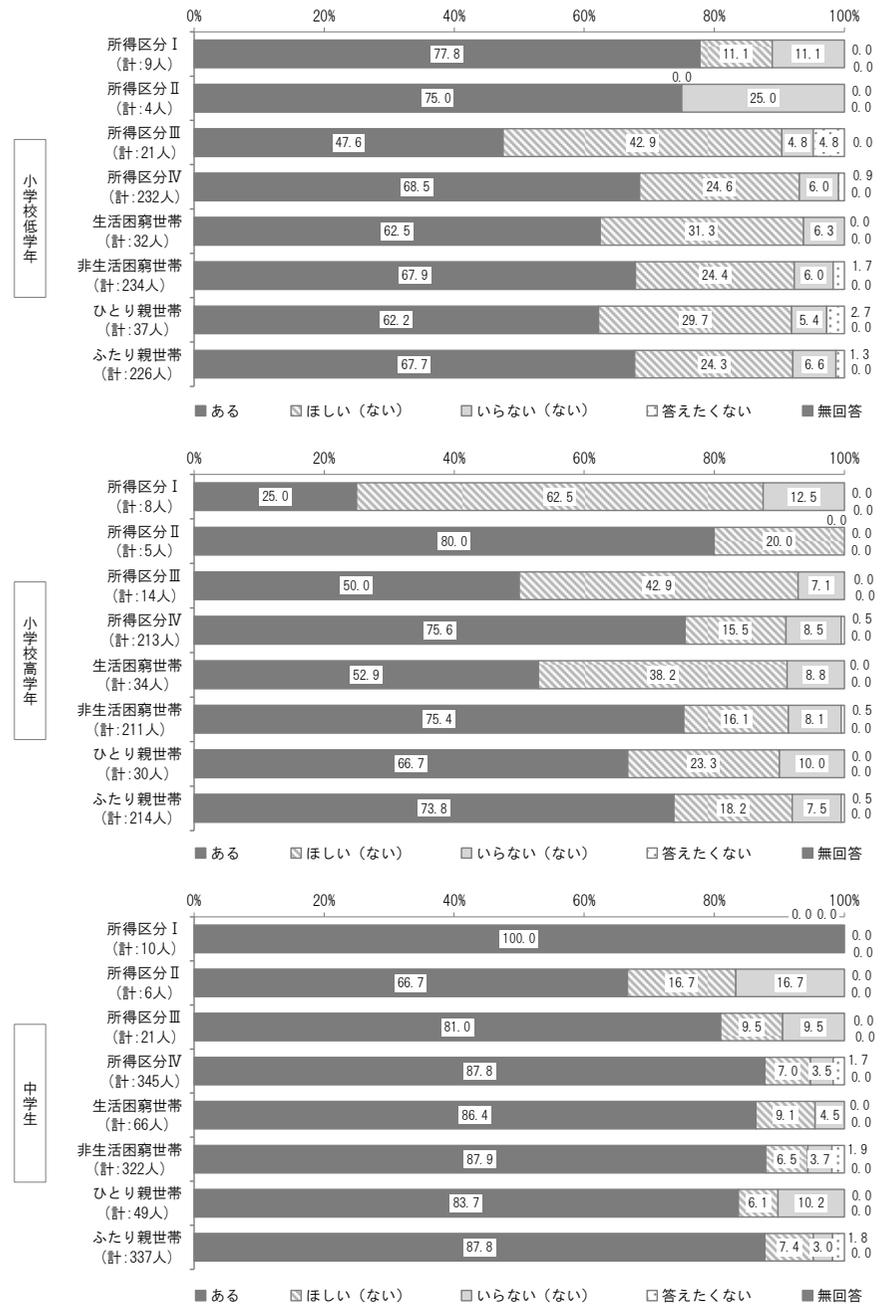
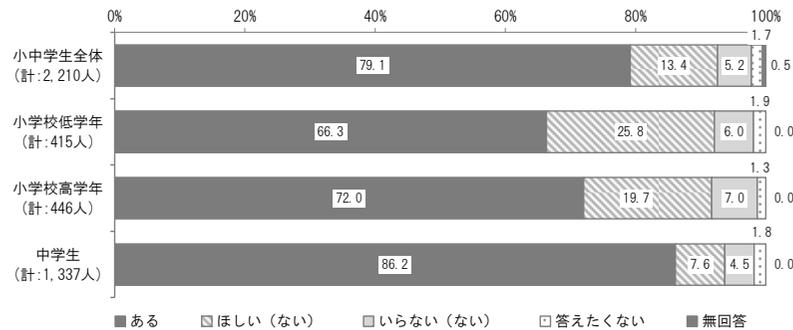
a) こども部屋の有無

<小学生・中学生票>問12 あなたは、自分が使うことができるものはありますか。
(〇はひとつ)

●こども部屋 (きょうだいと一緒に使っている場合も含む)

- ◆ 自分のこども部屋がありますかとたずねたところ、小中学生全体では「ある」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、79.1%となっています。次いで、「ほしい(ない) (13.4%)」、「いない(ない) (5.2%)」となっています。
- ◆ 小学校低学年では、小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ある」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「ある」と回答した児童の割合が所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅰを除き小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ある」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「ある」と回答した児童の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ある」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「ある」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

【こども部屋の有無 (小学生・中学生票 問12 ア.)】

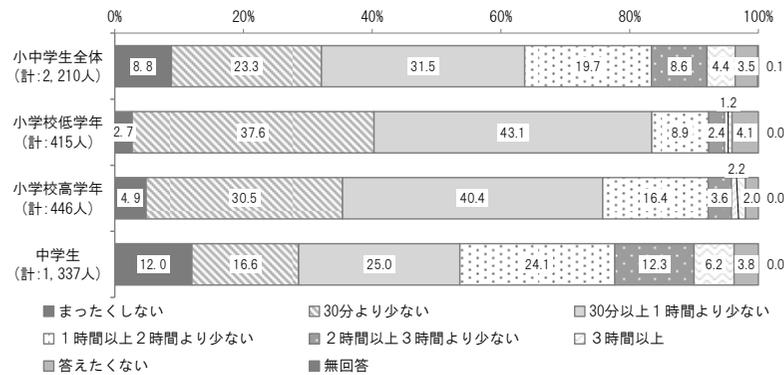


b) 家庭での学習時間

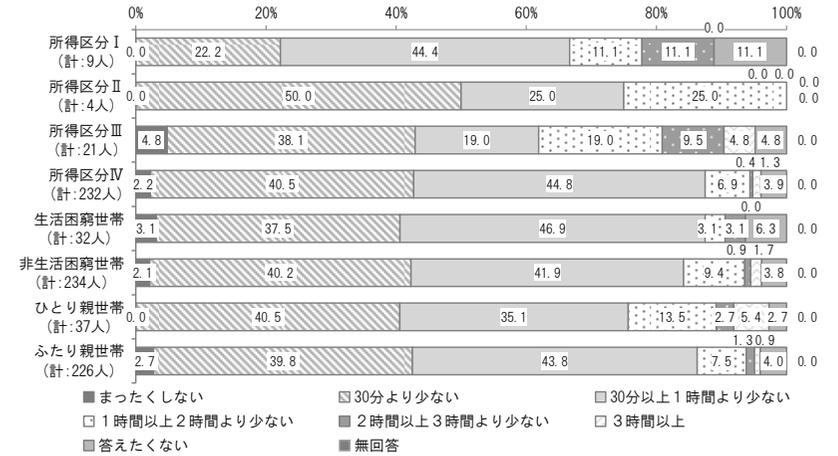
<小学生・中学生票>問23 あなたは、下校後、どれくらい勉強をしますか。
 ※宿題をする時間や塾などで勉強する時間も含まれます。(○はひとつ)

- ◆ 下校後、どれくらい勉強をしますかとたずねたところ、小中学生全体では「30分以上1時間より少ない」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、31.5%となっています。次いで、「30分より少ない」(23.3%)、「1時間以上2時間より少ない」(19.7%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅱ・Ⅲ、ひとり親世帯を除き困窮分類に関わらず「30分以上1時間より少ない」と回答した児童の割合が最も高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅰ・Ⅱを除き困窮分類に関わらず「30分以上1時間より少ない」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「まったくしない」と回答した児童の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、小中学生全体と比べ「1時間以上2時間より少ない」、「2時間以上3時間より少ない」と回答した生徒の割合が高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、ひとり親世帯で「まったくしない」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、ふたり親世帯より高くなっています。

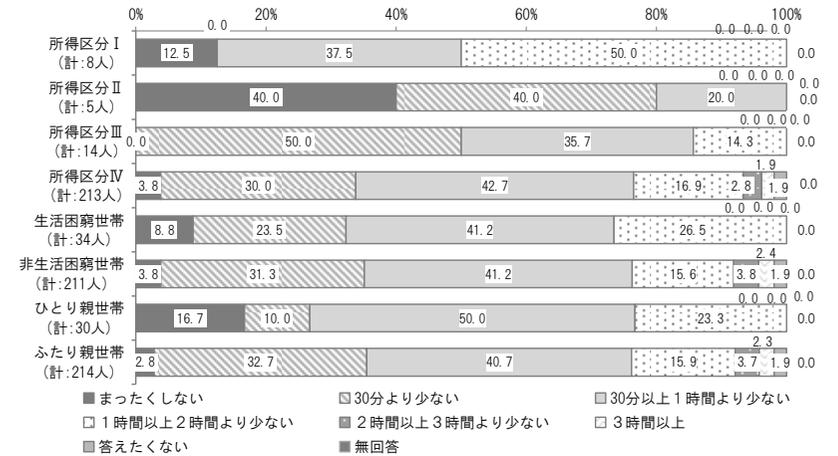
【家庭での学習時間 (小学生・中学生票 問23)】



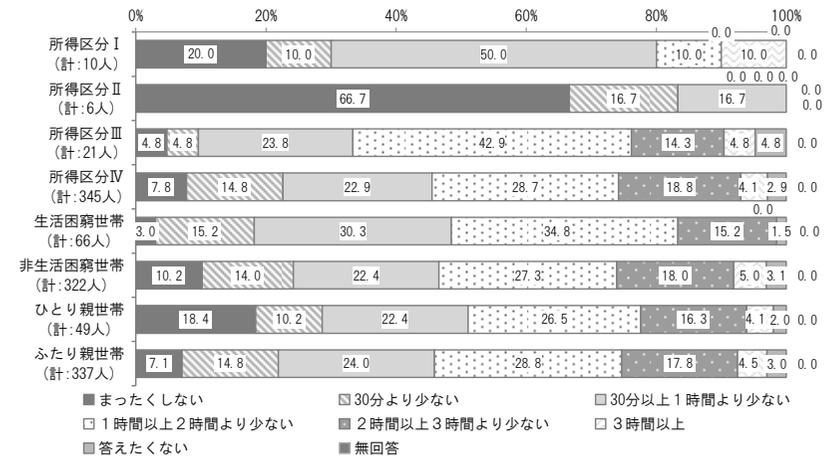
小学校低学年



小学校高学年



中学生



(2) 進学・進路

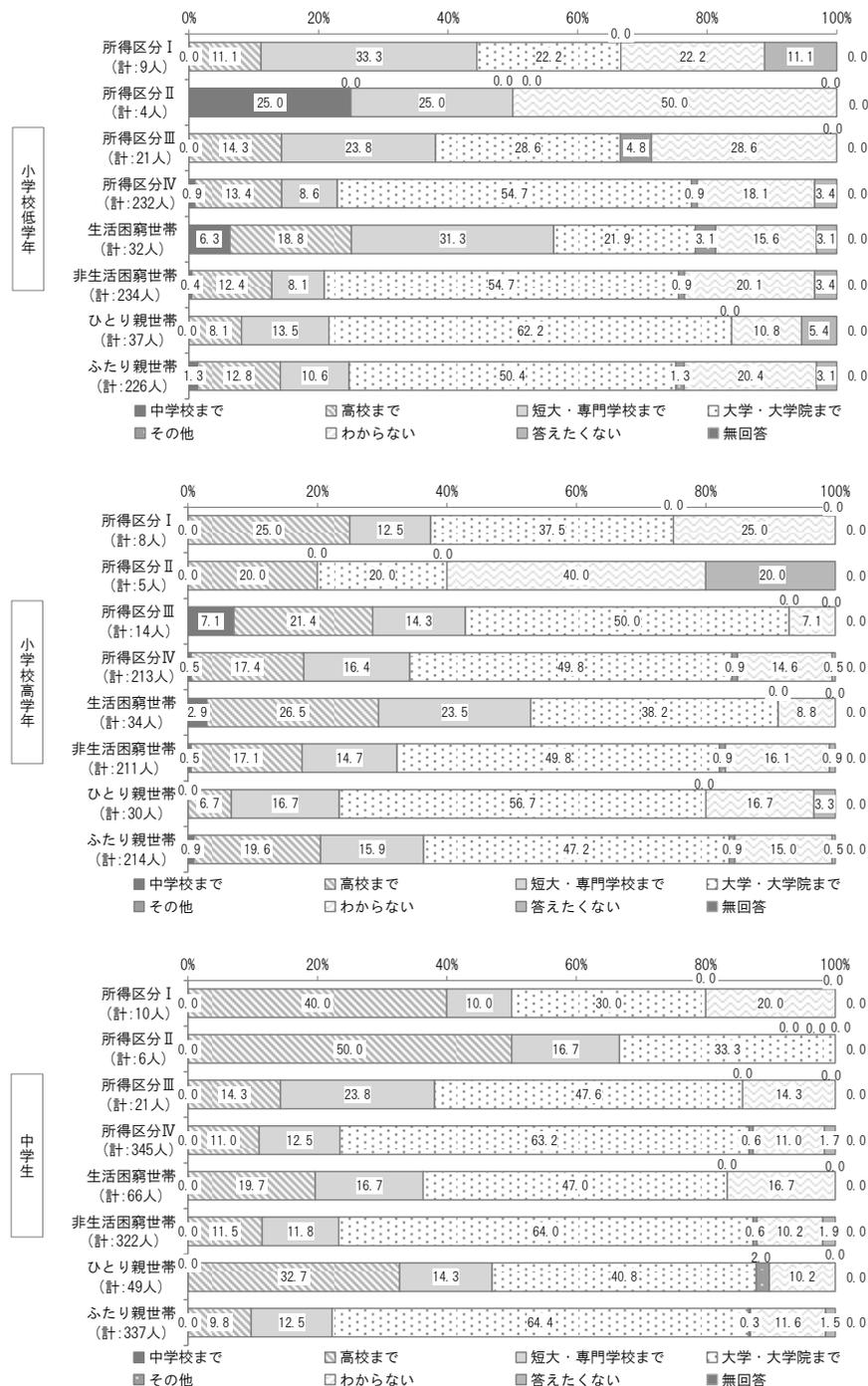
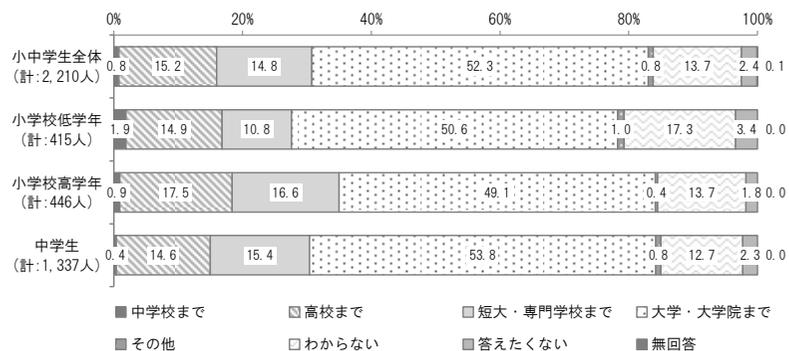
① 進学希望

a) こどもの進学希望

<小学生・中学生票>問27 あなたは、将来どの学校まで行きたいですか。(〇はひとつ)

- ◆ 将来どの学校まで行きたいですかとたずねたところ、小中学生全体では「大学・大学院まで」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、52.3%となっています。次いで、「高校まで」(15.2%)、「短大・専門学校まで」(14.8%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯を除き困窮分類に関わらず「大学・大学院まで」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活困窮世帯で「大学・大学院まで」と回答した児童の割合が所得区分Ⅳ、非生活困窮世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅱを除き困窮分類に関わらず「大学・大学院まで」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯で「大学・大学院まで」と回答した児童の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、所得区分Ⅰ・Ⅱを除き困窮分類に関わらず「大学・大学院まで」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「大学・大学院まで」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

【進学希望 (小学生・中学生票 問27)】



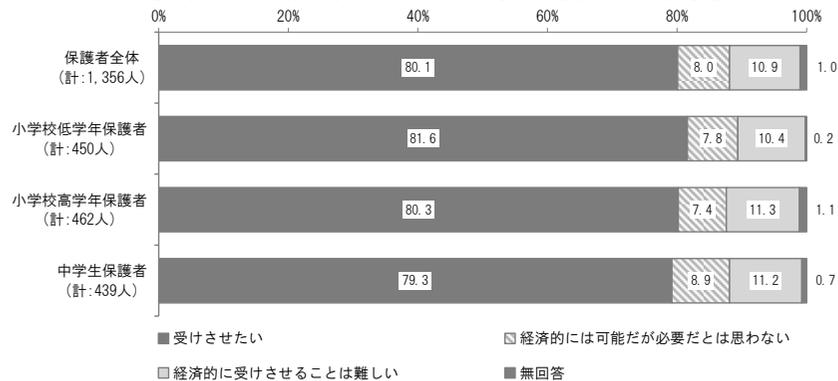
b) こどもに対する保護者の進学希望

<保護者票>問9 あなたのご家庭では、お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。(それぞれ○はひとつ)

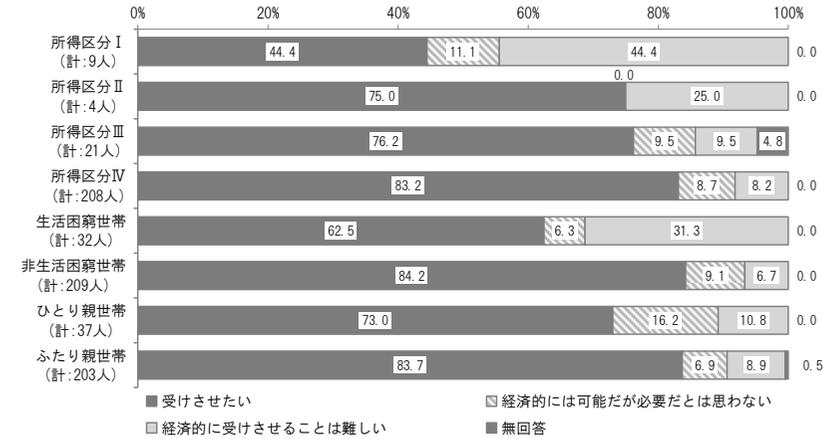
●大学・大学院までの教育

- ◆ 大学・大学院までの教育について、保護者全体では「受けさせたい」と回答した保護者の割合が最も高く、80.1%となっています。次いで、「経済的に受けさせることは難しい」(10.9%)、「経済的には可能だが必要だとは思わない」(8.0%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「受けさせたい」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「受けさせたい」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「受けさせたい」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅱ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「受けさせたい」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅰ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「受けさせたい」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「受けさせたい」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

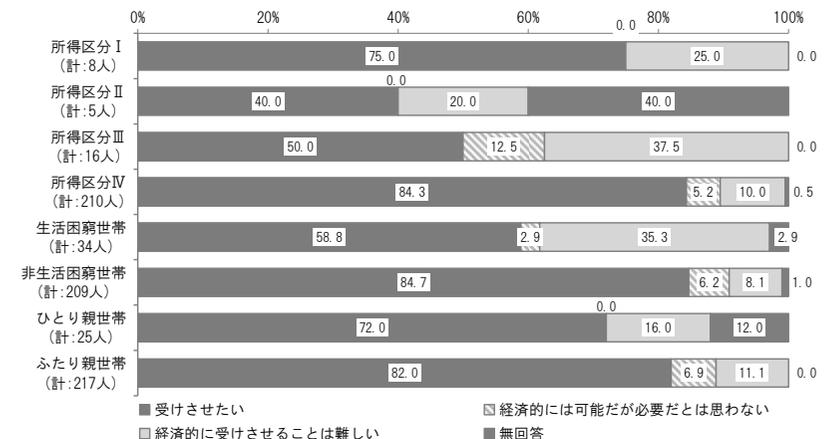
【進学希望（保護者票 問9 ウ. 大学・大学院までの教育）】



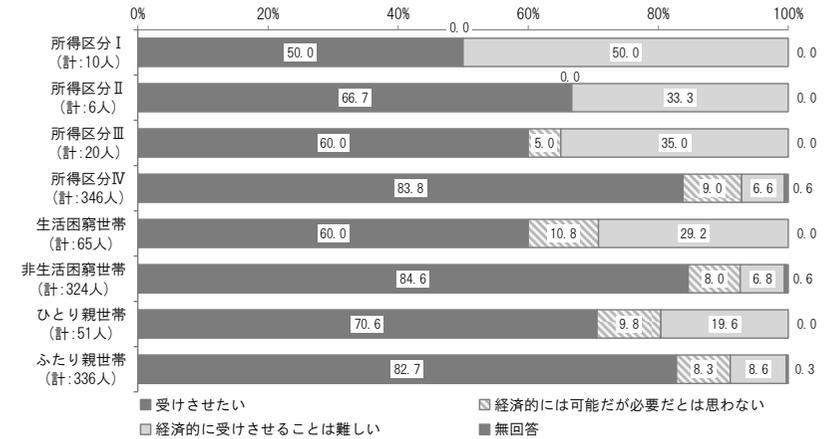
小学校低学年保護者



小学校高学年保護者



中学生保護者



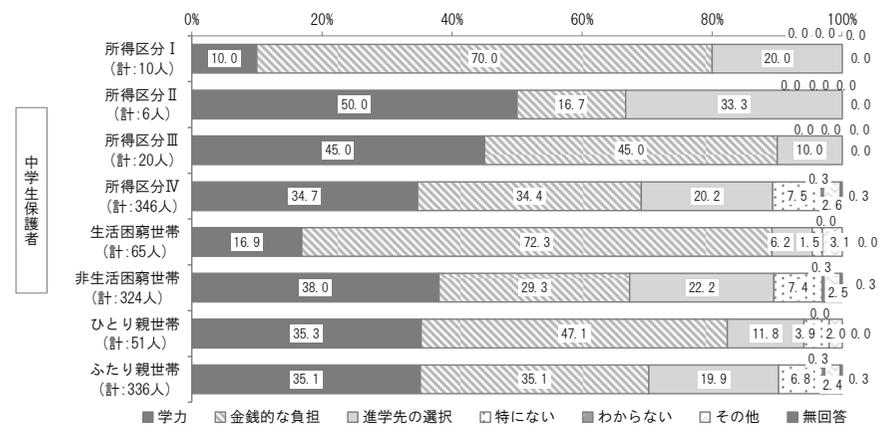
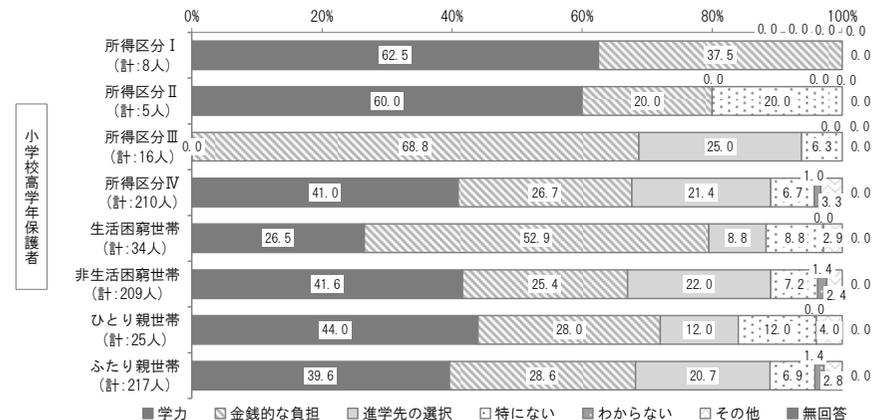
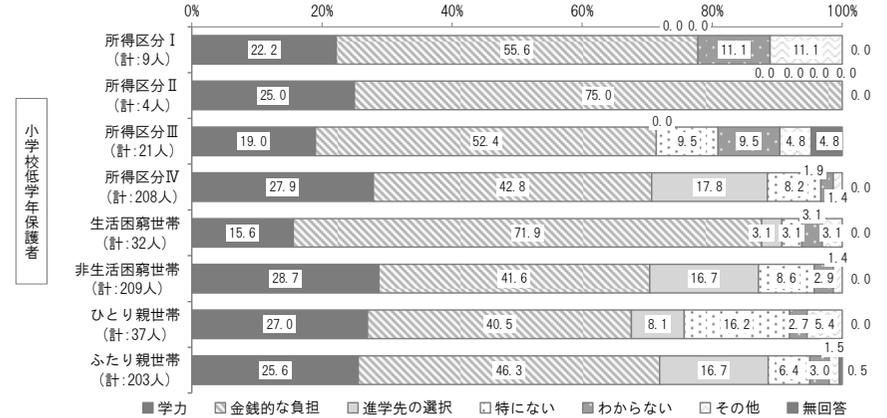
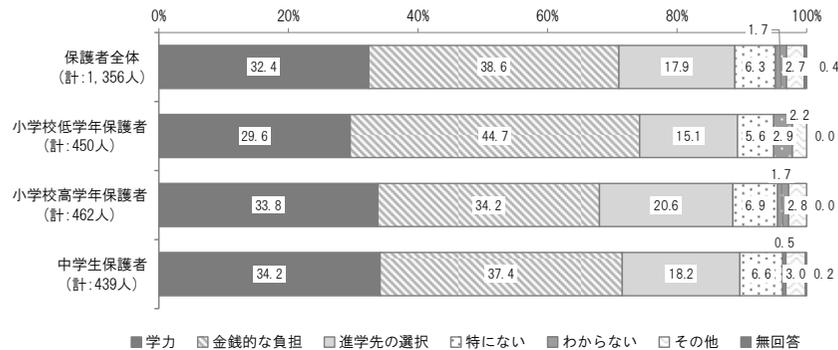
② 進学への準備

a) 進学させる際の心配ごと

<保護者票>問10 お子さんを将来希望する学校まで進学させる際、もっとも心配なことは何ですか。(〇はひとつ)

- ◆ お子さんを将来希望する学校まで進学させる際、もっとも心配なことは何ですかとたずねたところ、保護者全体では「金銭的な負担」と回答した保護者の割合が最も高く、38.6%となっています。次いで、「学力」(32.4%)、「進学先の選択」(17.9%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、概ね保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「金銭的な負担」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅱ、生活困窮世帯で「金銭的な負担」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、困窮分類に関わらず「学力」、「金銭的な負担」と回答した保護者の割合が高くなっています。生活困窮世帯で「金銭的な負担」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、困窮分類に関わらず「学力」、「金銭的な負担」と回答した保護者の割合が高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「金銭的な負担」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。

【進学への心配ごと（保護者票 問10）】

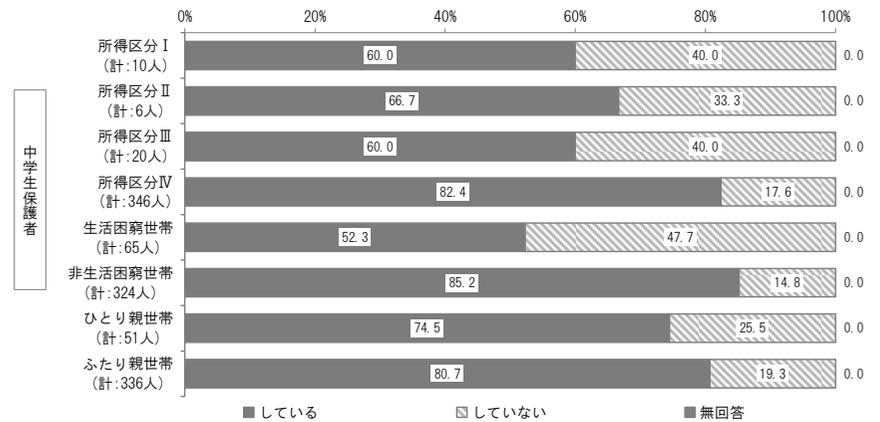
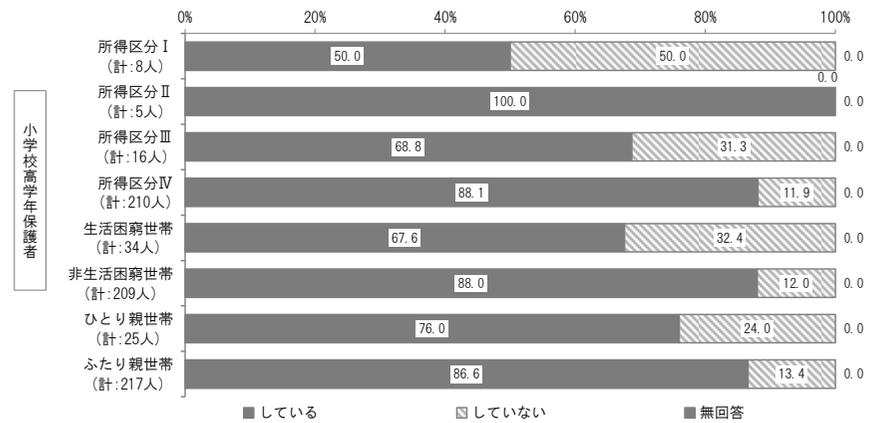
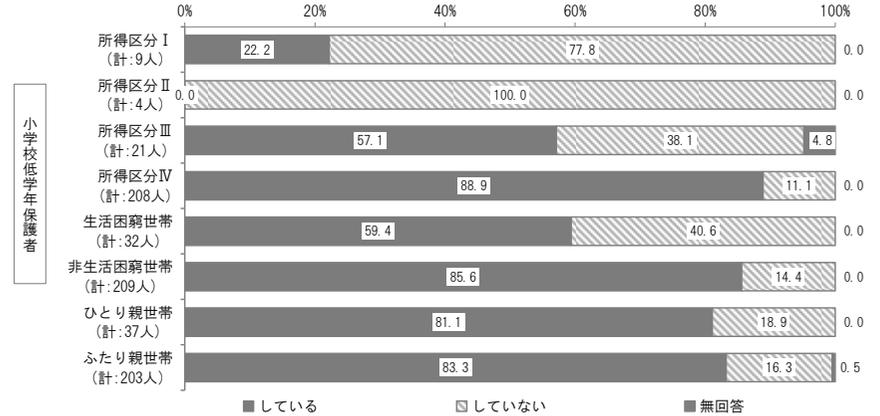
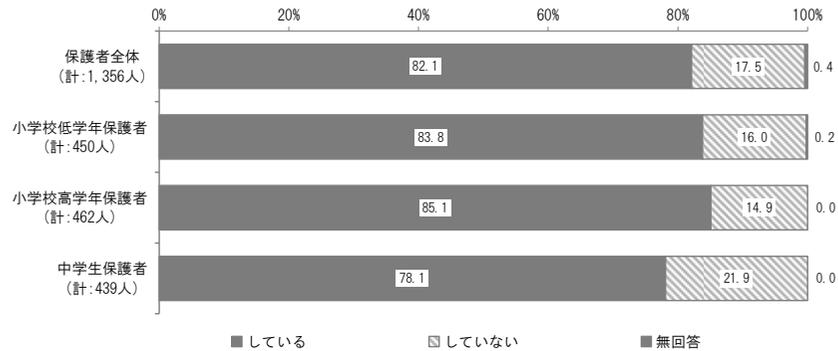


b) 進学への積み立て

<保護者票>問11 あなたの家庭では、お子さんの進学のために積み立て（預貯金）や学資保険などに加入するなどしていますか。（○はひとつ）

- ◆ お子さんの進学のために積み立て（預貯金）や学資保険などに加入するなどしていますかとたずねたところ、保護者全体では「している」と回答した保護者の割合は82.1%となっています。一方、「していない」と回答した保護者の割合は17.5%となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅰ・Ⅱを除き保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「している」と回答した保護者の割合が高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「している」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「している」と回答した保護者の割合が高くなっています。所得区分Ⅰ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「している」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「している」と回答した保護者の割合が高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「している」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

【進学への積み立て（保護者票 問11）】



(3) 体験・経験機会

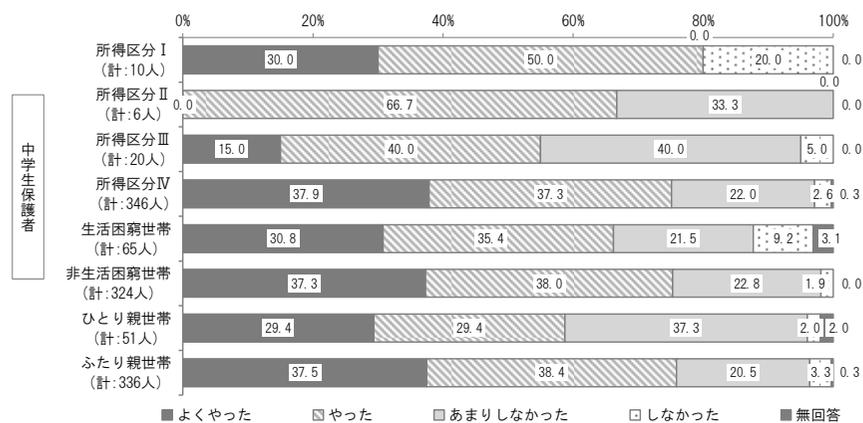
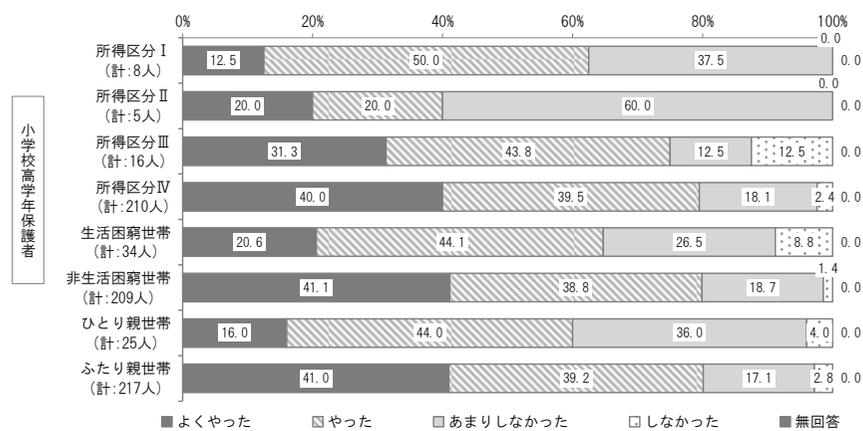
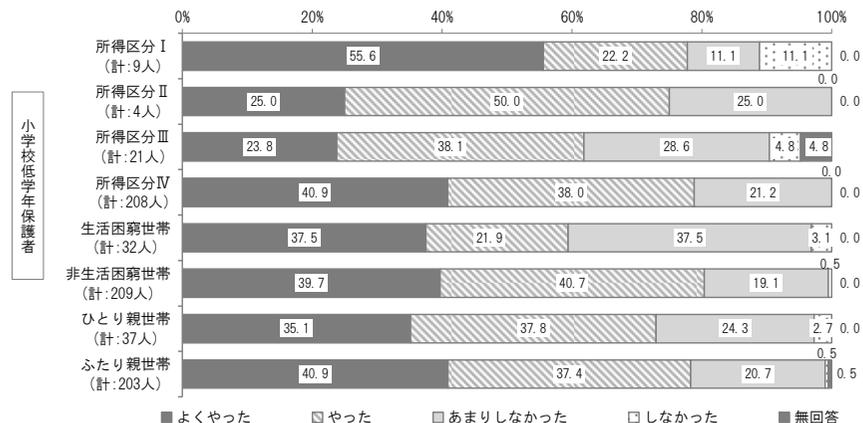
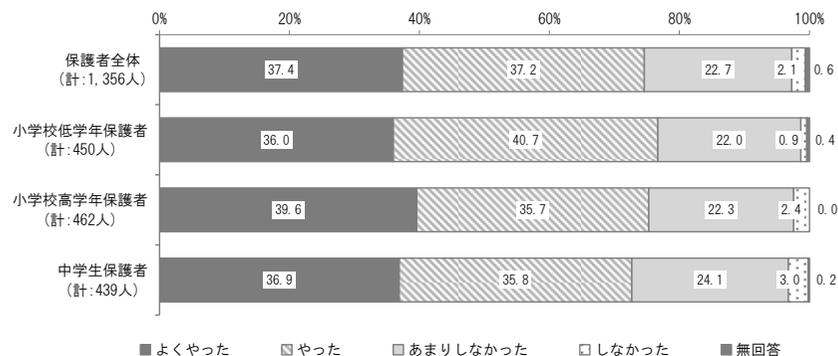
① 様々な体験・経験ができる機会の提供

a) 小さい頃の絵本の読み聞かせ

<保護者票>問13 あなたとお子さんの関係についてお聞きします。
ア～エのもっとも近いと思うものに○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

- ◆ お子さんが小さい頃絵本の読み聞かせをしましたかとたずねたところ、保護者全体では「よくやった」と回答した保護者の割合が最も高く、37.4%となっています。次いで、「やった」(37.2%)、「あまりしなかった」(22.7%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「やった(「よくやった」+「やった」)」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「やった(「よくやった」+「やった」)」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、所得区分Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「やった(「よくやった」+「やった」)」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

【子どもが小さい頃の絵本の読み聞かせ(保護者票 問13 ウ。)]

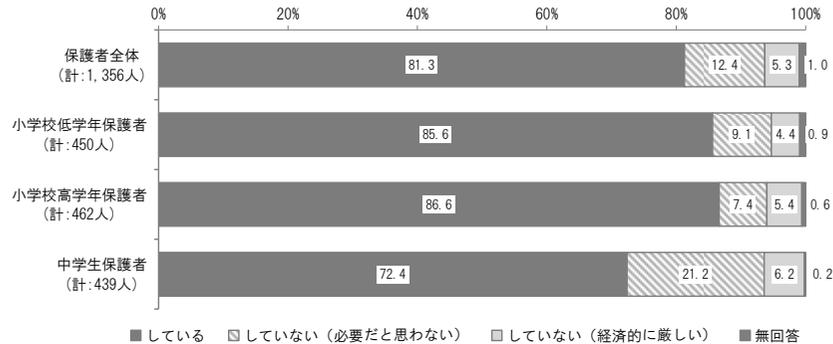


b) 習い事（音楽・スポーツ・習字等）

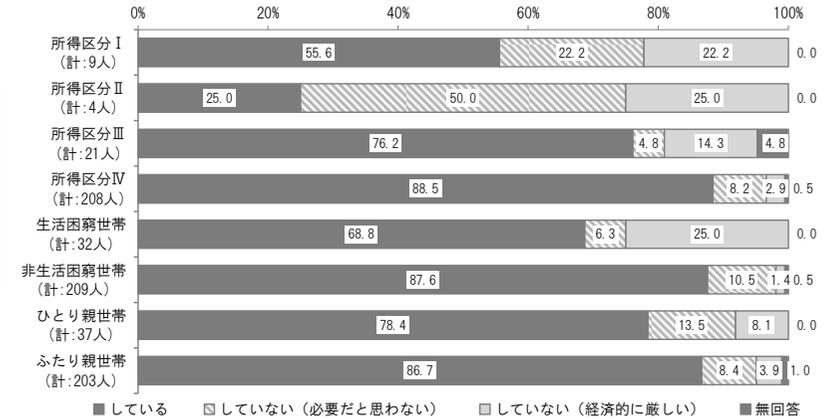
<保護者票>問7 あなたの家庭では、お子さんに次のことをしていますか。
(それぞれ〇はひとつ)

- ◆ 習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせることをしていますかとたずねたところ、保護者全体では「している」と回答した保護者の割合が最も高く、81.3%となっています。次いで、「していない（必要だと思わない）」(12.4%)、「していない（経済的に厳しい）」(5.3%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅱを除き保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「している」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「している」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅱを除き保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「している」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「している」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、保護者全体と比べて「していない（必要だと思わない）」、「していない（経済的に厳しい）」と回答した保護者の割合が高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「している」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

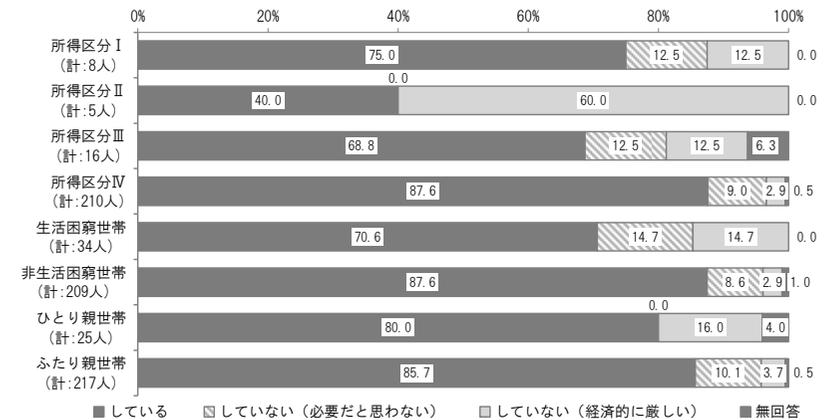
【習い事（音楽・スポーツ・習字等）（保護者票 問7 ウ。）】



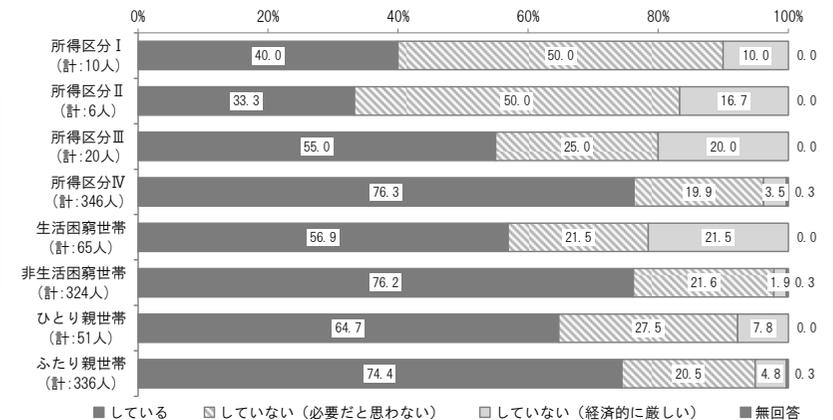
小学校低学年保護者



小学校高学年保護者



中学生保護者



4. こどもの健やかな成長

(1) 所得・物質的な支援

① 物質的援助

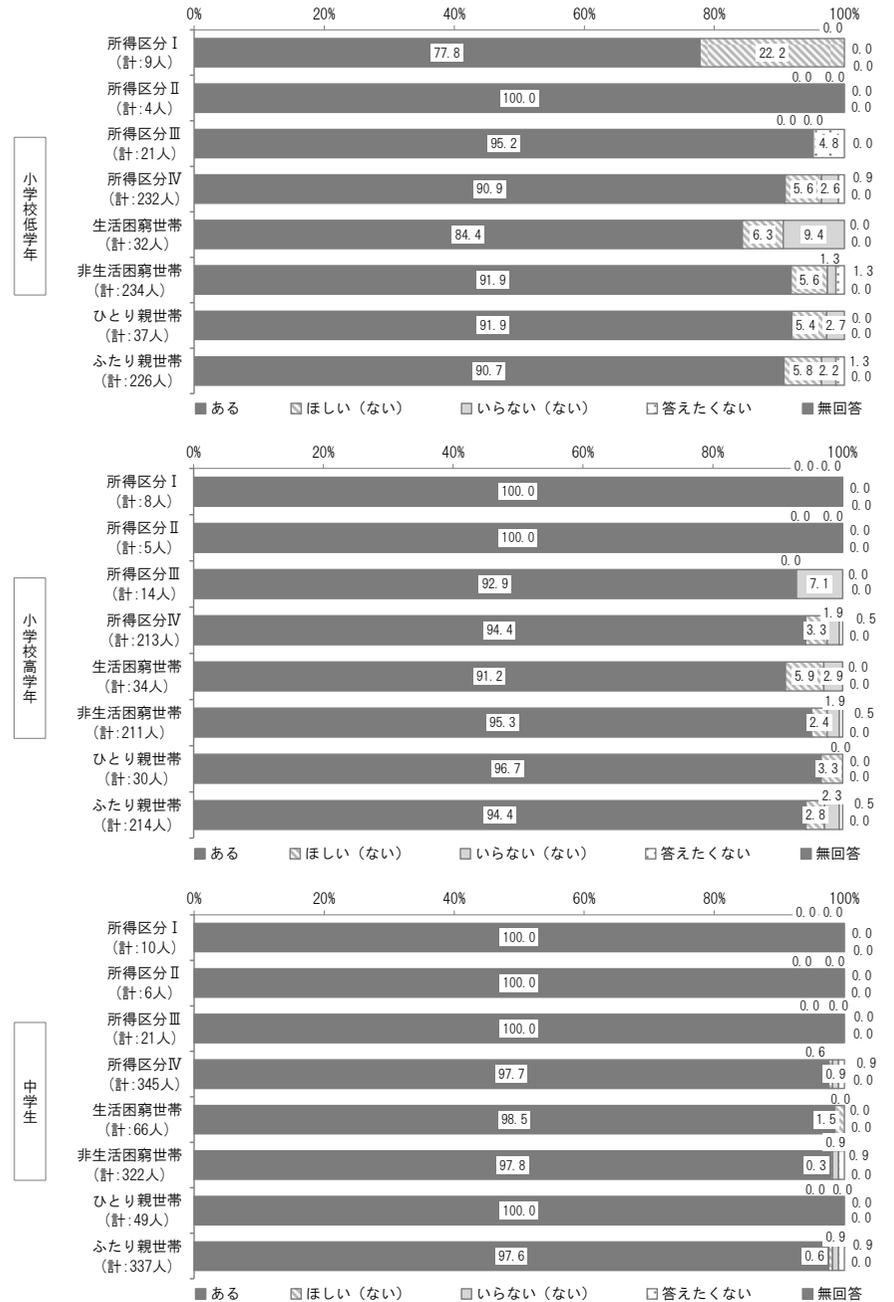
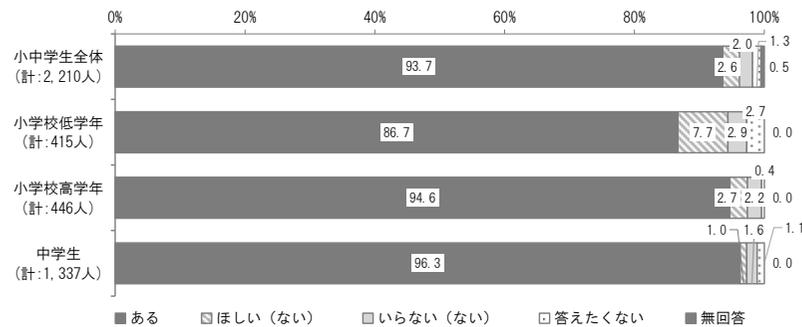
a) こどもの持ち物

<小学生・中学生票>問12 あなたは、自分が使うことができるものがありますか。
(〇はひとつ)

◆自分だけの学習用具(習字セット、コンパスなど)

- ◆ 自分だけの学習用具がありますかとたずねたところ、小中学生全体では「ある」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、93.7%となっています。次いで、「ほしい(ない)」(2.6%)、「いらぬ(ない)」(2.0%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、概ね小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ある」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ、生活困窮世帯で「ある」と回答した児童の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ある」と回答した児童の割合が最も高くなっています。生活困窮世帯で「ある」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯よりやや低くなっています。
- ◆ 中学生では、小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ある」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。

【自分だけの学習用具(小学生・中学生票 問12 ウ.)】



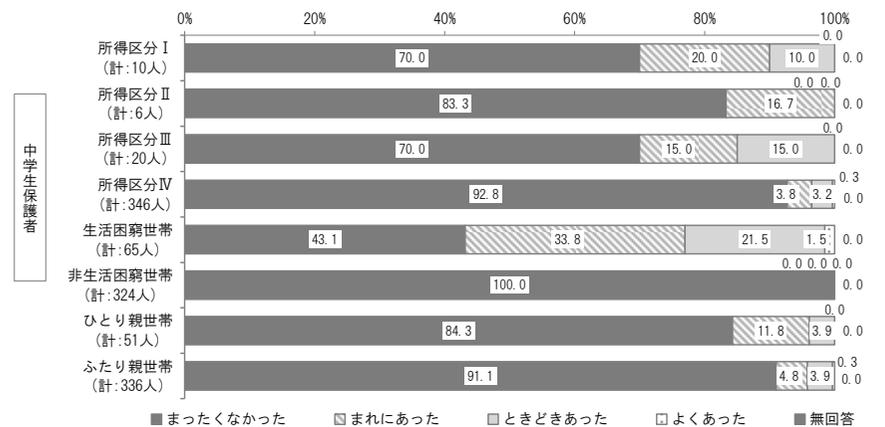
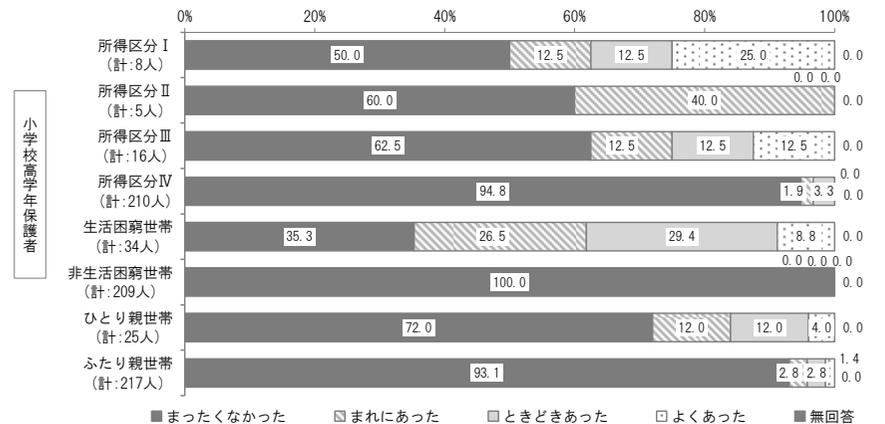
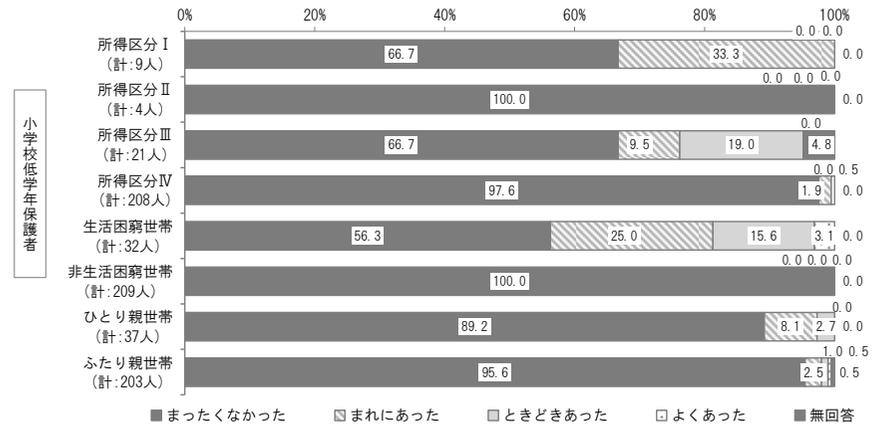
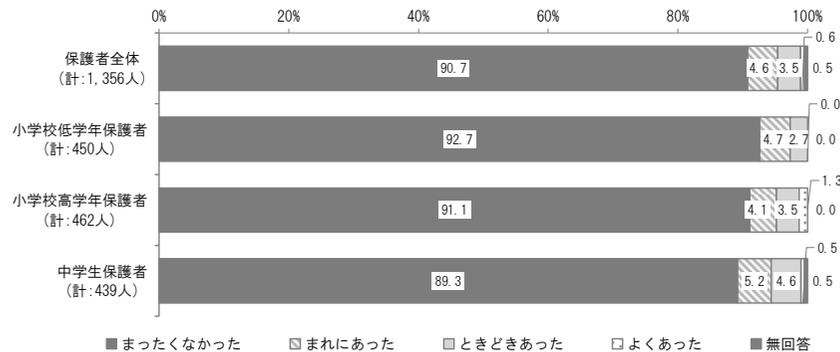
b) 未払いの経験

<保護者票>問27 あなたの家庭では過去1年間の間に、経済的な理由で家族が必要とする食料品や衣料品(嗜好品はのぞく)が買えなかったことや、月々の支払ができないことがありましたか。(それぞれ〇はひとつ)

●食料品が買えなかった経験

- ◆ 食料が買えなかった経験について、保護者全体では「まったくなかった」と回答した保護者の割合が最も高く、90.7%となっています。次いで、「まれにあった」(4.6%)、「ときどきあった」(3.5%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、概ね保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「まったくなかった」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「まったくなかった」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅱ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、困窮分類に関わらず「まったくなかった」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「まったくなかった」と回答した保護者割合が低くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「まったくなかった」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「まったくなかった」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「まったくなかった」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅱ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

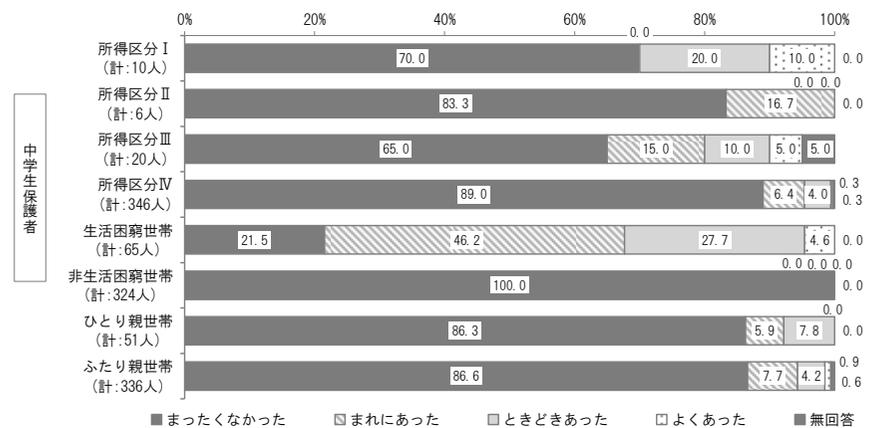
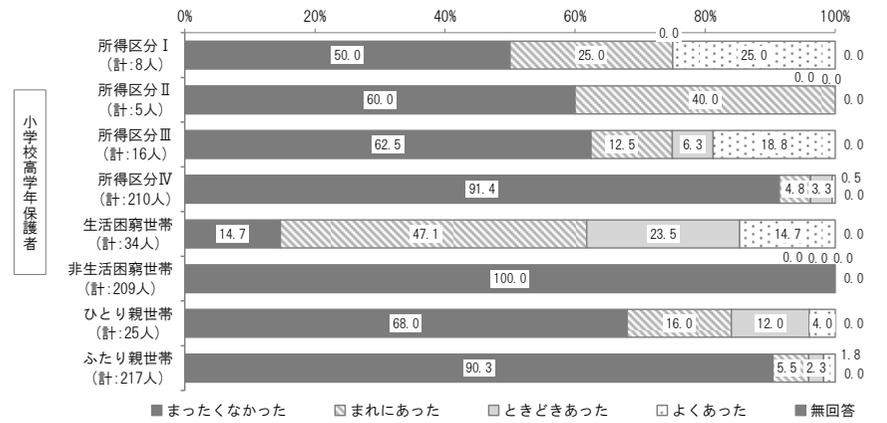
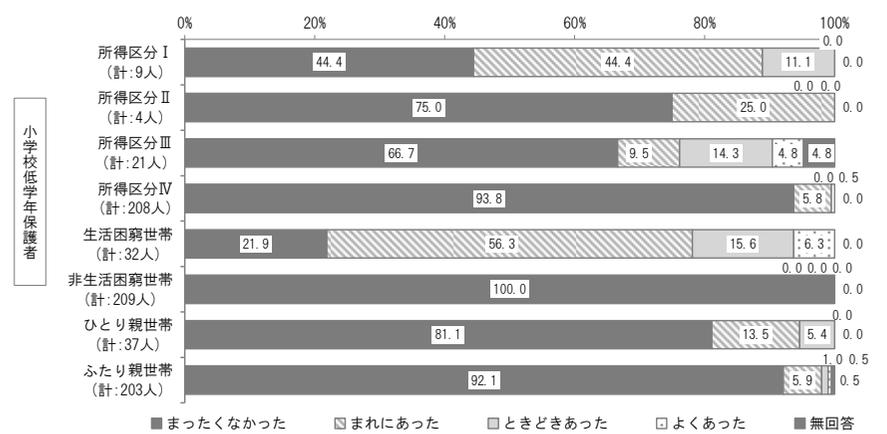
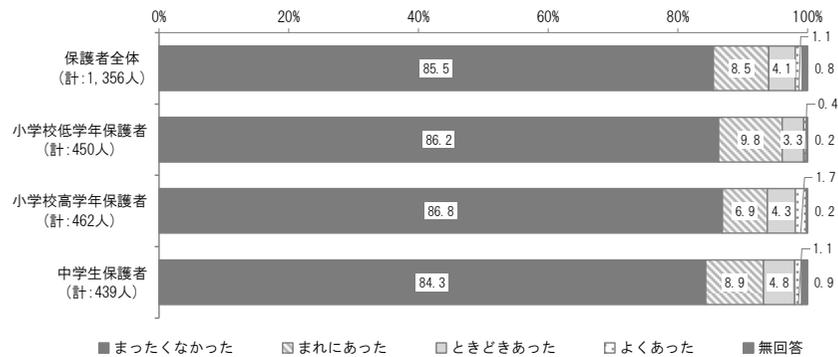
【食料品が買えなかった経験(保護者票 問27 ア.)】



●衣料品が買えなかった経験

- ◆ 衣料品が買えなかった経験について、保護者全体では「まったくなかった」と回答した保護者の割合が最も高く、85.5%となっています。次いで、「まれにあった」(8.5%)、「ときどきあった」(4.1%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、生活困窮世帯を除き概ね保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「まったくなかった」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「まったくなかった」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、生活困窮世帯を除き概ね保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「まったくなかった」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「まったくなかった」と回答した保護者の割合が低くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「まったくなかった」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、生活困窮世帯を除き概ね保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「まったくなかった」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅲ、生活困窮世帯で「まったくなかった」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、非生活困窮世帯より低くなっています。

【衣料品が買えなかった経験（保護者票 問27 イ.）】



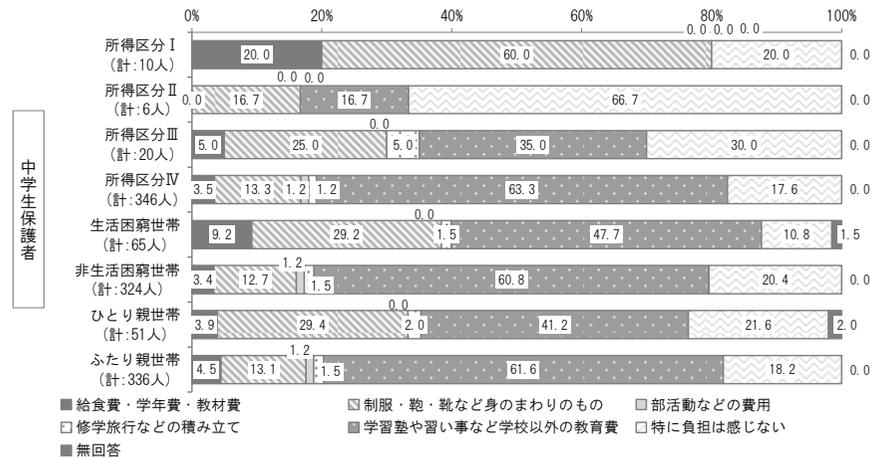
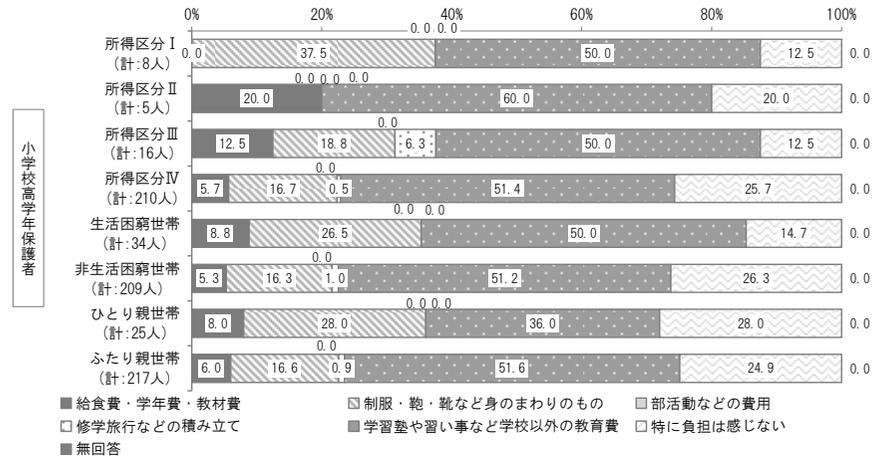
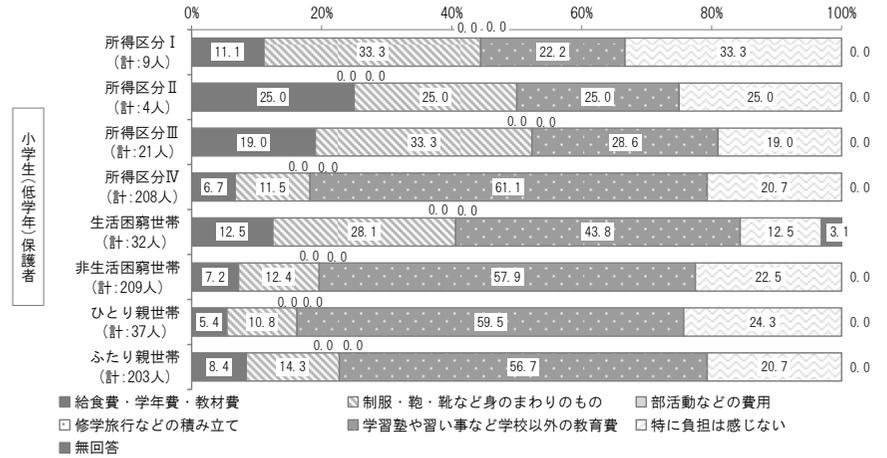
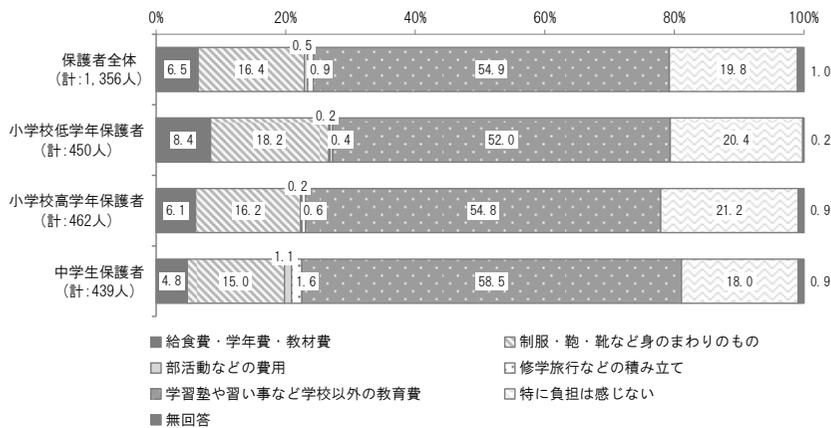
② 金銭的支援

a) 教育費で一番負担なもの

<保護者票>問43 お子さんの教育費で何が一番負担ですか。(○はひとつ)

- ◆ お子さんの教育費で何が一番負担ですかとたずねたところ、保護者全体では「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が最も高く、54.9%となっています。次いで、「特に負担は感じない」(19.8%)、「制服・靴・靴など身のまわりのもの」(16.4%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、困窮分類に関わらず「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が低くなっています。生活困窮世帯で「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、困窮分類に関わらず「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、所得区分Ⅰ・Ⅱを除き概ね保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が低くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「学習塾や習い事など学校以外の教育費」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

【教育費で一番負担なもの（保護者票 問43）】

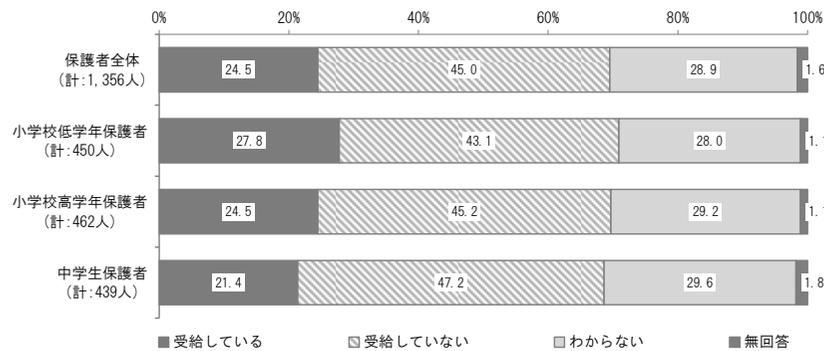


b) 児童扶養手当・特別児童扶養手当の受給状況

<保護者票>問40 世帯収入(合算値)のうち、次のものについて、それぞれ教えてください。(それぞれ〇はひとつ)

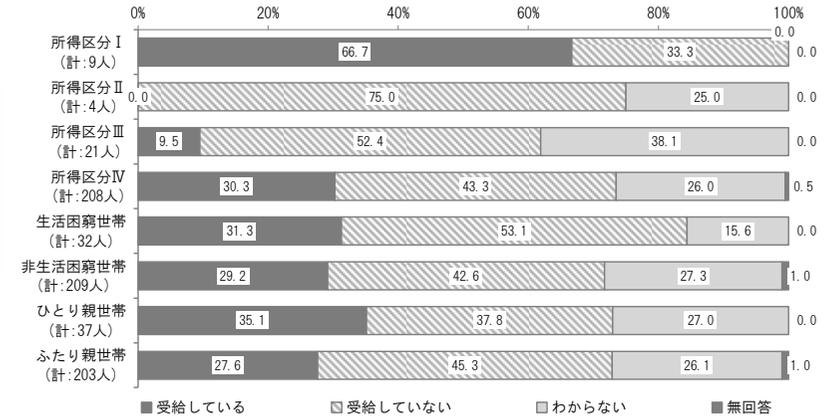
- ◆ 児童扶養手当・特別児童扶養手当の受給について、保護者全体では「受給している」と回答した保護者の割合は24.5%となっています。一方、「受給していない」と回答した保護者の割合は45.0%となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅰを除き保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「受給していない」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰでは「受給している」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅰ・Ⅱを除き保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「受給していない」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「受給している」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、所得区分Ⅰ・Ⅱを除き保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「受給していない」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「受給している」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。

【児童扶養手当・特別児童扶養手当の受給状況(保護者票 問40 イ.)】

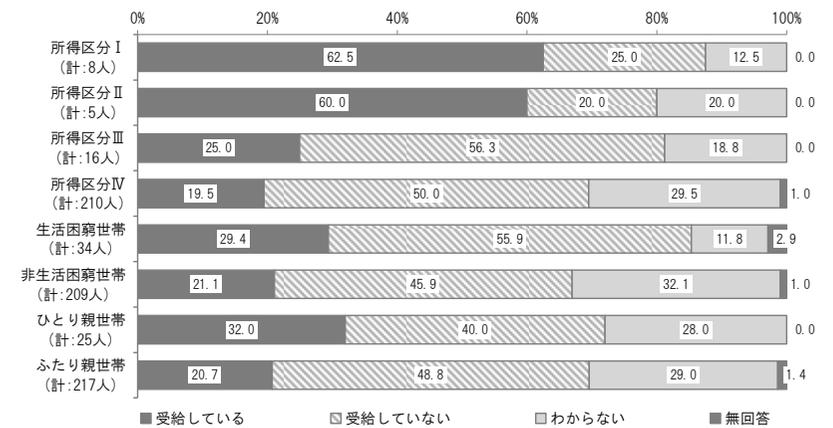


※児童手当と混同して回答した可能性あり

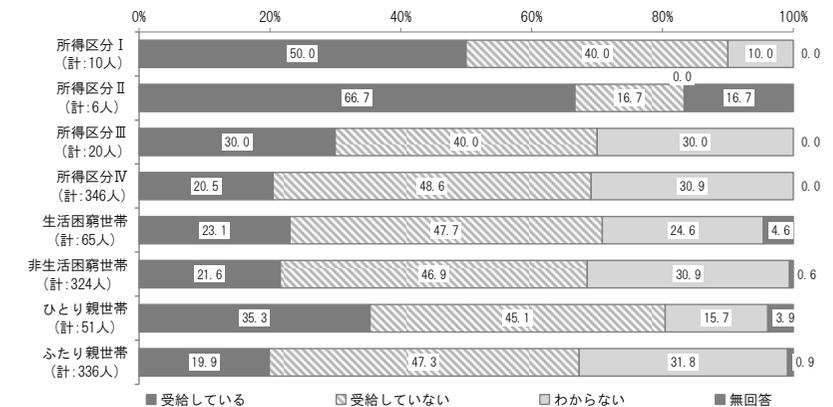
小学校低学年保護者



小学校高学年保護者



中学生保護者



(2) 生活習慣・生きる力

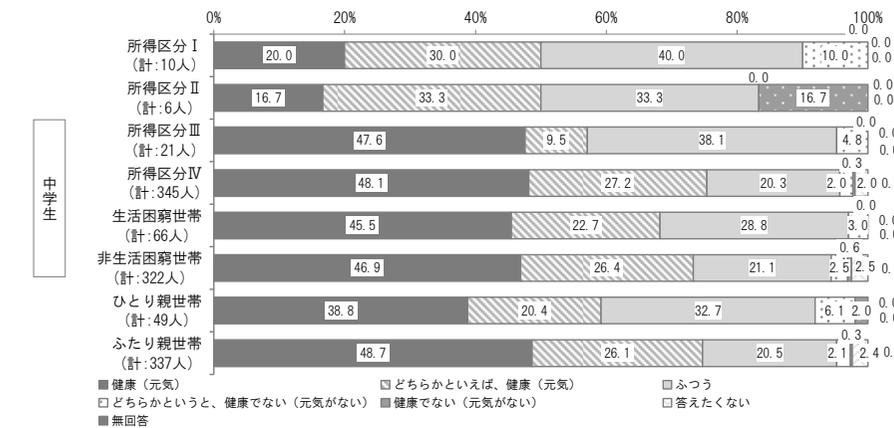
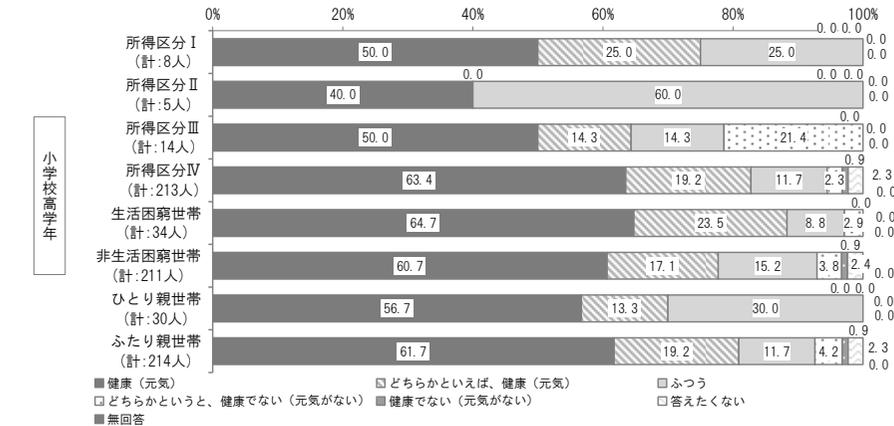
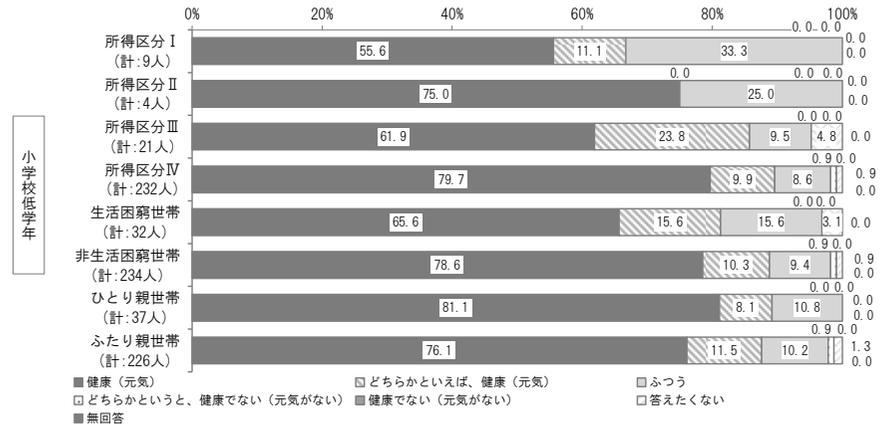
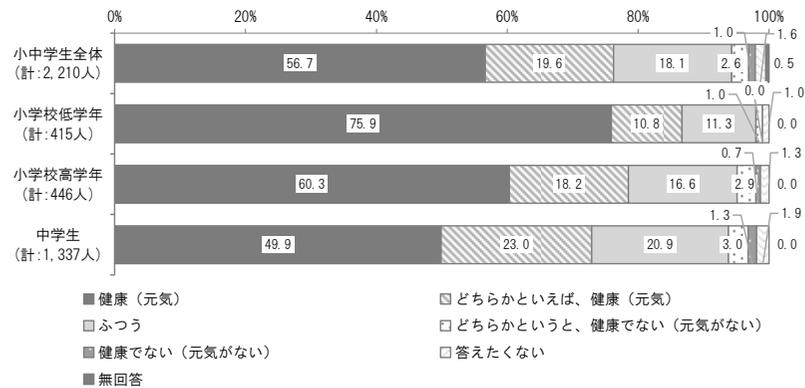
① 生活習慣の充実

a) こどもの健康

<小学生・中学生票>問4 あなたは、健康ですか。(○はひとつ)

- ◆ 健康ですかとたずねたところ、小中学生全体では「健康(元気)」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、56.7%となっています。次いで、「どちらかといえば、健康(元気)」(19.6%)、「ふつう」(18.1%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、困窮分類に関わらず「健康(元気)」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「健康(「健康(元気)」+「どちらかといえば、健康(元気)」)」と回答した児童の割合が低くなっています。生活困窮世帯で「健康(「健康(元気)」+「どちらかといえば、健康(元気)」)」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、「健康(元気)」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅱ、ひとり親世帯で「健康(「健康(元気)」+「どちらかといえば、健康(元気)」)」と回答した児童の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、「健康(元気)」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「健康(「健康(元気)」+「どちらかといえば、健康(元気)」)」と回答した生徒の割合が低くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「健康(「健康(元気)」+「どちらかといえば、健康(元気)」)」と回答した生徒の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

【こどもの健康(小学生・中学生票 問4)】



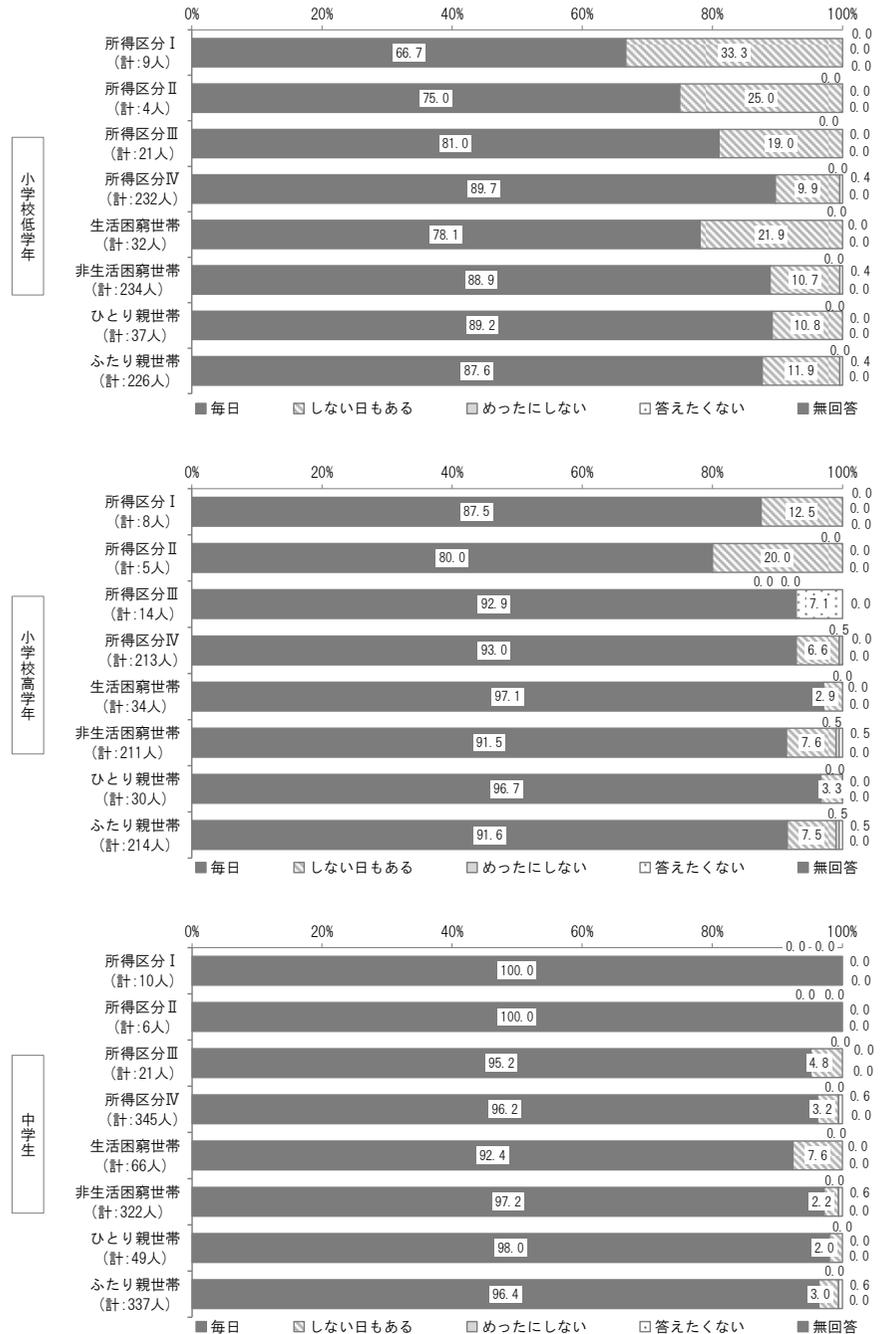
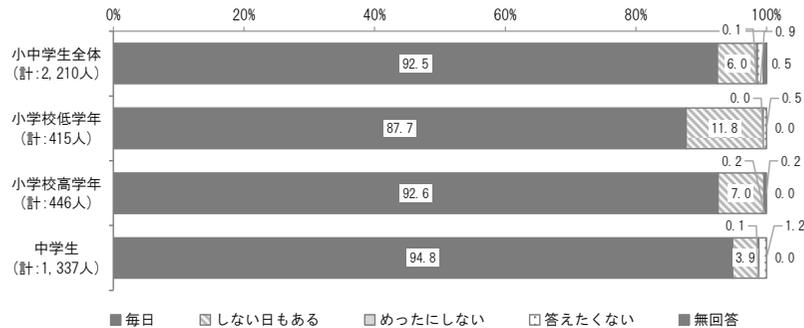
b) 基本的な生活習慣

<小学生・中学生票>問6 あなたは、自宅で歯みがきや、お風呂、着替えを毎日しますか。
(それぞれ○はひとつ)

●お風呂

- ◆ お風呂に毎日入るかについて、小中学生全体では「毎日」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、92.5%となっています。次いで、「しない日もある」(6.0%)、「めったにしない」(0.1%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「毎日」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「毎日」と回答した児童の割合が低くなっています。生活困窮世帯で「毎日」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「毎日」と回答した児童の割合が最も高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「毎日」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「毎日」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。生活困窮世帯で「毎日」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯より低くなっています。

【入浴 (小学生・中学生票 問6)】



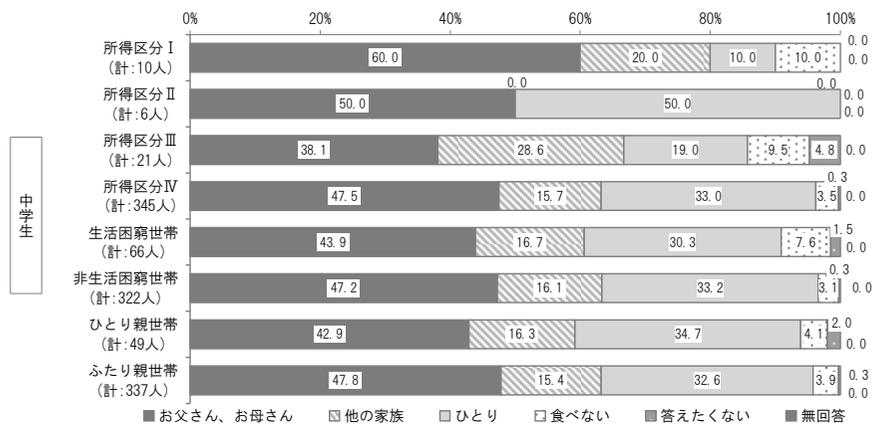
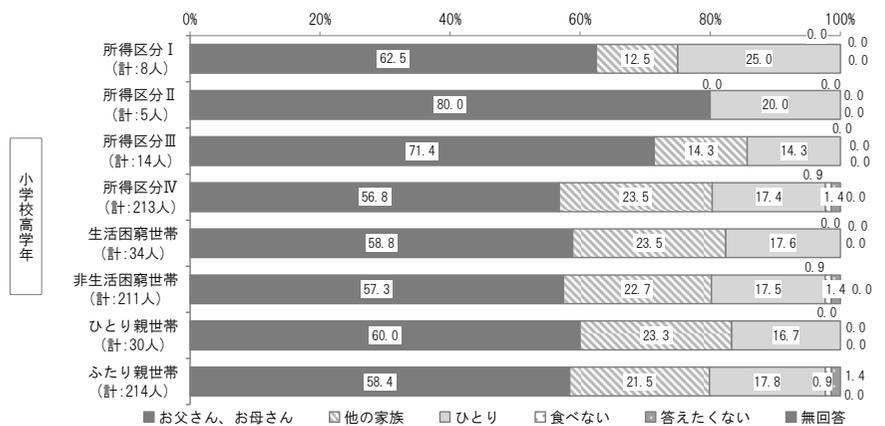
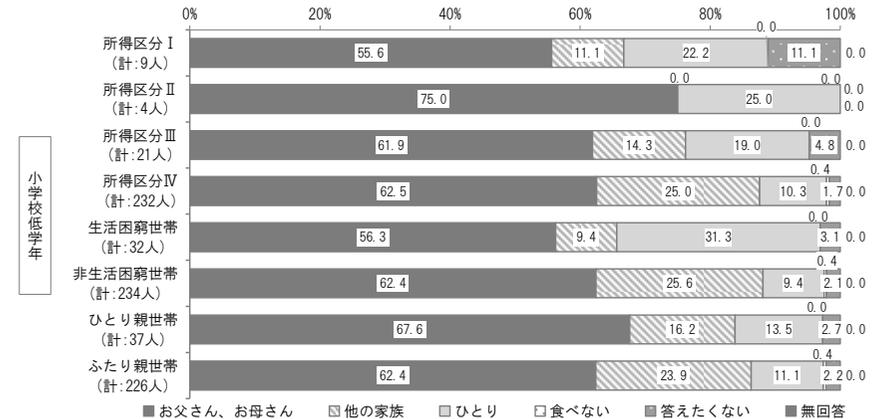
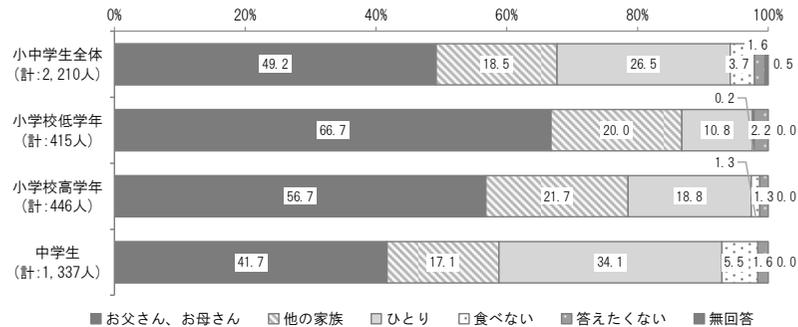
c) 朝ごはんの状況

<小学生・中学生票>問8 あなたは、ごはんをおもに誰といっしょに食べますか。つぎのA～オについて、一番近いと思うものに○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

●学校のある日/朝ごはん

- ◆ 学校のある日の朝ごはんを、おもに誰といっしょに食べますかとたずねたところ、小中学生全体では「お父さん、お母さん」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、49.2%となっています。次いで、「ひとり」(26.5%)、「他の家族」(18.5%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、困窮分類に関わらず「お父さん、お母さん」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「ひとり」と回答した児童の割合が所得区分Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、困窮分類に関わらず「お父さん、お母さん」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「ひとり」と回答した児童の割合が高い傾向になっています。
- ◆ 中学生では、概ね小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「お父さん、お母さん」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「食べない」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅱ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。

【ごはんを一緒に食べる人(学校のある日・朝ごはん)(小学生・中学生票 問8 A.)】



(3) 社会とのつながり

① こどもと保護者のコミュニケーションに関する支援・機会の提供

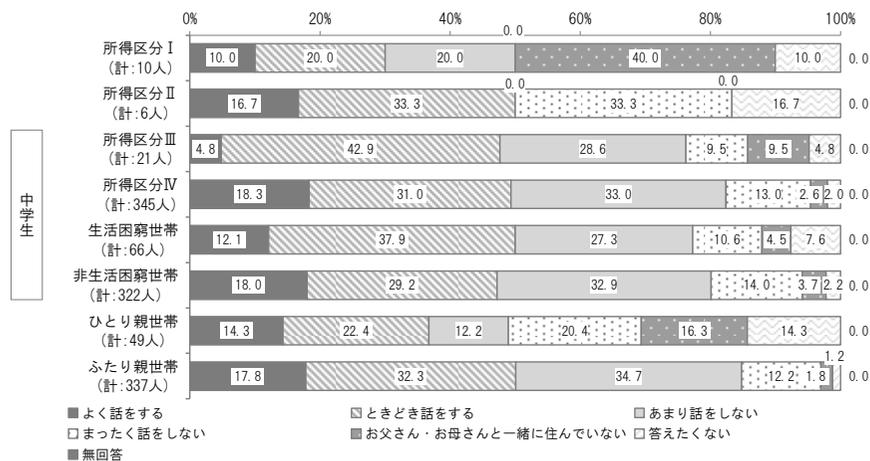
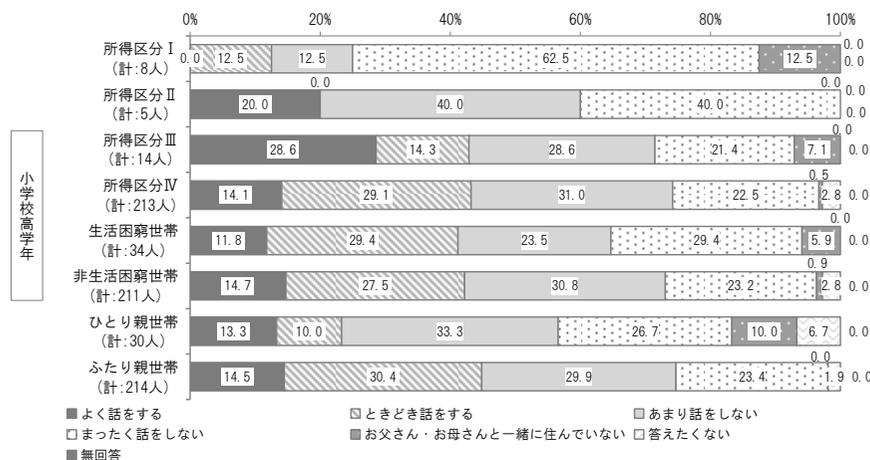
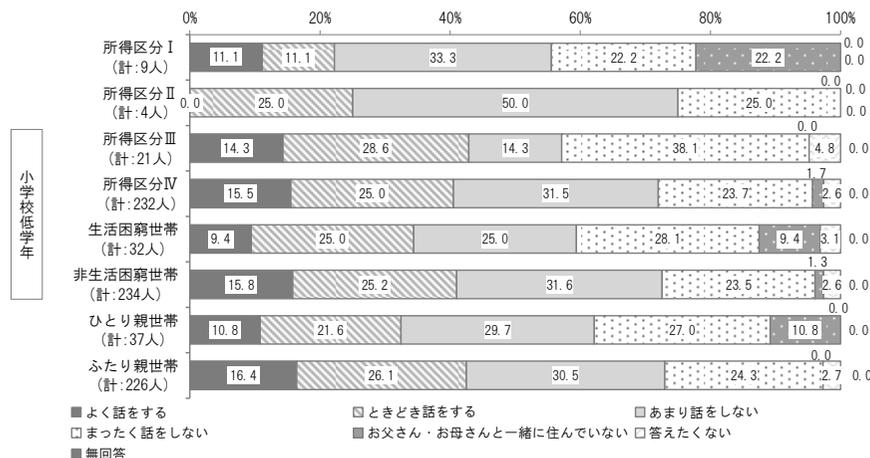
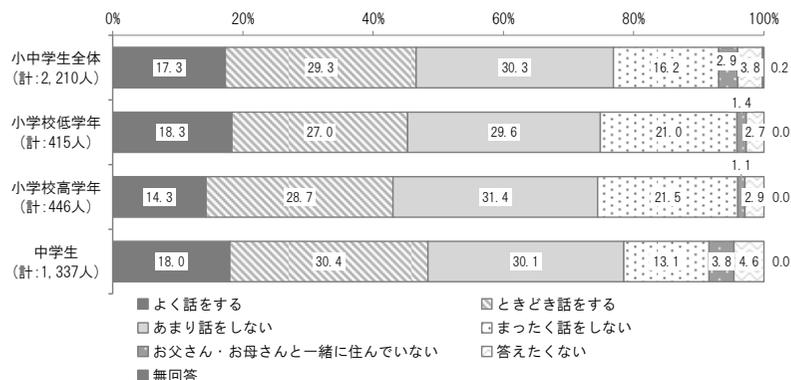
a) こどもと保護者の会話の頻度

＜小学生・中学生票＞問17 あなたは、次のようなことについてお父さんやお母さんとのく
らい話をしますか。(それぞれ○はひとつ)

●将来や進路について（お父さんとの会話）

- ◆ 将来や進路について、お父さんとのくらしい話をしますかとたずねたところ、小中学生全体では「あまり話をしない」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、30.3%となっています。次いで、「ときどき話をする」(29.3%)、「よく話をする」(17.3%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、所得区分Ⅲ、生活困窮世帯を除き困窮分類に関わらず「あまり話をしない」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「話をする（「よく話をする」＋「ときどき話をする）」と回答した児童の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅰ、生活困窮世帯、ふたり親世帯を除き困窮分類に関わらず「あまり話をしない」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「話をする（「よく話をする」＋「ときどき話をする）」と回答した児童の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、「ときどき話をする」と回答した生徒の割合が高くなっています。所得区分Ⅰ、ひとり親世帯で「話をする（「よく話をする」＋「ときどき話をする）」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、ふたり親世帯より低くなっています。

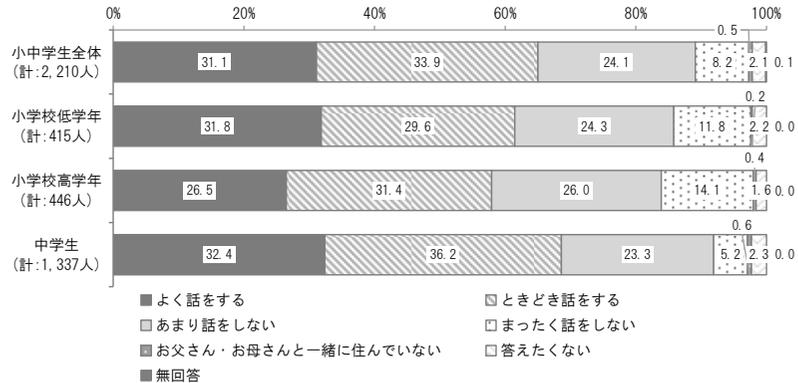
【お父さんとの会話（勉強や成績について）（小学生・中学生票 問17 ウ.）】



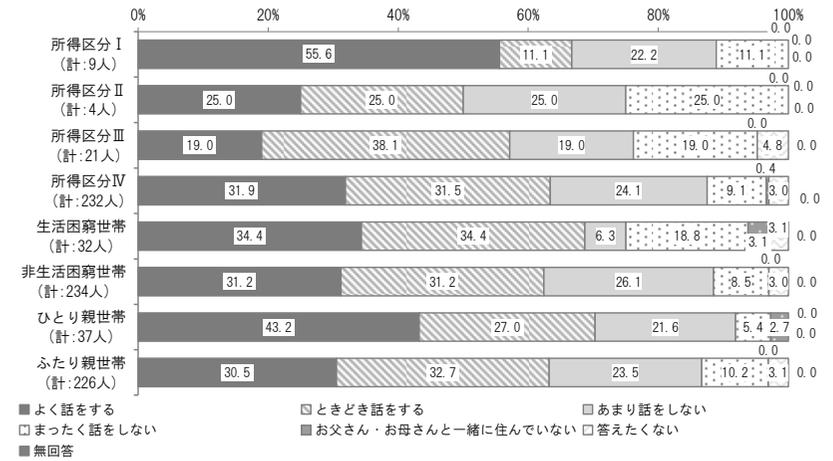
●将来や進路について（お母さんとの会話）

- ◆ 将来や進路について、お母さんとのくらしい話をしますかとたずねたところ、小中学生全体では「ときどき話をする」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、33.9%となっています。次いで、「よく話をする」(31.1%)、「あまり話をしない」(24.1%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、小中学生全体と比べて「まったく話をしない」と回答した児童の割合が高くなっています。所得区分Ⅰ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「話をする（「よく話をする」+「ときどき話をする」）」と回答した児童の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、小中学生全体と比べて「あまり話をしない」「まったく話をしない」と回答した児童の割合が高くなっています。所得区分Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「話をする（「よく話をする」+「ときどき話をする」）」と回答した児童の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、困窮分類に関わらず「ときどき話をする」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅲ、ひとり親世帯で「話をする（「よく話をする」+「ときどき話をする」）」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅱ・Ⅳ、ふたり親世帯より低くなっています。

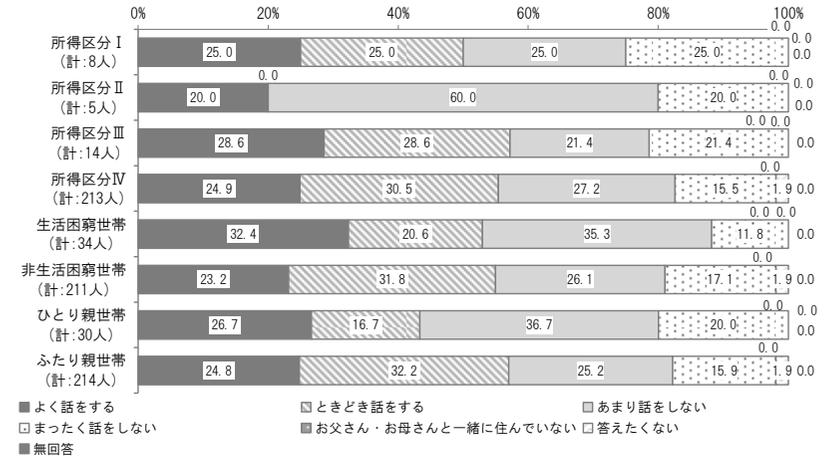
【お母さんとの会話（勉強や成績について）（小学生・中学生票 問17 キ.）】



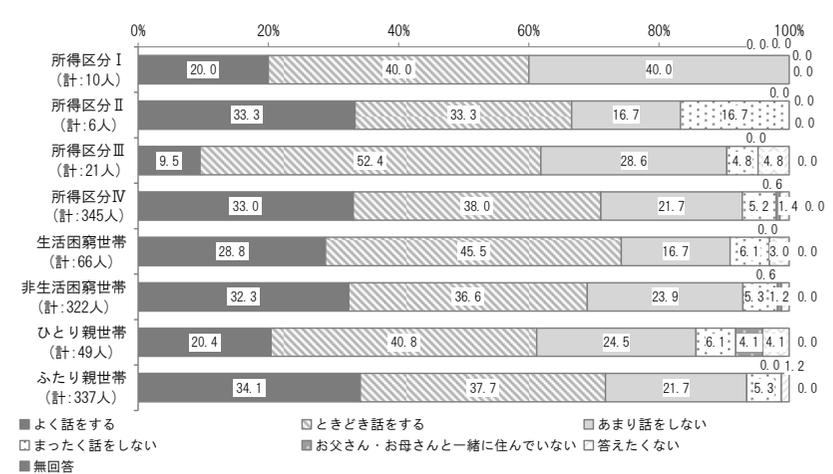
小学校低学年



小学校高学年



中学生

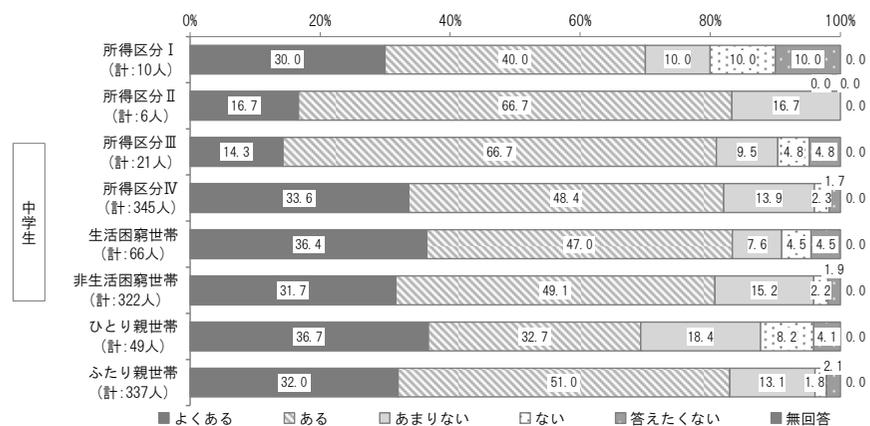
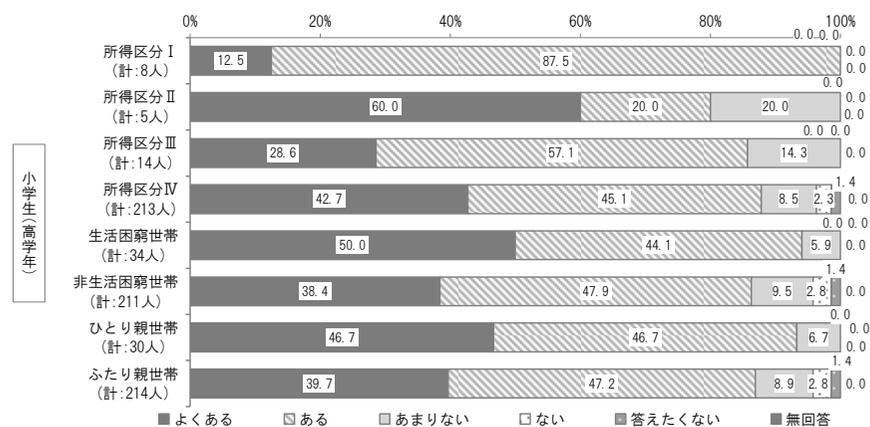
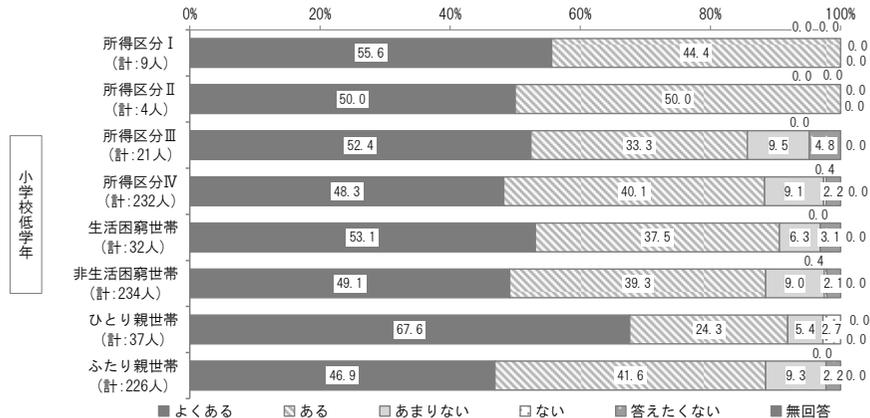
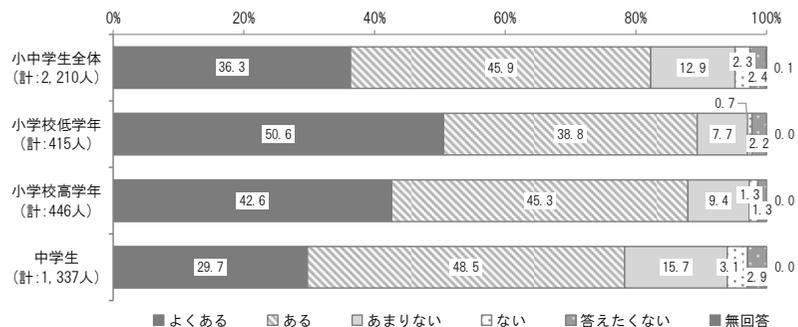


b) 保護者からほめられることの有無

<小学生・中学生票>問18 あなたは、お父さんまたはお母さんから「がんばっているね」「ありがとう」などと言われてほめられることはありますか。(〇はひとつ)

- ◆ お父さんまたはお母さんから「がんばっているね」「ありがとう」などと言われてほめられることはありますかとたずねたところ、小中学生全体では「ある」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、45.9%となっています。次いで、「よくある」(36.3%)、「あまりない」(12.9%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、小中学生全体と比べて困窮分類に関わらず「よくある」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得が低いほど「ある(「よくある」+「ある」)」と回答した児童の割合が高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「ある(「よくある」+「ある」)」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅱ、生活困窮世帯を除き小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ある」と回答した児童の割合が最も高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「ある(「よくある」+「ある」)」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、ひとり親世帯を除き小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「ある」と回答した生徒の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ、ひとり親世帯で「ある(「よくある」+「ある」)」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、ふたり親世帯より低くなっています。

【保護者からほめられることの有無(小学生・中学生票 問18)】

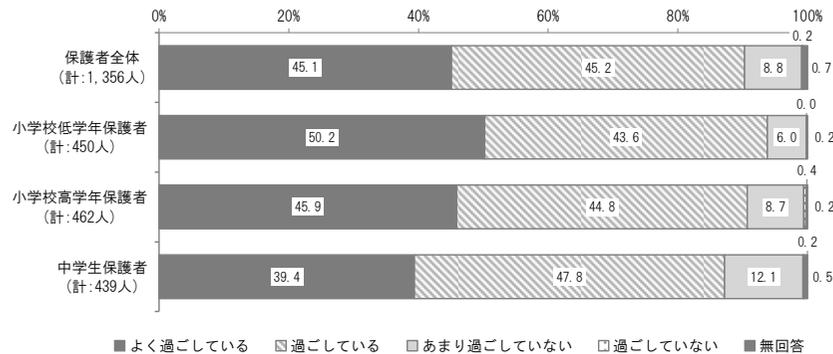


c) こどもと過ごす十分な時間

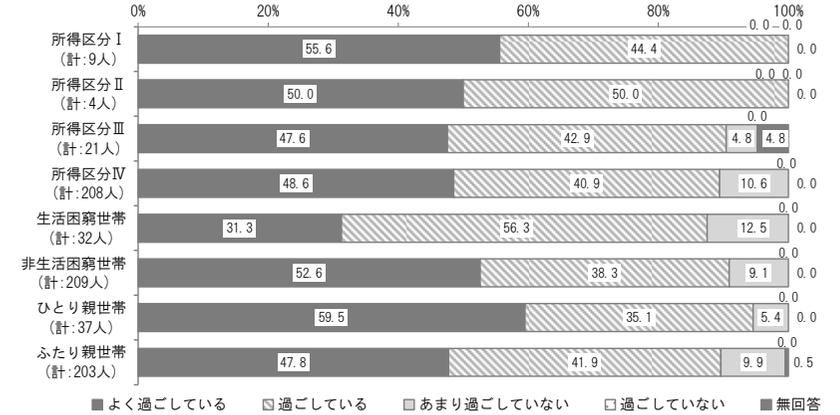
<保護者票>問13 あなたとお子さんの関係についてお聞きます。
ア～エのもっとも近いと思うものに○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

- ◆ お子さんと一緒に時間を十分過ごしていますかとたずねたところ、保護者全体では「過ごしている」と回答した保護者の割合が最も高く、45.2%となっています。次いで、「よく過ごしている」(45.1%)、「あまり過ごしていない」(8.8%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、保護者全体と比べて「よく過ごしている」と回答した保護者の割合がやや高くなっています。所得が低いほど「過ごしている(「よく過ごしている」+「過ごしている」)」と回答した保護者の割合が高くなっています。生活困窮世帯で「過ごしている(「よく過ごしている」+「過ごしている」)」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、保護者全体と比べて「よく過ごしている」と回答した保護者の割合が高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「過ごしている(「よく過ごしている」+「過ごしている」)」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 中学生では、保護者全体と比べて「あまり過ごしていない」と回答した保護者の割合が高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「過ごしている(「よく過ごしている」+「過ごしている」)」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

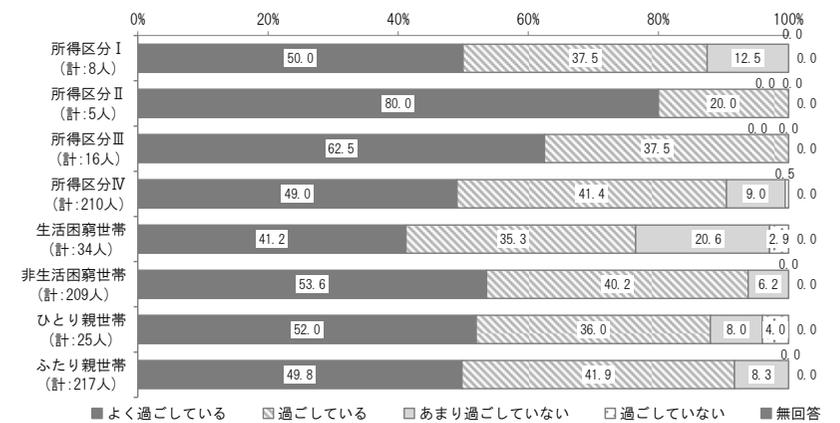
【こどもと過ごす十分な時間(保護者票 問13) イ.】



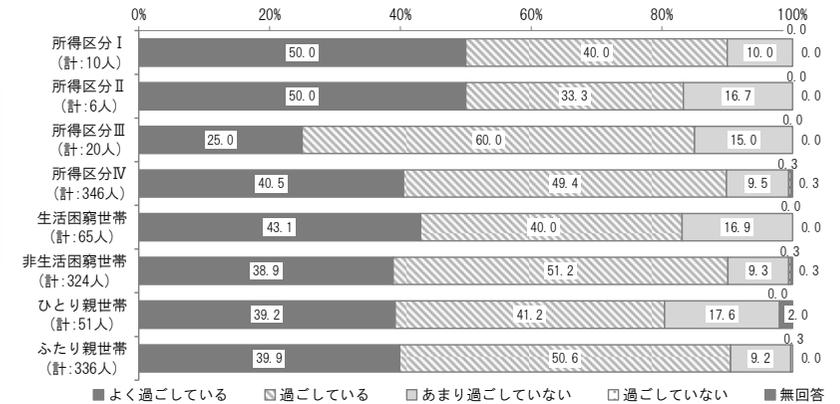
小学校低学年保護者



小学校高学年保護者



中学生保護者



② こどもの社会とのつながりをつくる支援

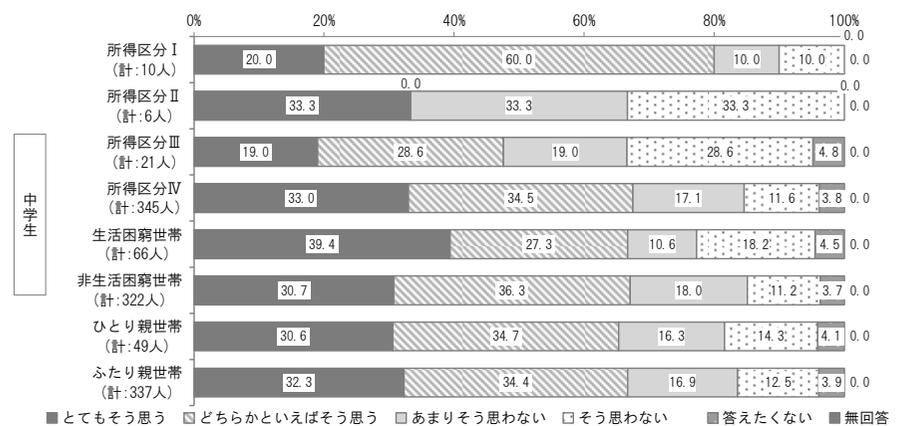
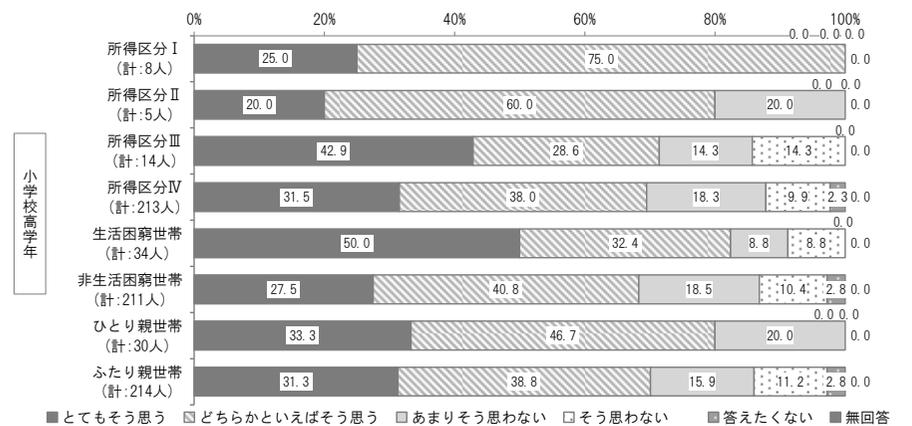
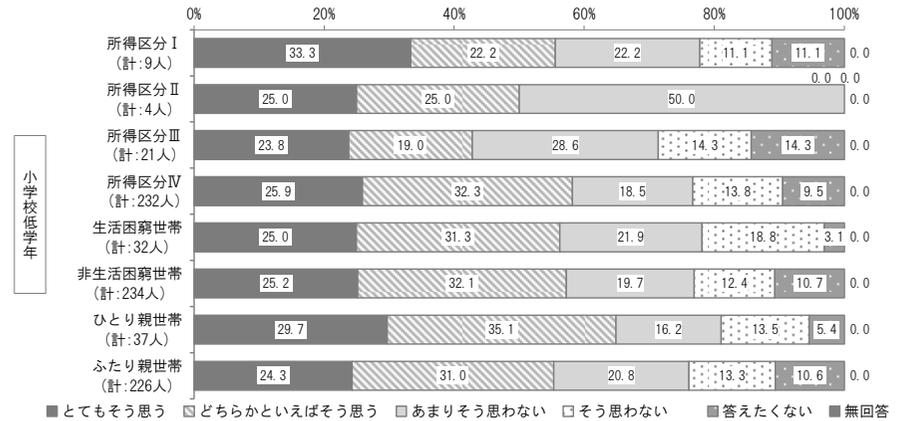
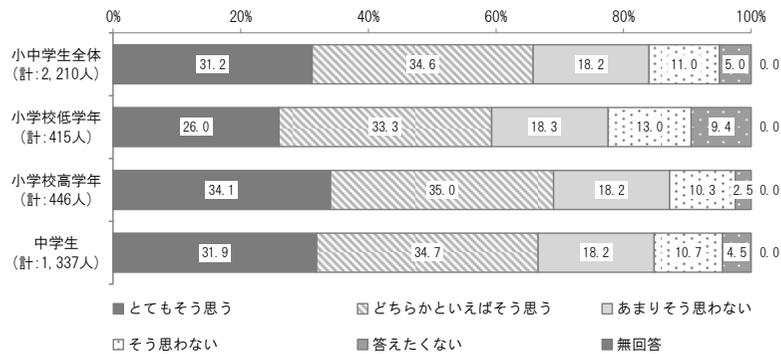
a) こどもの友達との関わり

＜小学生・中学生票＞問29 あなたは、友達との関係についてどう思っていますか。
(それぞれ○はひとつ)

●友達になやみをうちあげることができる

- ◆ 友達になやみをうちあげることができるかとたずねたところ、小中学生全体では「どちらかといえばそう思う」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、34.6%となっています。次いで、「とてもそう思う」(31.2%)、「あまりそう思わない」(18.2%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、小中学生全体と比べて「あまりそう思わない」、「そう思わない」と回答した児童の割合がやや高くなっています。所得区分Ⅳ、ひとり親世帯で「そう思う(「とてもそう思う」+「どちらかといえばそう思う」)」と回答した児童の割合が所得区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、所得区分Ⅲ、生活困窮世帯を除き小中学生全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合が最も高くなっています。所得が低いほどそう思う(「とてもそう思う」+「どちらかといえばそう思う」)と回答した児童の割合が高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「そう思う(「とてもそう思う」+「どちらかといえばそう思う」)」と回答した児童の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、小中学生全体と比べて「そう思わない」と回答した児童の割合が高くなっています。所得区分Ⅱで「そう思う(「とてもそう思う」+「どちらかといえばそう思う」)」と回答した生徒の割合が所得区分Ⅰ・Ⅲ・Ⅳより低くなっています。

【友達との関わり(友達になやみをうちあげることができる)(小学生・中学生票 問29 工.)】



③ 地域とのつながりをつくる支援

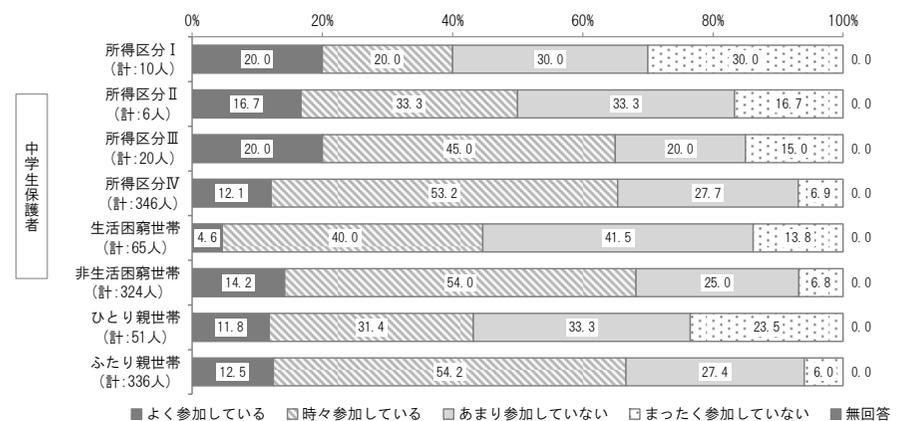
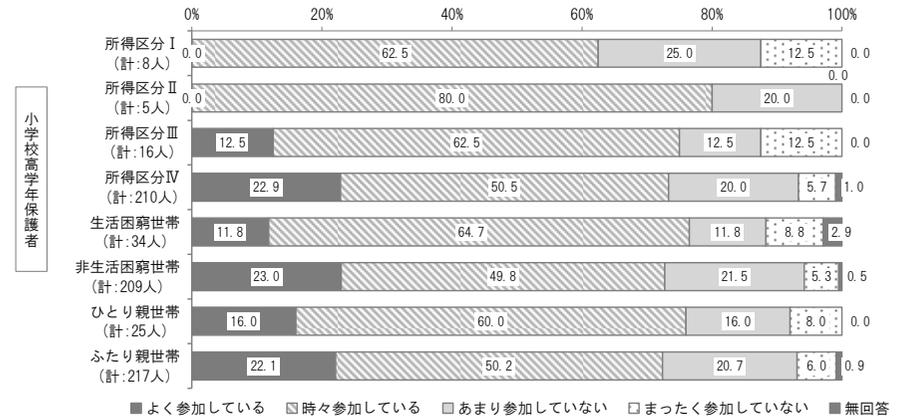
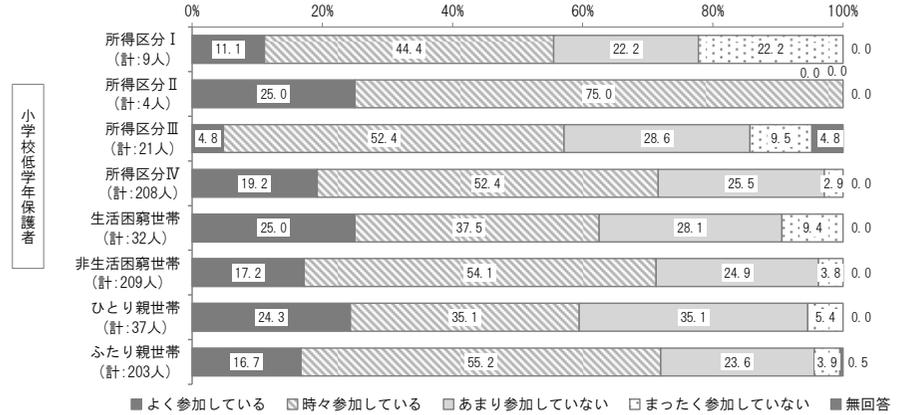
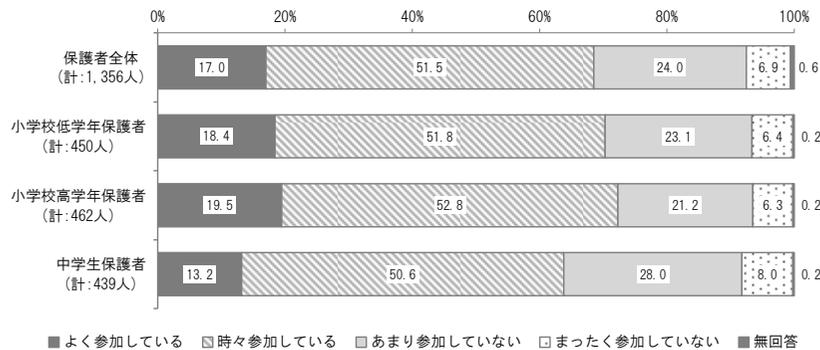
a) 保護者と地域との関わり

<保護者票>問16 次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。ア～カのそれぞれについて、もっとも近いと思うものに○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

●地域行事の参加

- ◆ 地域の行事に参加していますかとたずねたところ、保護者全体では「時々参加している」と回答した保護者の割合が最も高く、51.5%となっています。次いで、「あまり参加していない」(24.0%)、「よく参加している」(17.0%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、保護者全体同様の傾向となっており、困窮分類に関わらず「時々参加している」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅲ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「参加している(「よく参加している」+「時々参加している」)」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅱ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、保護者全体と比べて「時々参加している」と回答した保護者の割合が高くなっています。生活困窮世帯、ひとり親世帯で「参加している(「よく参加している」+「時々参加している」)」と回答した保護者の割合が非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、保護者全体と比べて「あまり参加していない」、「まったく参加していない」と回答した保護者の割合が高くなっています。所得区分Ⅰ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「参加している(「よく参加している」+「時々参加している」)」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より低くなっています。

【地域の行事への参加状況(保護者票 問16 ア.)】



5. 支援制度・支援体制について

(1) 支援へのつなぎ

① 支援制度等に関する情報発信の強化

a) 制度の利用状況および認知度

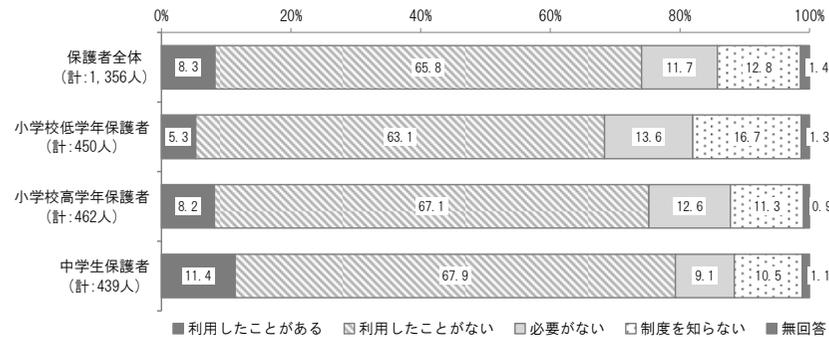
<保護者票>問44 あなたは次の制度について利用したことがありますか。

ア～セそれぞれについてあてはまるものに○をつけてください。(それぞれ○はひとつ)

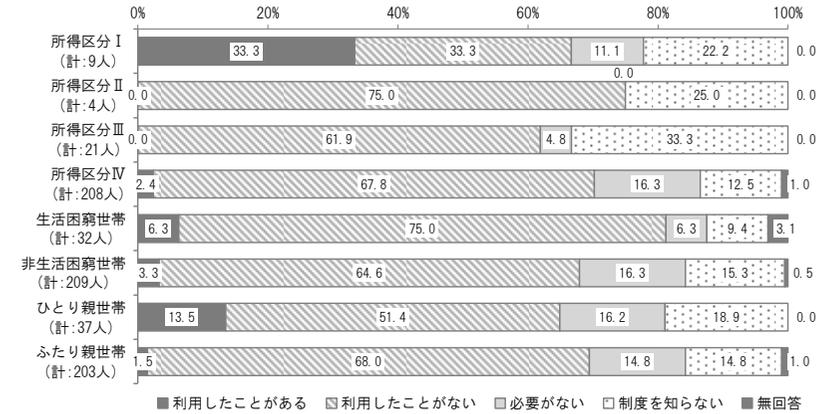
●小中学校の就学援助、高等学校の授業料援助等

- ◆ 小中学校の就学援助、高等学校の授業料援助等について、保護者全体では「利用したことがない」と回答した保護者の割合が最も高く、65.8%となっています。次いで、「制度を知らない」(12.8%)、「必要がない」(11.7%)となっています。
- ◆ 小学校低学年では、「利用したことがない」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「利用したことがある」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 小学校高学年では、「利用したことがない」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「利用したことがある」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅲ・Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。
- ◆ 中学生では、困窮分類に関わらず「利用したことがない」と回答した保護者の割合が最も高くなっています。所得区分Ⅰ・Ⅱ、生活困窮世帯、ひとり親世帯で「利用したことがある」と回答した保護者の割合が所得区分Ⅳ、非生活困窮世帯、ふたり親世帯より高くなっています。

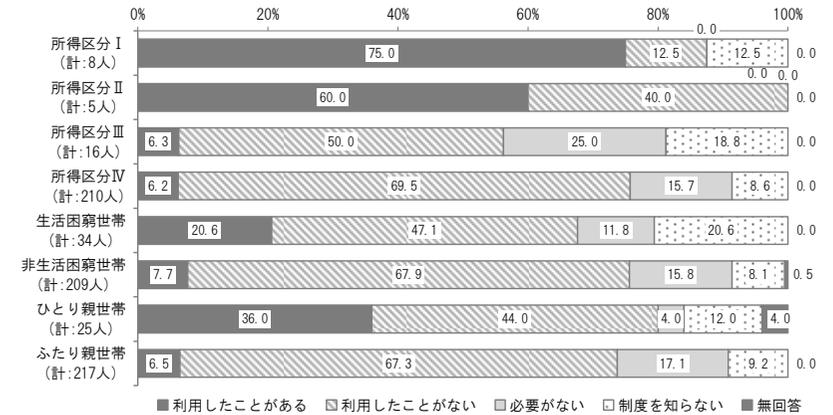
【小中学校の就学援助、高等学校の授業料援助等（保護者票 問44 工。）】



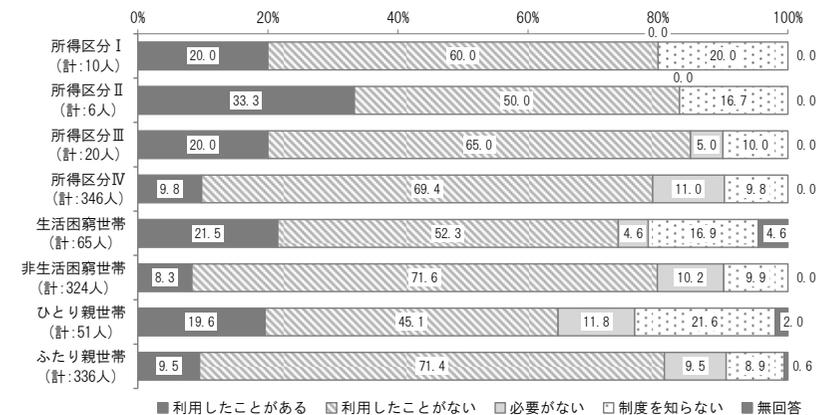
小学校低学年保護者



小学校高学年保護者



中学生保護者



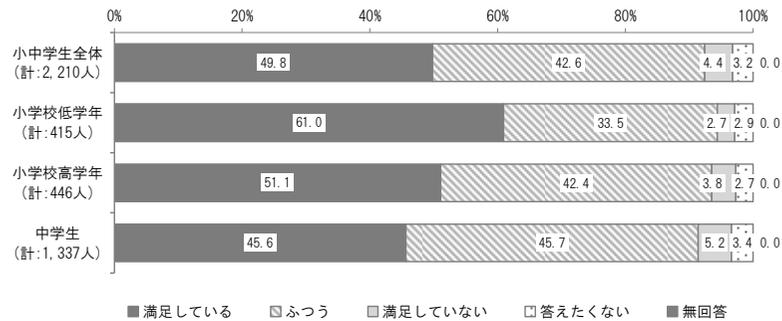
6. こどもまんなか社会について

(1) 学校・家庭生活の満足度

<小学生・中学生票>問33 あなたは、現在の学校や家庭などの生活に満足していますか。
(〇はひとつ)

- ◆ 現在の学校や家庭などの生活に満足しているかとたずねたところ、小中学生全体では「満足している」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、49.8%となっています。次いで、「ふつう」(42.6%)、「満足していない」(4.4%)となっています。

【学校・家庭生活の満足度 (小学生・中学生票 問33)】



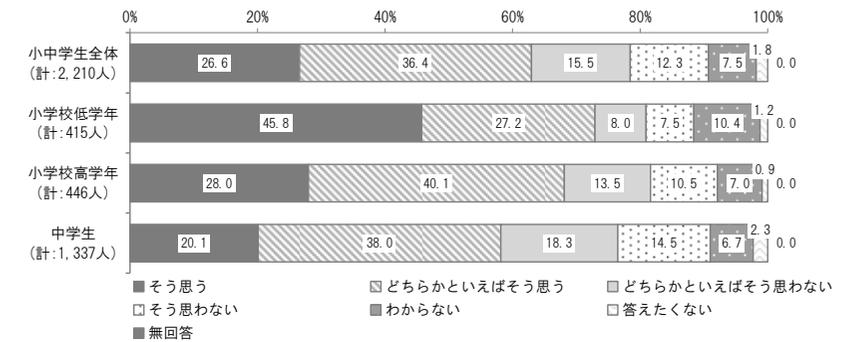
(2) あなた自身のこと

① 今の自分が好き

<小学生・中学生票>問34 あなたは、あなた自身のことについてどのように思っていますか。(それぞれに〇はひとつ)

- ◆ 今の自分が好きと思うかとたずねたところ、小中学生全体では「どちらかといえばそう思う」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、36.4%となっています。次いで、「そう思う」(26.6%)、「どちらかといえばそう思わない」(15.5%)となっています。

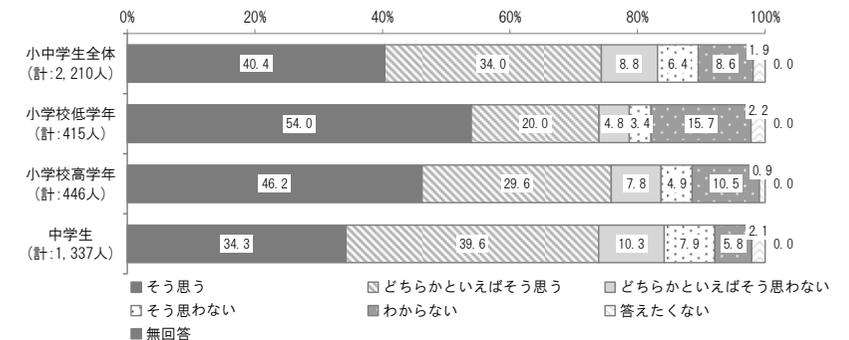
【今の自分が好き (小学生・中学生票 問34 ア.)】



② 自分には「自分らしさ」がある

- ◆ 自分らしさがあると思うかとたずねたところ、小中学生全体では「そう思う」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、40.4%となっています。次いで、「どちらかといえばそう思う」(34.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(8.8%)となっています。

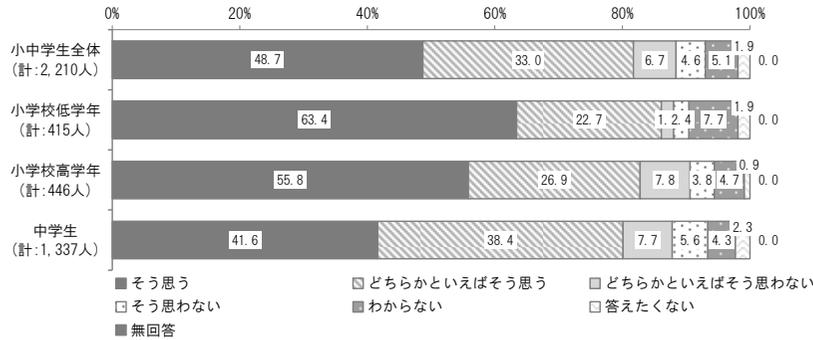
【自分には「自分らしさ」がある (小学生・中学生票 問34 イ.)】



③ どこかに助けてくれる人がいる

◆ どこかに助けてくれる人がいると思うかとたずねたところ、小中学生全体では「そう思う」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、48.7%となっています。次いで、「どちらかといえばそう思う」(33.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(6.7%)となっています。

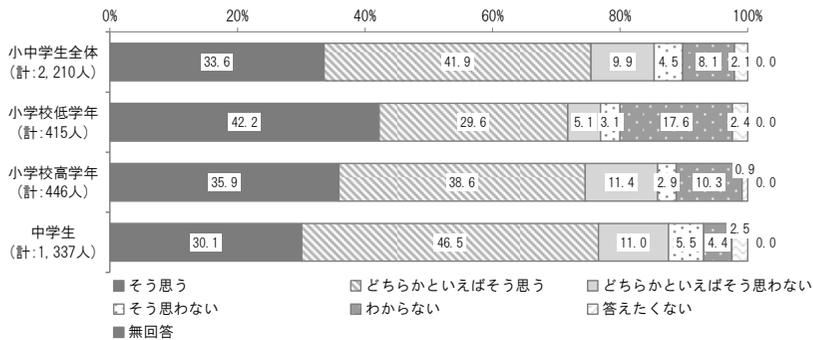
【どこかに助けてくれる人がいる (小学生・中学生票 問34 ウ.)】



④ 今まで日常生活をスムーズに送れた

◆ 今まで日常生活をスムーズに送れたと思うかとたずねたところ、小中学生全体では「どちらかといえばそう思う」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、41.9%となっています。次いで、「そう思う」(33.6%)、「どちらかといえばそう思わない」(9.9%)となっています。

【今まで日常生活をスムーズに送れた (小学生・中学生票 問34 エ.)】



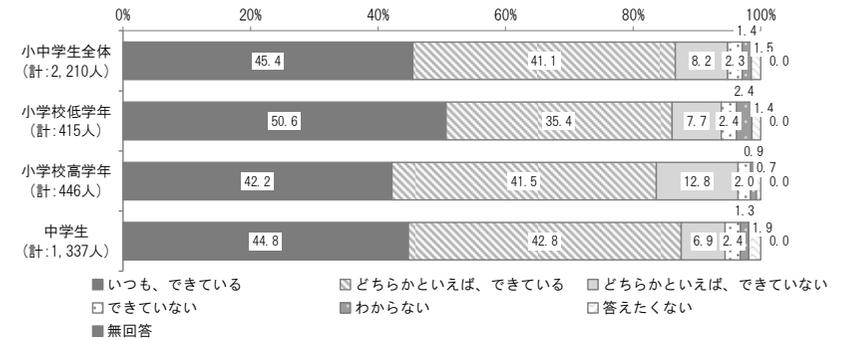
(3) 社会的スキルの習得状況

① あいさつができる

<小学生・中学生票>問35 あなたは、ア〜クのことができていますか。(〇はひとつ)

◆ あいさつができるかとたずねたところ、小中学生全体では「いつも、できている」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、45.4%となっています。次いで、「どちらかといえば、できている」(41.1%)、「どちらかといえば、できていない」(8.2%)となっています。

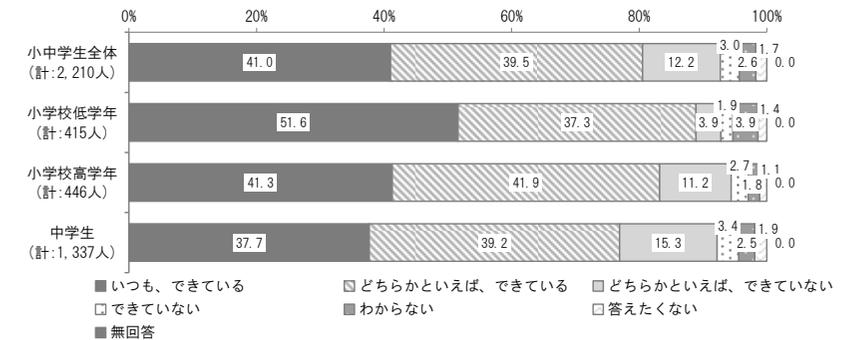
【あいさつができる (小学生・中学生票 問35 ア.)】



② 相手の顔を見て話すことができる

◆ 相手の顔を見て話すことができるかとたずねたところ、小中学生全体では「いつも、できている」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、41.0%となっています。次いで、「どちらかといえば、できている」(39.5%)、「どちらかといえば、できていない」(12.2%)となっています。

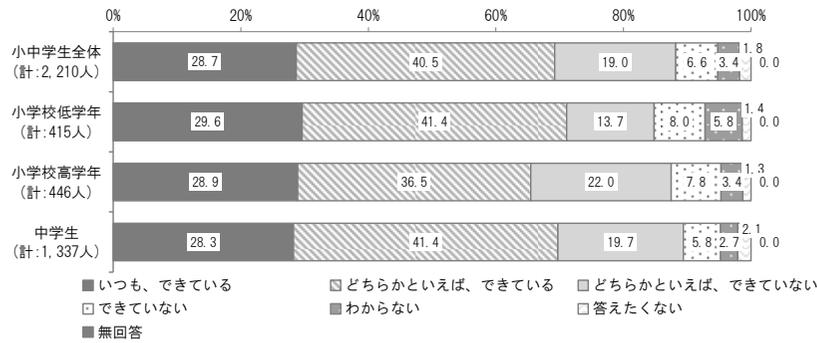
【相手の顔を見て話すことができる (小学生・中学生票 問35 イ.)】



③ わからないことを質問できる

◆ わからないことを質問できるかとたずねたところ、小中学生全体では「どちらかといえば、できている」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、40.5%となっています。次いで、「いつも、できている」(28.7%)、「どちらかといえば、できていない」(19.0%)となっています。

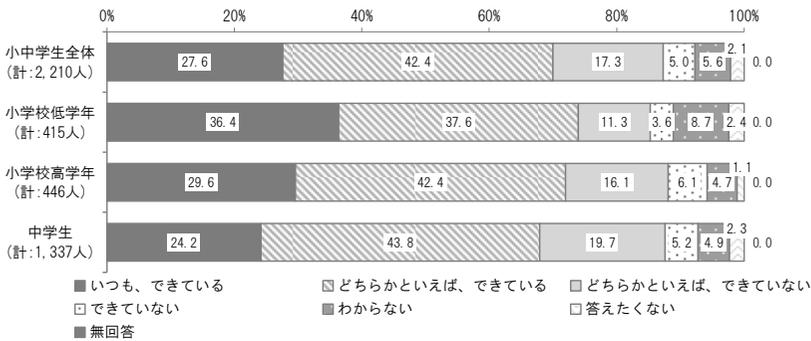
【わからないことを質問できる (小学生・中学生票 問 35 エ.)】



④ 困っている人を助ける (声をかける) ことができる

◆ 困っている人を助ける (声をかける) ことができるかとたずねたところ、小中学生全体では「どちらかといえば、できている」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、42.4%となっています。次いで、「いつも、できている」(27.6%)、「どちらかといえば、できていない」(17.3%)となっています。

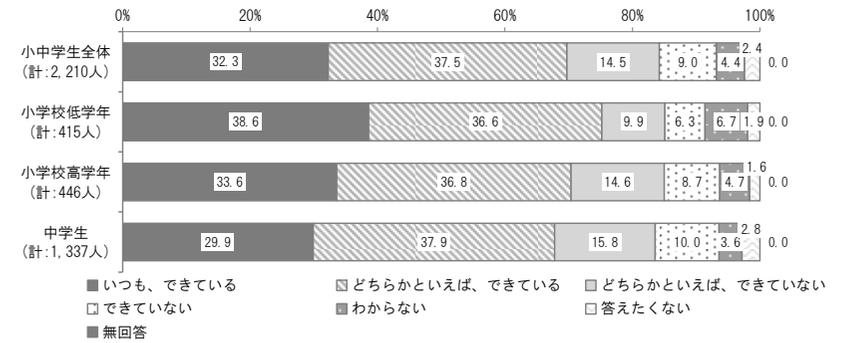
【困っている人を助ける (声をかける) ことができる (小学生・中学生票 問 35 オ.)】



⑤ 困ったときに誰かに相談できる

◆ 困ったときに誰かに相談できるかとたずねたところ、小中学生全体では「どちらかといえば、できている」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、37.5%となっています。次いで、「いつも、できている」(32.3%)、「どちらかといえば、できていない」(14.5%)となっています。

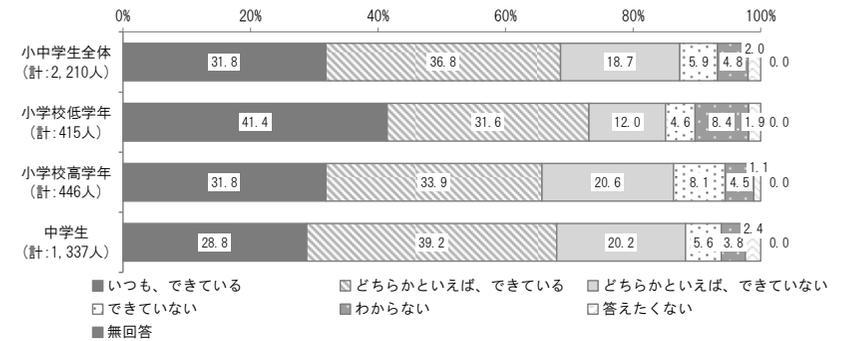
【困ったときに誰かに相談できる (小学生・中学生票 問 35 キ.)】



⑥ 嫌なことを断ることができる

◆ 嫌なことを断ることができるかとたずねたところ、小中学生全体では「どちらかといえば、できている」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、36.8%となっています。次いで、「いつも、できている」(31.8%)、「どちらかといえば、できていない」(18.7%)となっています。

【嫌なことを断ることができる (小学生・中学生票 問 35 ク.)】



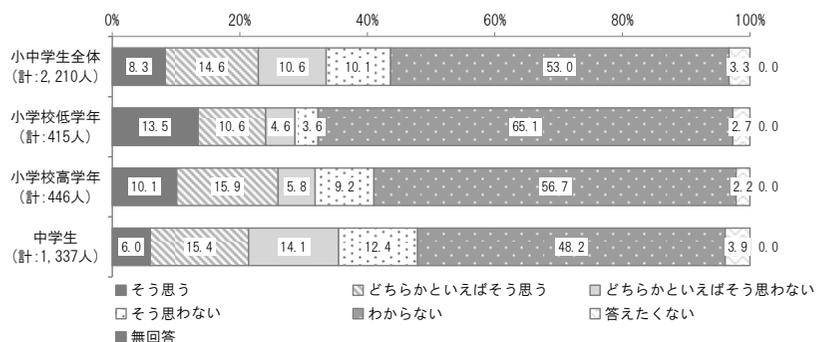
(4) こどもの意見聴取について

① 子ども政策に関して意見を聞いてもらえている

<小学生・中学生票>問36 あなたは、次のことについてどのように思っていますか。
(それぞれ〇はひとつ)

◆ 子ども政策に関して意見を聞いてもらえていると思うかとたずねたところ、小中学生全体では「わからない」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、53.0%となっています。次いで、「どちらかといえばそう思う」(14.6%)、「どちらかといえばそう思わない」(10.6%)となっています。

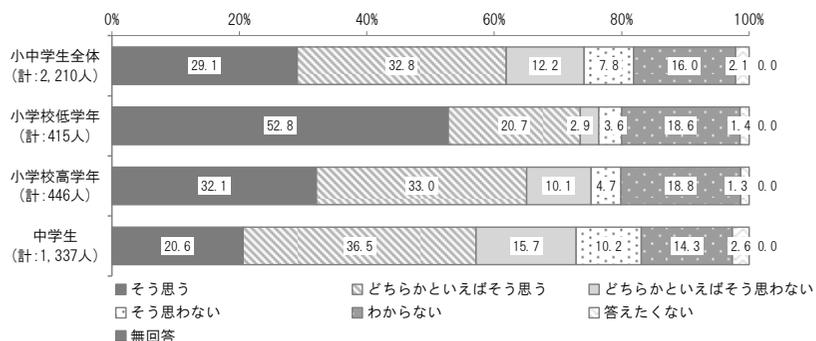
【子ども政策に関して意見を聞いてもらえている (小学生・中学生票 問36 ①)】



② 自分の将来は明るい

◆ 自分の将来は明るいと思うかとたずねたところ、小中学生全体では「どちらかといえばそう思う」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、32.8%となっています。次いで、「そう思う」(29.1%)、「わからない」(16.0%)となっています。

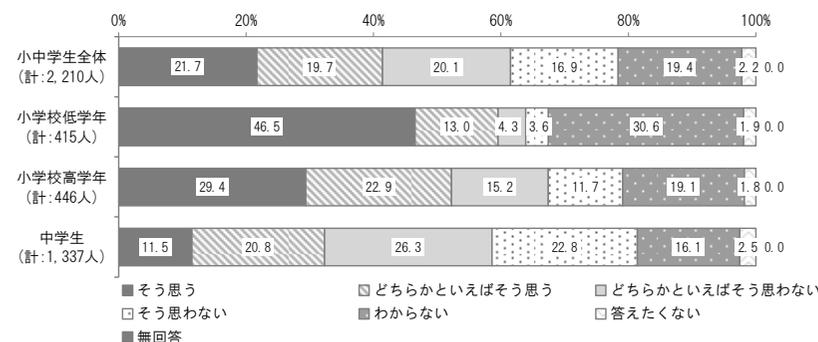
【自分の将来は明るい (小学生・中学生票 問36 ②)】



③ 日本の将来は明るい

◆ 日本の将来は明るいと思うかとたずねたところ、小中学生全体では「そう思う」と回答した児童・生徒の割合が最も高く、21.7%となっています。次いで、「どちらかといえばそう思わない」(20.1%)、「どちらかといえばそう思う」(19.7%)となっています。

【日本の将来は明るい (小学生・中学生票 問36 ③)】



子ども・若者の意識と生活に関する調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

子どもや若者が抱える不安や悩み、将来に関する考え、市へのニーズなどを把握することでみよし市における子どもや若者の生活に関わる市の取組などの方向性や施策のあり方を検討し、「みよし市子ども計画」を策定するための基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査の対象

本調査の対象者は、令和6年1月30日現在、市内在住の15歳から39歳の市民の中から無作為に抽出した5,000人

3. 調査の方法

アンケート案内文を郵送し、Webアンケートにより回答

4. 調査の期間

令和6年3月12日～令和6年3月29日

※令和6年3月29日までにWebアンケートで回答があったものを有効回答数として扱い、集計・分析を行いました。

5. 回答結果

	案内文郵送数	回答数	回答率
15歳～39歳の市民	5,000件	896件	17.9%

6. 報告書の見方

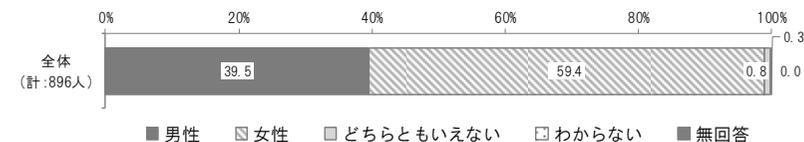
- 回答は、各質問の回答者数（計）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、グラフには「0.0」と表記しています。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 基本属性とのクロス集計は、原則として、表側の各属性等の「無回答」を表示していません。ただし、「全体」は属性の「無回答」を含んでいます。
- 表側の「その他」は調査の対象年齢でない人を集計しています。
- 集計によっては、回答者数が10人未満と非常に少ない場合もあり、このような集計は参考程度として見る必要があります。
- グラフや表およびコメントにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合があります。

第2章 調査結果

1. あなたの状況について

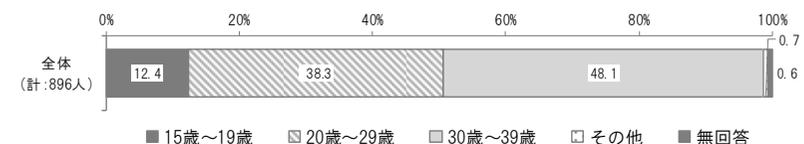
(1) 性別

- ◆ 回答者の性別について、「女性」と回答した人の割合が最も高く、59.4%となっています。次いで、「男性」（39.5%）、「どちらともいえない」（0.8%）となっています。



(2) 年齢

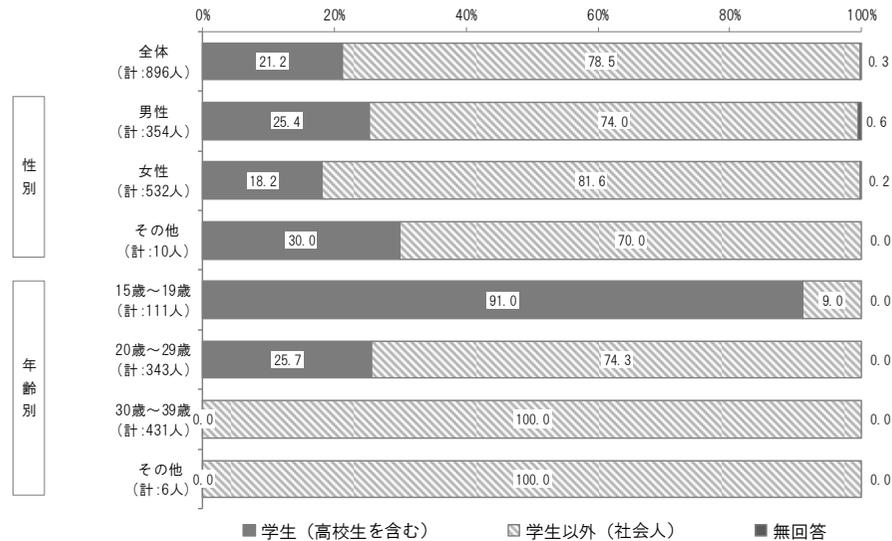
- ◆ 回答者の年齢について、「30歳～39歳」と回答した人の割合が最も高く、48.1%となっています。次いで、「20歳～29歳」（38.3%）、「15歳～19歳」（12.4%）となっています。



2. 普段の生活について

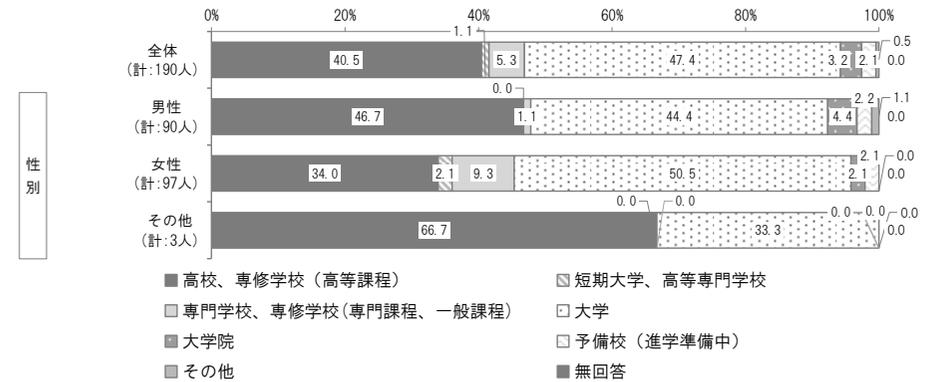
問8 あなたは現在、学生ですか、社会人ですか。(1つに○)

- ◆ 回答者は現在、学生ですかとたずねたところ、「学生（高校生を含む）」と回答した人の割合は 21.2%、「学生以外（社会人）」と回答した人の割合は 78.5%となっています。
- ◆ 性別で見ると、全体同様の傾向となっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「学生（高校生を含む）」と回答した人の割合が低くなり、「学生以外」と回答した人の割合が高くなっています。



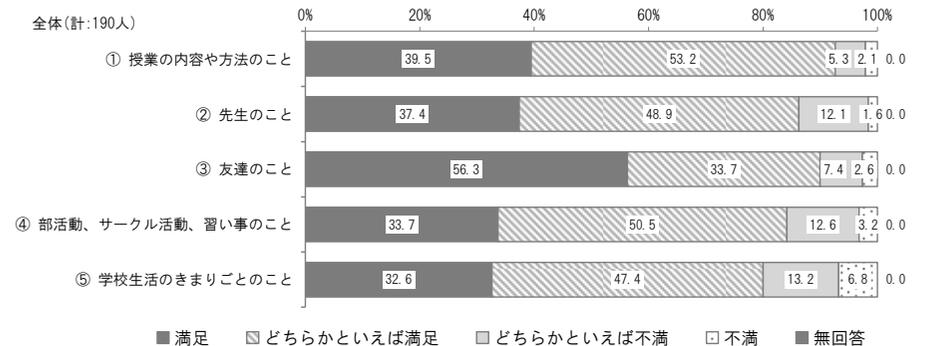
問9-1 現在、あなたが通っている学校をお答えください。(1つに○)

- ◆ 問8で「学生」と回答した人に、現在通っている学校をたずねたところ、全体では「大学」と回答した人の割合が最も高く、47.4%となっています。次いで、「高校、専修学校（高等課程）」(40.5%)、「専門学校、専修学校(専門課程、一般課程)」(5.3%)となっています。



問9-6 あなたは、学校生活に満足していますか。(1つずつ○)

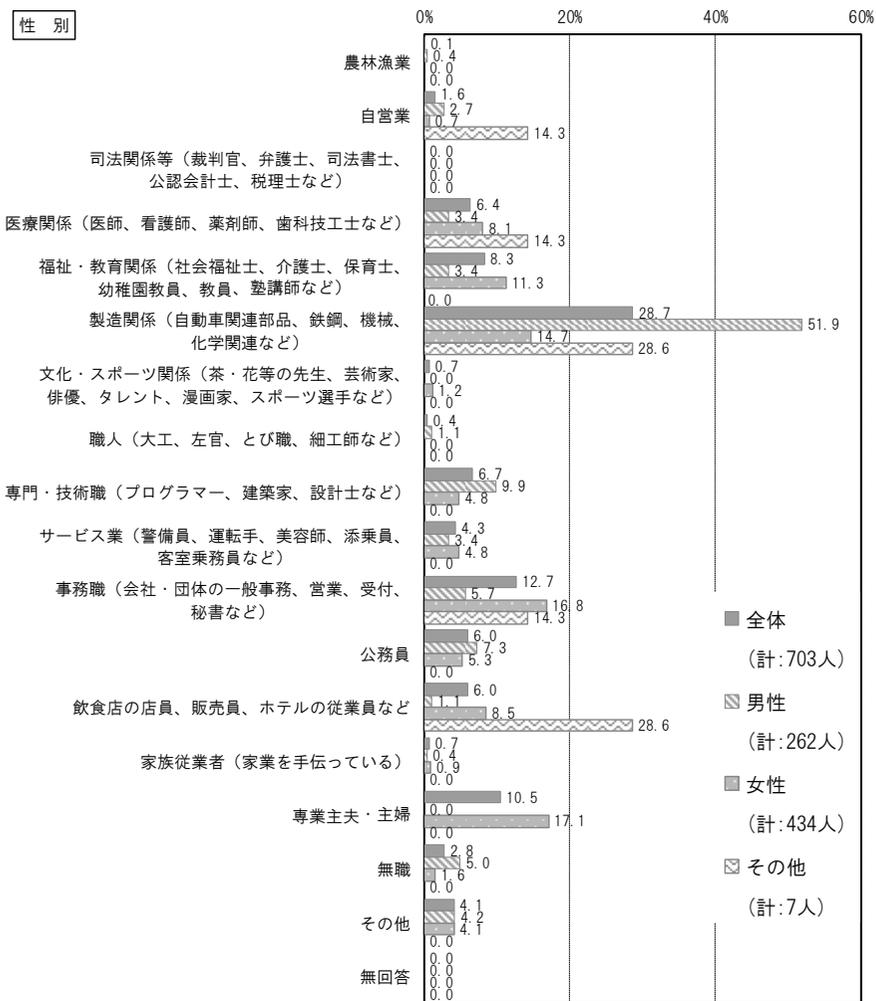
- ◆ 「満足（「満足」+「どちらかといえば満足）」と回答した人の割合は、「① 授業の内容や方法のこと」が 92.7%と最も高くなっています。次いで、「③ 友達のこと」(90.0%)、「② 先生のこと」(86.3%)となっています。
- ◆ 「不満（「どちらかといえば不満」+「不満）」と回答した人の割合は、「⑤ 学校生活のきまりごとのこと」が 20.0%と最も高くなっています。次いで、「④ 部活動、サークル活動、習い事のこと」(15.8%)、「② 先生のこと」(13.7%)となっています。



問 10-2 あなたの現在の主な仕事をお答えください。(1つに○)

(問 10-1 ~ 問 10-6 は、問 8 で「2. 学生以外 (社会人)」に○をつけた方にうかがいます。)

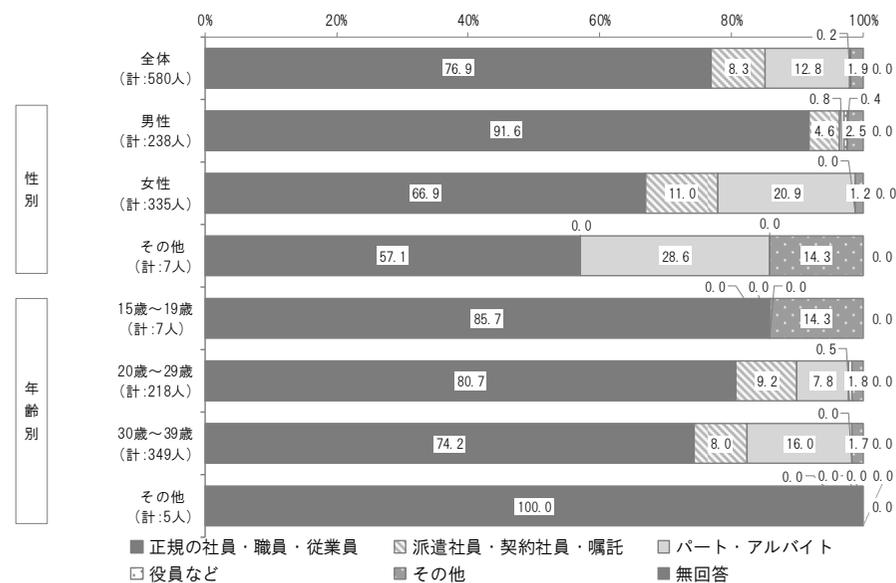
- ◆ 「社会人」の方に、現在の主な仕事をたずねたところ、全体では「製造関係(自動車関連部品、鉄鋼、機械、化学関連など)」と回答した人の割合が最も高く、28.7%となっています。次いで、「事務職(会社・団体の一般事務、営業、受付、秘書など)」(12.7%)、「専業主夫・主婦」(10.5%)となっています。
- ◆ 性別では男性、年齢別では15歳~19歳で「製造関係(自動車関連部品、鉄鋼、機械、化学関連など)」と回答した人の割合が高くなっています。



問 10-3 あなたの雇用形態をお答えください。(1つに○)

(問 10-2 で「1」~「14」に○をつけた方(社会人)にうかがいます。)

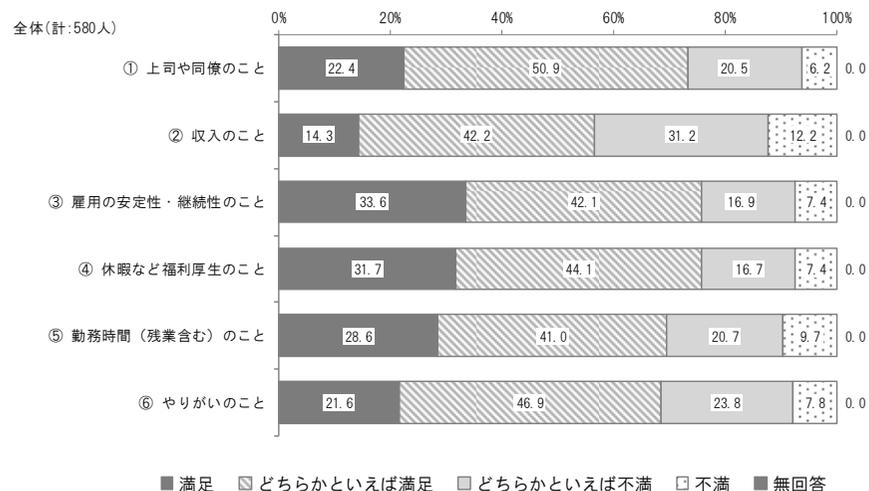
- ◆ 「社会人」の方に、雇用形態をたずねたところ、全体では「正規の社員・職員・従業員」と回答した人の割合が最も高く、76.9%となっています。次いで、「パート・アルバイト」(12.8%)、「派遣社員・契約社員・嘱託」(8.3%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「正規の社員・職員・従業員」と回答した人の割合が高く、男性より女性の方が「パート・アルバイト」と回答した人の割合が高くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「正規の社員・職員・従業員」と回答した人の割合が低くなり、「パート・アルバイト」と回答した人の割合が高くなっています。



問10-6 あなたは、現在の仕事に満足していますか。(1つずつ○)

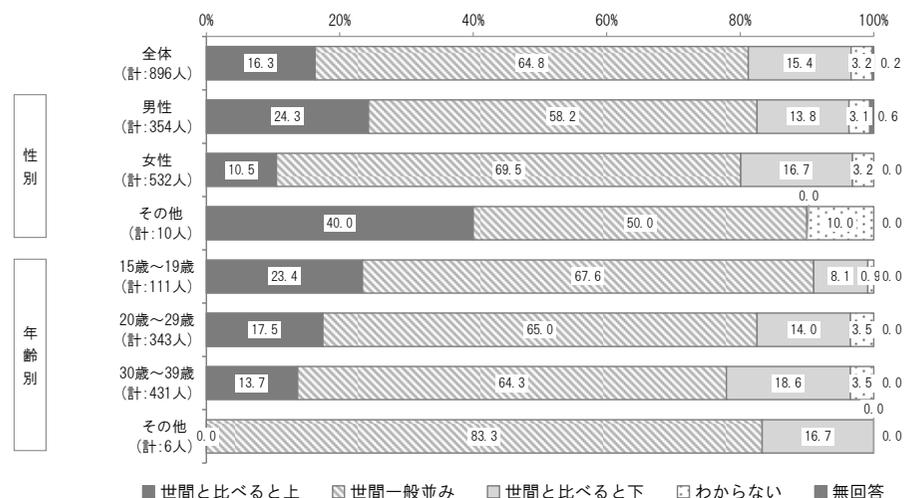
(問10-2で「1」～「14」に○をつけた方(社会人)にうかがいます。)

- ◆ 「満足(「満足」+「どちらかといえば満足」)」と回答した人の割合は、「④ 休暇など福利厚生のこと」が75.8%と最も高くなっています。次いで、「③ 雇用の安定性・継続性のこと」(75.7%)、「① 上司や同僚のこと」(73.3%)となっています。
- ◆ 「不満(「どちらかといえば不満」+「不満」)」と回答した人の割合は、「② 収入のこと」が43.4%と最も高くなっています。次いで、「⑥ やりがいのこと」(31.6%)、「⑤ 勤務時間(残業含む)のこと」(30.4%)となっています。



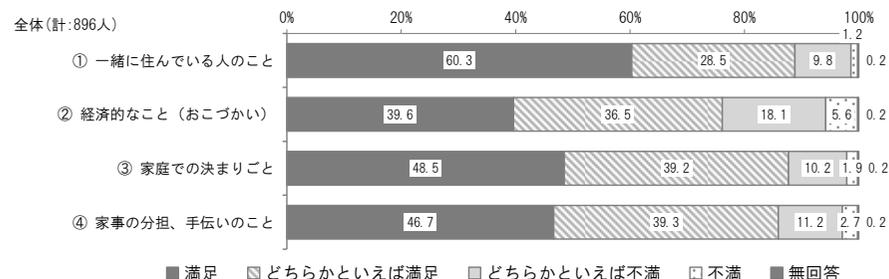
問11 あなたの現在の生活水準は、どれにあたるとお考えですか。あなたの実感でお答えください。(1つに○)

- ◆ 現在の生活水準の実感をたずねたところ、全体では「世間一般並み」と回答した人の割合が最も高く、64.8%となっています。次いで、「世間と比べると上」(16.3%)、「世間と比べると下」(15.4%)となっています。



問12 あなたは、家での生活に満足していますか。(1つずつ○)

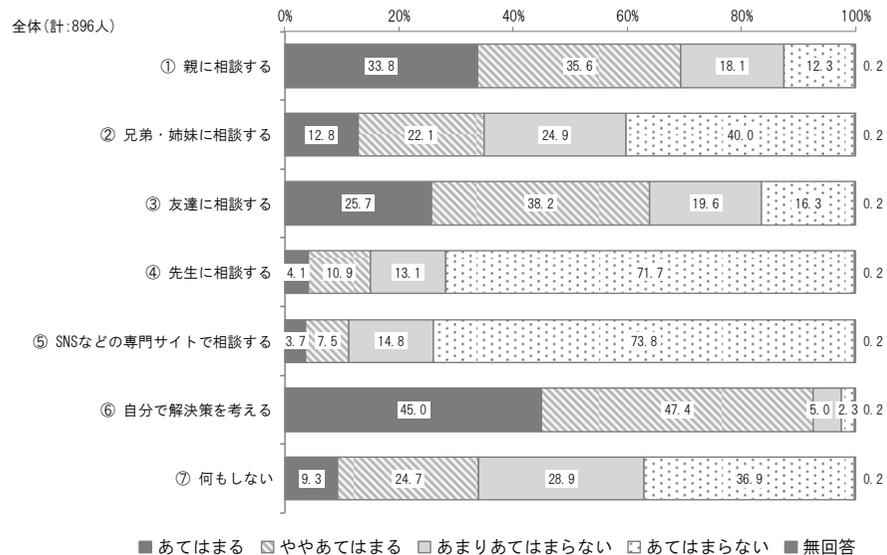
- ◆ 「満足(「満足」+「どちらかといえば満足」)」と回答した人の割合は、「① 一緒に住んでいる人のこと」が88.8%と最も高くなっています。次いで、「③ 家庭での決まりごと」(87.7%)、「④ 家事的分担、手伝いのこと」(86.0%)となっています。
- ◆ 「不満(「どちらかといえば不満」+「不満」)」と回答した人の割合は、「② 経済的なこと(おこづかい)」が23.7%と最も高くなっています。次いで、「④ 家事的分担、手伝いのこと」(13.9%)、「③ 家庭での決まりごと」(12.1%)となっています。



3. 「居場所」について

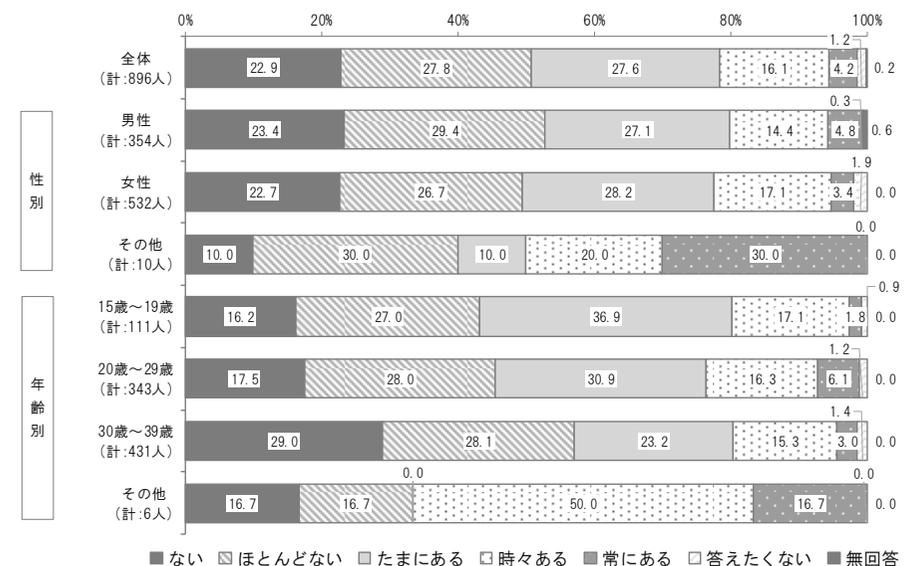
問 16 あなたは何か困ったとき、どのように対応しますか。(1つずつ〇)

- ◆ 「あてはまる(「あてはまる」+「ややあてはまる」)」と回答した人の割合は、「⑥ 自分で解決策を考える」が 92.4%と最も高くなっています。次いで、「① 親に相談する」(69.4%)、「③ 友達に相談する」(63.9%)となっています。
- ◆ 「あてはまらない(「あまりあてはまらない」+「あてはまらない」)」と回答した人の割合は、「⑤ SNSなどの専門サイトで相談する」が 88.6%と最も高くなっています。次いで、「④ 先生に相談する」(84.8%)、「⑦ 何もしない」(65.8%)となっています。



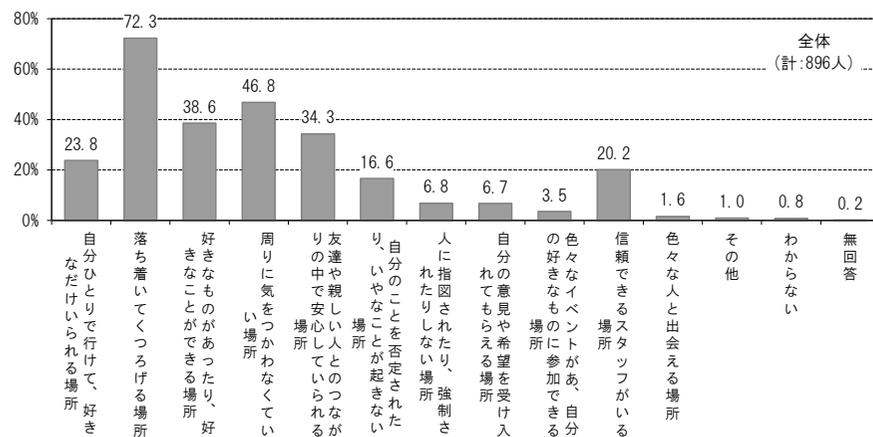
問 17 あなたは、孤独であると感じることがありますか。(1つに〇)

- ◆ あなたは、孤独であると感じることがありますかとたずねたところ、全体では「ほとんどない」と回答した人の割合が最も高く、27.8%となっています。次いで、「たまにある」(27.6%)、「ない」(22.9%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「ない(「ない」+「ほとんどない」)」と回答した人の割合が高く、男性より女性の方が「ある「たまにある」+「時々ある」+「常にある」)」と回答した人の割合が高くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「ない(「ない」+「ほとんどない」)」と回答した人の割合が高くなる一方で、「ある「たまにある」+「時々ある」+「常にある」)」と回答した人の割合が低くなっています。



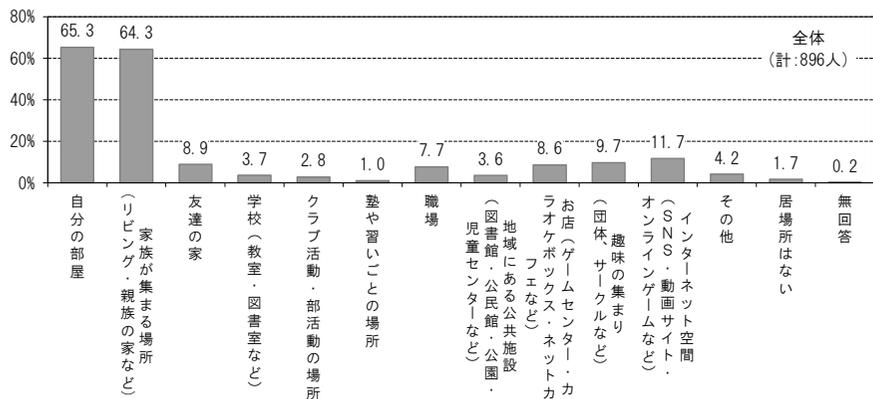
問 18 あなたにとって、「居場所」とはどんなところだと思いますか。(3つまでに○)

◆ あなたにとって、「居場所」とはどんなところだと思いますかとたずねたところ、全体では「落ち着いてくつろげる場所」と回答した人の割合が最も高く、72.3%となっています。次いで、「周りに気をつかわなくていい場所」(46.8%)、「好きなものがあったり、好きなことができる場所」(38.6%)となっています。



問 19 あなたにとっての「居場所 (ほっとできる場所、居心地の良い場所)」は、次のうちどこですか。(3つまでに○)

◆ あなたにとっての「居場所 (ほっとできる場所、居心地の良い場所)」は、次のうちどこですかとたずねたところ、全体では「自分の部屋」と回答した人の割合が最も高く、65.3%となっています。次いで、「家族が集まる場所 (リビング・親族の家など)」(64.3%)、「インターネット空間 (SNS・動画サイト・オンラインゲームなど)」(11.7%)となっています。

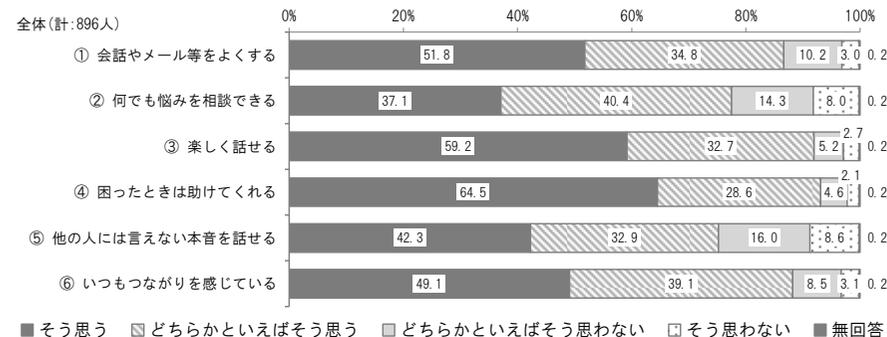


4. 家族、友人等のかかわりについて

問 21 家族とあなたのかかわりはどのようなものですか。(1つずつ○)

◆ 「そう思う (『そう思う』 + 『どちらかといえばそう思う』)」と回答した人の割合は、「④困ったときは助けてくれる」が93.1%と最も高くなっています。次いで、「③楽しく話せる」(91.9%)、「⑥いつもつながりを感じている」(88.2%)となっています。

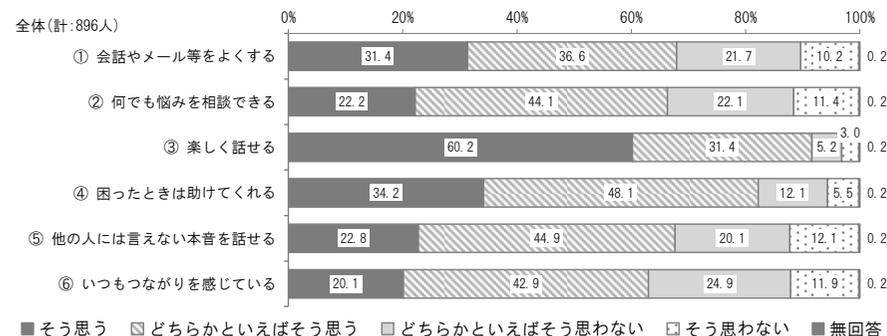
◆ 「そう思わない (『どちらかといえばそう思わない』 + 『そう思わない』)」と回答した人の割合は、「⑤他の人には言えない本音を話せる」が24.6%と最も高くなっています。次いで、「②何でも悩みを相談できる」(22.3%)、「①会話やメール等をよくする」(13.2%)となっています。



問 22 友人・知人とあなたのかかわりはどのようなものですか。(1つずつ○)

◆ 「そう思う (『そう思う』 + 『どちらかといえばそう思う』)」と回答した人の割合は、「③楽しく話せる」が91.6%と最も高くなっています。次いで、「④困ったときは助けてくれる」(82.3%)、「①会話やメール等をよくする」(68.0%)となっています。

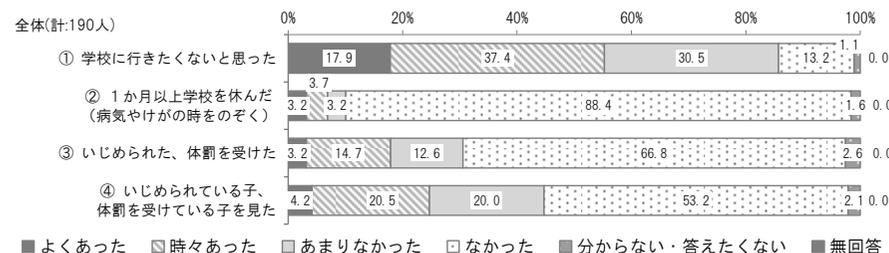
◆ 「そう思わない (『どちらかといえばそう思わない』 + 『そう思わない』)」と回答した人の割合は、「⑥いつもつながりを感じている」が36.8%と最も高くなっています。次いで、「②何でも悩みを相談できる」(33.5%)、「⑤他の人には言えない本音を話せる」(32.2%)となっています。



問 26 あなたは、これまでに①～④のようなことがありましたか。(1つずつ○)

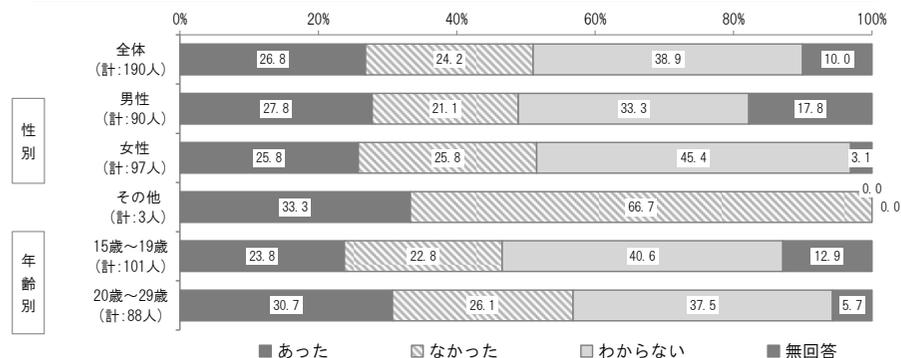
(問8で「1. 学生(高校生を含む)」に○をつけた方にうかがいます。)

- ◆ 「あった(「よくあった」+「時々あった」)」と回答した人の割合は、「①学校に行きたくないと思った」が55.3%と最も高くなっています。次いで、「④いじめられている子、体罰を受けている子を見た」(24.7%)、「③いじめられた、体罰を受けた」(17.9%)となっています。
- ◆ 「なかった(「あまりなかった」+「なかった」)」と回答した人の割合は、「②1か月以上学校を休んだ(病気やけがの時をのぞく)」が91.6%と最も高くなっています。次いで、「③いじめられた、体罰を受けた」(79.4%)、「④いじめられている子、体罰を受けている子を見た」(73.2%)となっています。



問 28【学生】問 26 のような状態が改善した・解決した経験がありましたか。(1つに○)

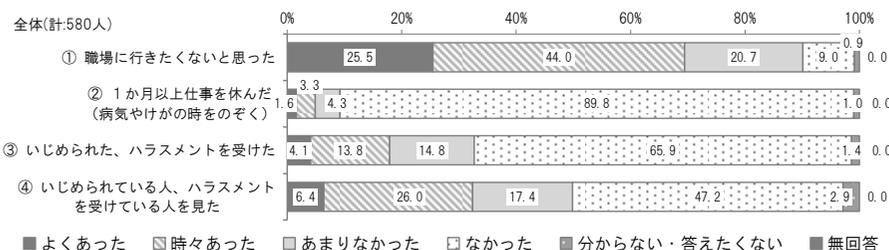
- ◆ 「学生」の方に、問 26 のような状態が改善した・解決した経験がありましたかとたずねたところ、全体では「わからない」と回答した人の割合が最も高く、38.9%となっています。次いで、「あった」(26.8%)、「なかった」(24.2%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「あった」と回答した人の割合が高く、男性より女性の方が「なかった」と回答した人の割合が高くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「あった」と回答した人の割合が高くなっています。また、「なかった」と回答した人の割合も高くなっています。



問 27 あなたは、これまでに①～④のようなことがありましたか。(1つずつ○)

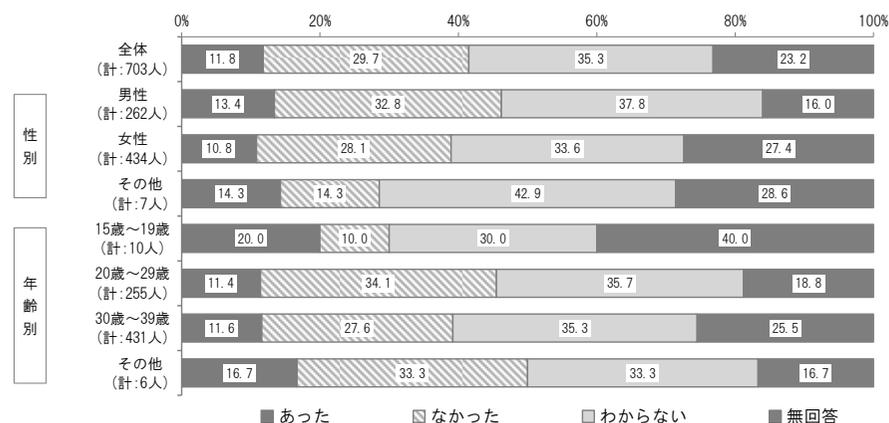
(社会人の方(問10-2で「1」~「14」に○をつけた方)にうかがいます。)

- ◆ 4項目のうち、「あった(「よくあった」+「時々あった」)」と回答した人の割合は、「①職場に行きたくないと思った」が69.5%と最も高くなっています。次いで、「④いじめられている人、ハラスメントを受けている人を見た」(32.4%)、「③いじめられた、ハラスメントを受けた」(17.9%)となっています。
- ◆ 「なかった(「あまりなかった」+「なかった」)」と回答した人の割合は、「②1か月以上仕事を休んだ(病気やけがの時をのぞく)」が94.1%と最も高くなっています。次いで、「③いじめられた、ハラスメントを受けた」(80.7%)、「④いじめられている人、ハラスメントを受けている人を見た」(64.6%)となっています。



問 28【社会人】問 27 のような状態が改善した・解決した経験がありましたか。(1つに○)

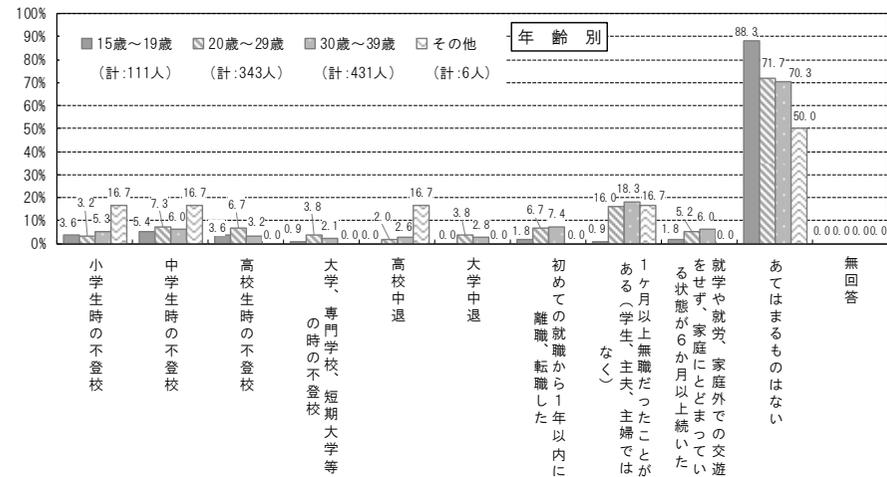
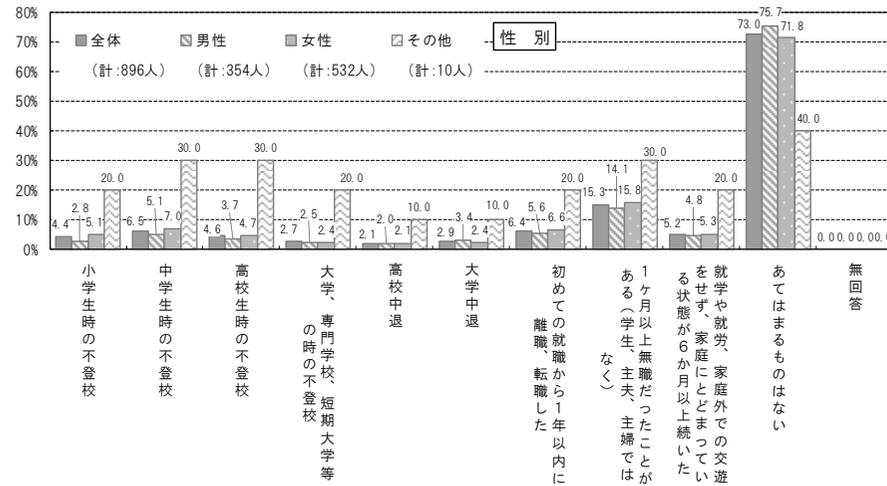
- ◆ 「社会人」の方に、問 27 のような状態が改善した・解決した経験がありましたかとたずねたところ、全体では「わからない」と回答した人の割合が最も高く、35.3%となっています。次いで、「なかった」(29.7%)、「あった」(11.8%)となっています。



5. こども・若者を対象とした支援について

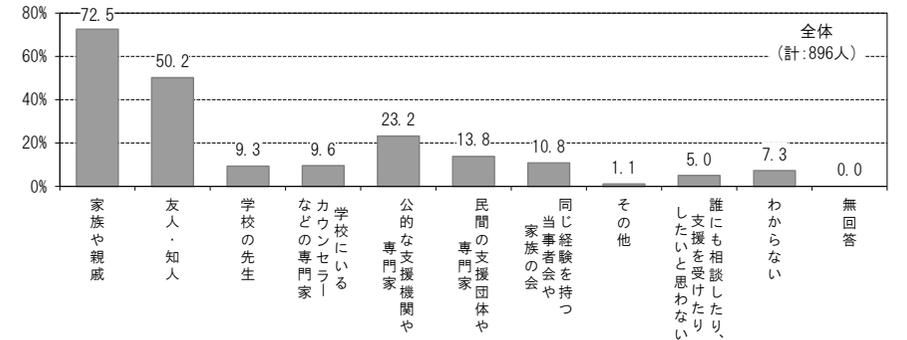
問 29 これまでに次のような経験をしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- ◆ これまでに次のような経験をしたことがありますかとたずねたところ、全体では「あてはまるものはない」(73.0%)を除いた27.0%の人が、何らかの経験をしたことがあると回答しています。その経験として、「1ヶ月以上無職だったことがある(学生、主夫、主婦ではなく)」と回答した人の割合が最も高く、15.3%となっています。次いで、「中学生時の不登校」(6.5%)、「初めての就職から1年以内に離職、転職した」(6.4%)となっています。



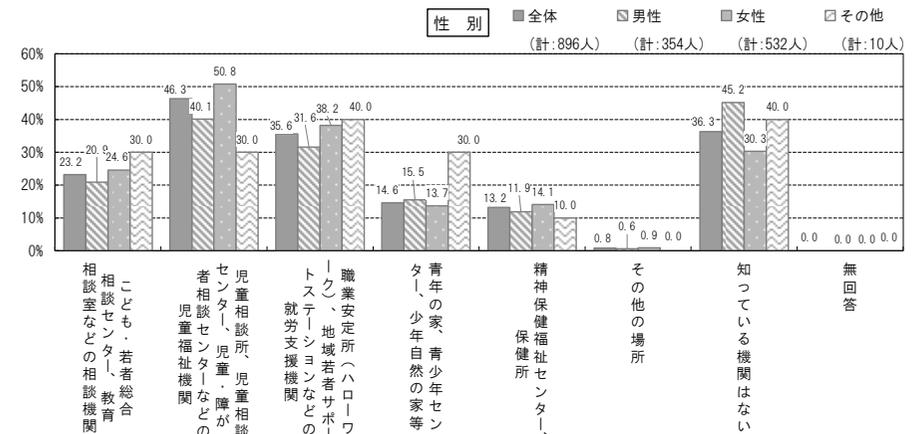
問 30 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなとき、どのような機関や人なら、相談したり、支援を受けたりしやすいと感じますか。(あてはまるものすべてに○)

- ◆ 社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなとき、どのような機関や人なら、相談したり、支援を受けたりしやすいと感じますかとたずねたところ、全体では「家族や親戚」と回答した人の割合が最も高く、72.5%となっています。次いで、「友人・知人」(50.2%)、「公的な支援機関や専門家」(23.2%)となっています。



問 31 あなたは、こども・若者を対象とした育成支援機関等(困ったときに相談に乗ってくれたり、助けてくれたりしてもらえるところ)を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

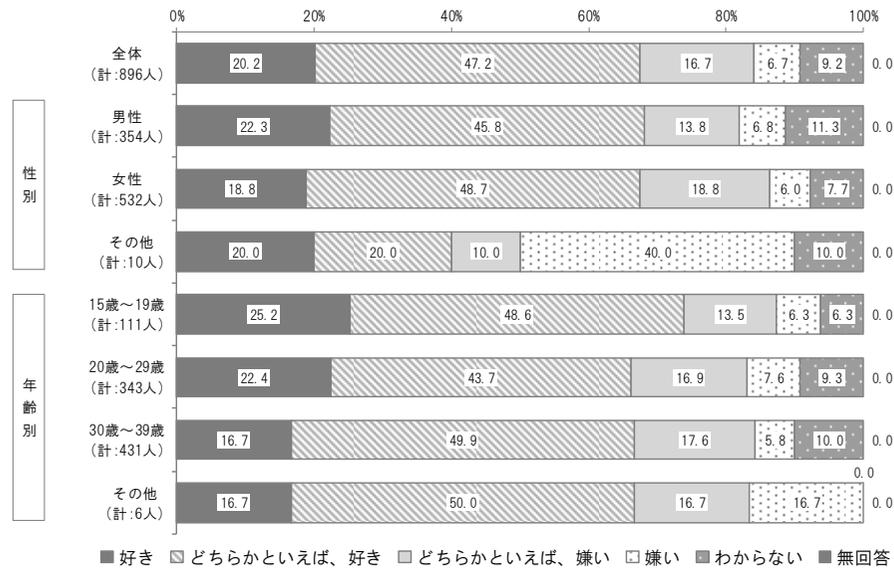
- ◆ こども・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますかとたずねたところ、全体では「児童相談所、児童相談センター、児童・障がい者相談センターなどの児童福祉機関」と回答した人の割合が最も高く、46.3%となっています。次いで、「知っている機関はない」(36.3%)、「職業安定所(ハローワーク)、地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」(35.6%)となっています。



6. あなたの今・将来について

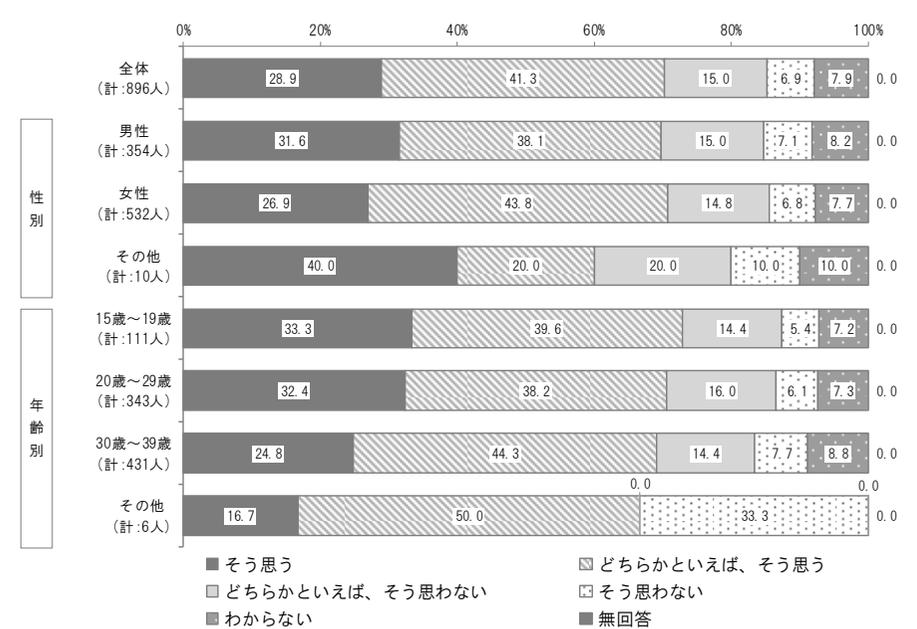
問 33 あなたは、今の自分が好きですか。(1つに○)

- ◆ 今の自分が好きですかとたずねたところ、全体では「どちらかといえば、好き」と回答した人の割合が最も高く、47.2%となっています。次いで、「好き」(20.2%)、「どちらかといえば、嫌い」(16.7%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、全体同様の傾向となっています。
- ◆ 年齢別で見ると、全体と比べて15～19歳で「好き(「好き」+「どちらかといえば、好き」)」と回答した人の割合が高くなっています。



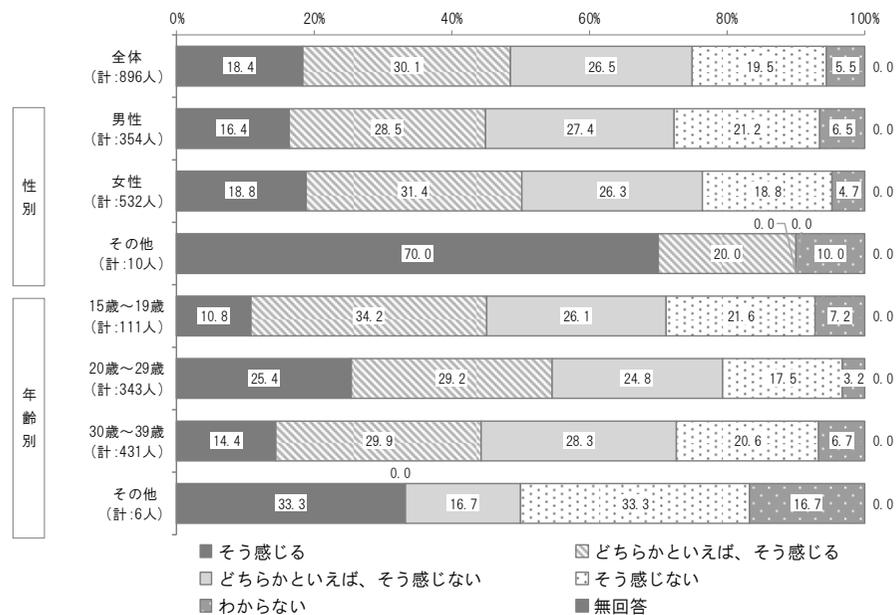
問 35 あなたは自分らしさというものがあると思いますか。(1つに○)

- ◆ 自分らしさというものがあると思いますかとたずねたところ、全体では「どちらかといえば、そう思う」と回答した人の割合が最も高く、41.3%となっています。次いで、「そう思う」(28.9%)、「どちらかといえば、そう思わない」(15.0%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、全体同様の傾向となっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「そう思う(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)」と回答した人の割合が低くなる一方で、「そう思わない(「どちらかといえば、そう思わない」+「そう思わない」)」と回答した人の割合が高くなっています。



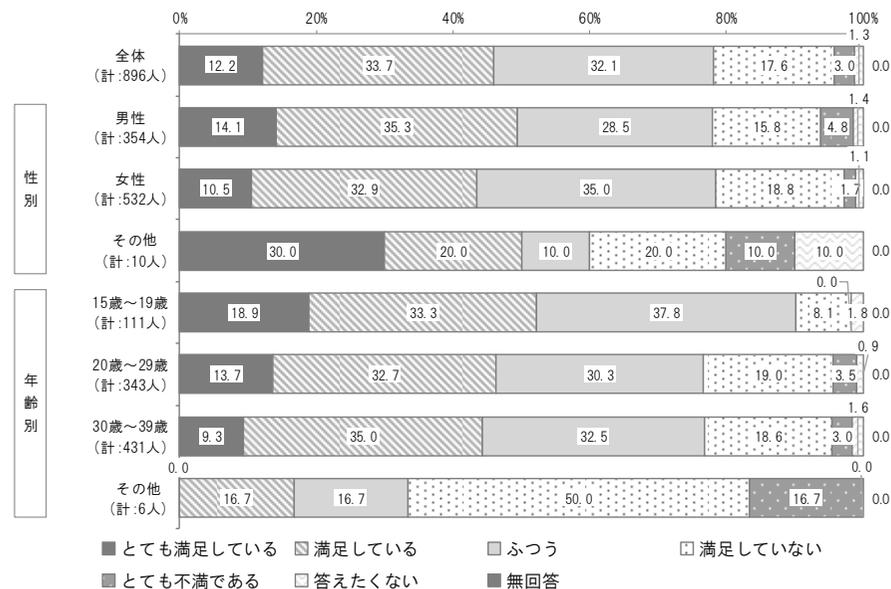
問 36 あなたは生きづらいと感じることがありますか。(1つに○)

- ◆ 生きづらいと感じることがありますかとたずねたところ、全体では「どちらかといえば、そう感じる」と回答した人の割合が最も高く、30.1%となっています。次いで、「どちらかといえば、そう感じない」(26.5%)、「そう感じない」(19.5%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「そう感じる(「そう感じる」+「どちらかといえば、そう感じる」)」と回答した人の割合が低く、男性より女性の方が「そう思わない(「どちらかといえば、そう感じない」+「そう感じない」)」と回答した人の割合が低くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、全体と比べて20歳～29歳で「そう感じる(「そう感じる」+「どちらかといえば、そう感じる」)」と回答した人の割合が高くなっています。



問 38 あなたは現在の生活に満足していますか。(1つに○)

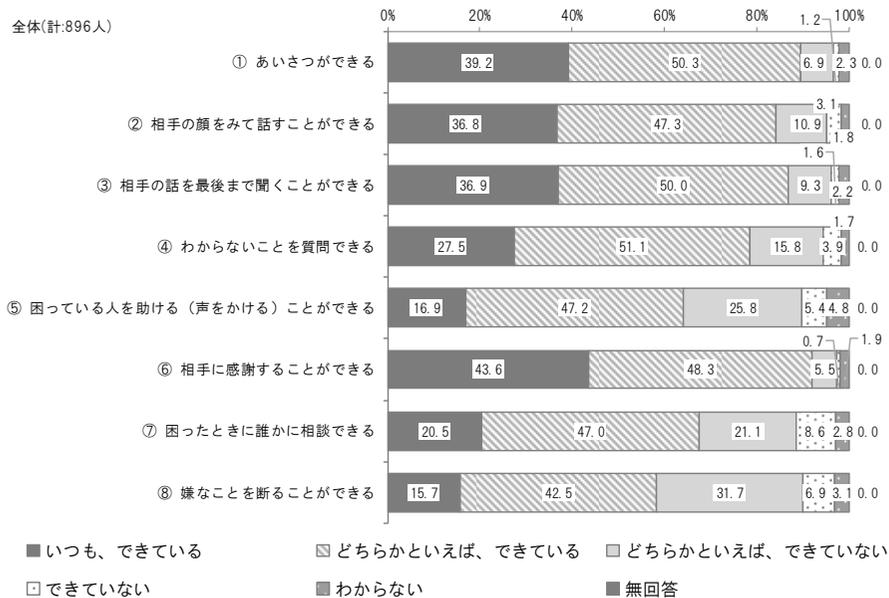
- ◆ 現在の生活に満足していますかとたずねたところ、全体では「満足している」と回答した人の割合が最も高く、33.7%となっています。次いで、「ふつう」(32.1%)、「満足していない」(17.6%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「満足している(「とても満足している」+「満足している」)」と回答した人の割合が高く、男性より女性の方が「ふつう」と回答した人の割合が高くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「満足している(「とても満足している」+「満足している」)」と回答した人の割合が低くなる一方で、「満足していない(「満足していない」+「とても不満である」)」と回答した人の割合が高くなっています。



7. こどもまんなか社会について

問 39 あなたは、次のことについてどのように思っていますか。(1つずつ〇)

- ◆ 「できている(「いつもできている」+「どちらかといえば、できている」)」と回答した人の割合は、「⑥ 相手に感謝することができる」が 91.9%と最も高くなっています。次いで、「① あいさつができる」(89.5%)、「③ 相手の話を最後まで聞くことができる」(86.9%)となっています。
- ◆ 「できていない(「どちらかといえば、できていない」+「できていない」)」と回答した人の割合は、「⑧ 嫌なことを断ることができる」が 38.6%と最も高くなっています。次いで、「⑤ 困っている人を助ける(声をかける)ことができる」(31.2%)、「⑦ 困ったときに誰かに相談できる」(29.7%)となっています。

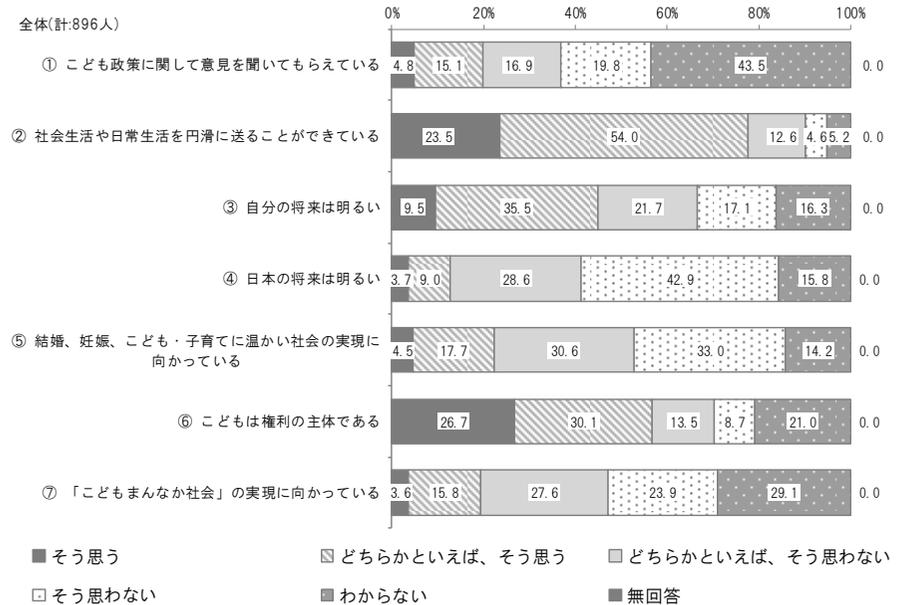


★こどもまんなか社会★

「こどもまんなか社会」とは、すべてのこどもが幸せな生活を送ることができる社会を目指して、社会全体で、こどもに関する取組「こども施策(おとなになるまでのサポート)」を行い、こどもを社会の真ん中に考えることをいいます。

問 40 あなたは、次のことについてどのように思っていますか。(1つずつ〇)

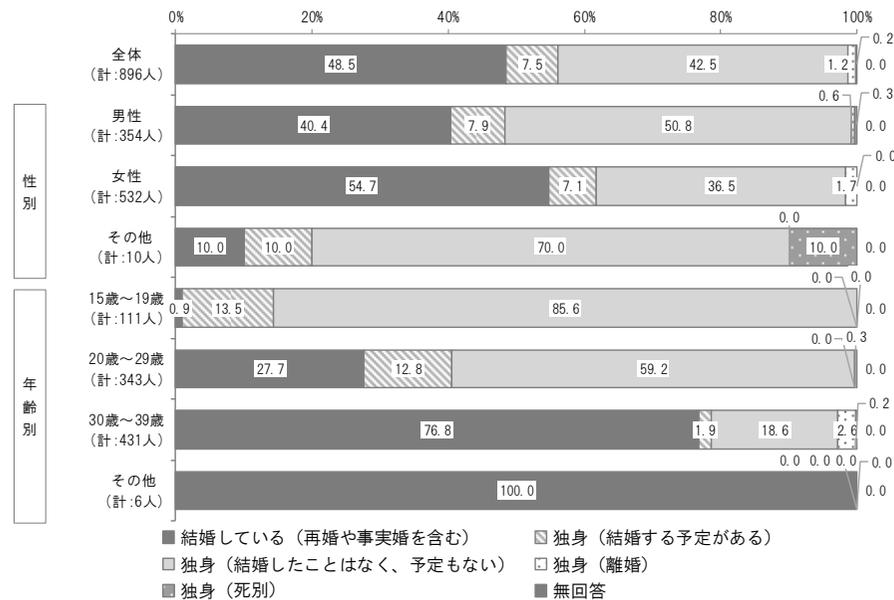
- ◆ 「そう思う(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)」と回答した人の割合は、「② 社会生活や日常生活を円滑に送ることができる」が 77.5%と最も高くなっています。次いで、「⑥ こどもは権利の主体である」(56.8%)、「③ 自分の将来は明るい」(45.0%)となっています。
- ◆ 「そう思わない(「どちらかといえば、そう思わない」+「そう思わない」)」と回答した人の割合は、「④ 日本の将来は明るい」が 71.5%と最も高くなっています。次いで、「⑤ 結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かって」(63.6%)、「⑦ 「こどもまんなか社会」の実現に向かって」(51.5%)となっています。



8. 少子化対策について

問 41 あなたは、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

- ◆ 回答者の婚姻状況についてたずねたところ、全体では「結婚している（再婚や事実婚を含む）」と回答した人の割合が最も高く、48.5%となっています。次いで、「独身（結婚したことはなく、予定もない）」(42.5%)、「独身（結婚する予定がある）」(7.5%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「結婚している（再婚や事実婚を含む）」と回答した人の割合が低く、男性より女性の方が「独身（「独身（結婚する予定がある）」+「独身（結婚したことはなく、予定もない）」+「独身（離婚）」+「独身（死別）」）」と回答した人の割合が低くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「結婚している（再婚や事実婚を含む）」と回答した人の割合が高くなる一方で、「独身（「独身（結婚する予定がある）」+「独身（結婚したことはなく、予定もない）」+「独身（離婚）」+「独身（死別）」）」と回答した人の割合が低くなっています。

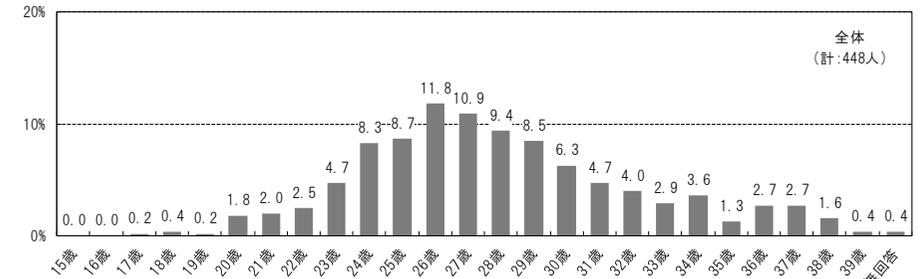


問 41-1 あなたは、いくつの時に結婚しましたか。() 内に数字でご記入ください。

(問 41 で「1. 結婚している」、「4. 独身（離婚）」、「5. 独身（死別）」に○をつけた方にかがいます。)

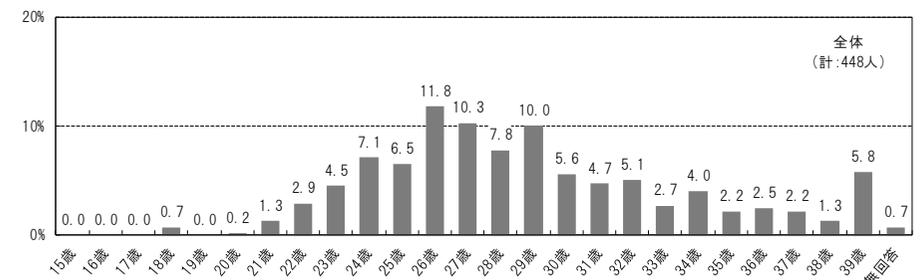
(1) あなた

- ◆ 結婚している方・結婚したことがある方に、いくつの時に結婚しましたかとたずねたところ、全体では「26歳」と回答した人の割合が最も高く、11.8%となっています。次いで、「27歳」(10.9%)、「28歳」(9.4%)となっています。



(2) 配偶者

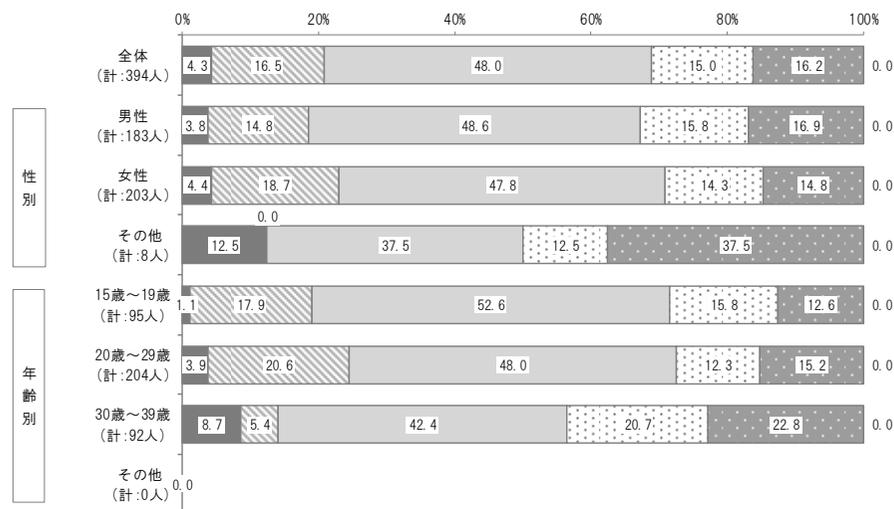
- ◆ 回答者の配偶者が結婚した年齢をたずねたところ、全体では「26歳」と回答した人の割合が最も高く、11.8%となっています。次いで、「27歳」(10.3%)、「29歳」(10.0%)となっています。



問 41-3 あなたは、結婚したいと思いますか。(1つに○)

(問 41 で「3. 独身(結婚したことはなく、予定もない)」、「4. 独身(離婚)」、「5. 独身(死別)」に○をつけた方にうかがいます。)

- ◆ 問 41 で「独身」と回答した方に、結婚したいと思いますかとたずねたところ、全体では「いつかは結婚したい(現在、恋人はいない)」と回答した人の割合が最も高く、48.0%となっています。次いで、「いつかは結婚したい(現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる)」(16.5%)、「結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいなくてよい)」(16.2%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「いつかは結婚したい(現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる)+ (現在、恋人はいない)」と回答した人の割合が低く、男性より女性の方が「結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいてほしい)+ (恋人はいなくてよい)」と回答した人の割合が低くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「いつかは結婚したい(現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる)+ (現在、恋人はいない)」と回答した人の割合が低くなる一方で、「結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいてほしい)+ (恋人はいなくてよい)」と回答した人の割合が高くなっています。

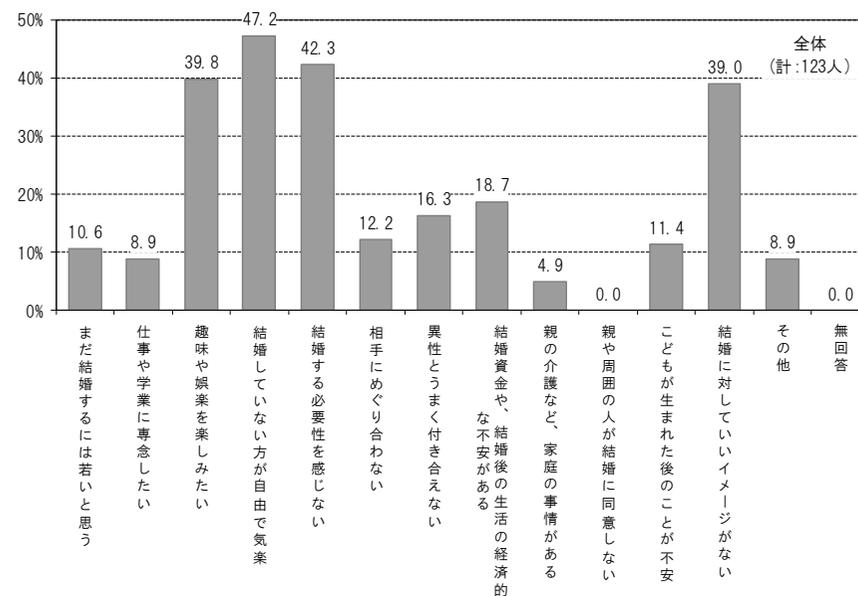


- 結婚を前提に付き合っている相手がいる
- ▨ いつかは結婚したい (現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる)
- ▩ いつかは結婚したい (現在、恋人はいない)
- 結婚する気はない・生涯独身でいたい (恋人はいてほしい)
- 結婚する気はない・生涯独身でいたい (恋人はいなくてよい)
- 無回答

問 41-4 あなたがそう思った理由は何ですか。(3つまでに○)

(問 41-3 で「4. 結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいてほしい)」、「5. 結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいなくてよい)」に○をつけた方にうかがいます。)

- ◆ 問 41-3 で「4. 結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいてほしい)」、「5. 結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいなくてよい)」と回答した方に、前問の回答理由をたずねたところ、全体では「結婚していない方が自由で気楽」と回答した人の割合が最も高く、47.2%となっています。次いで、「結婚する必要性を感じない」(42.3%)、「趣味や娯楽を楽しみたい」(39.8%)となっています。

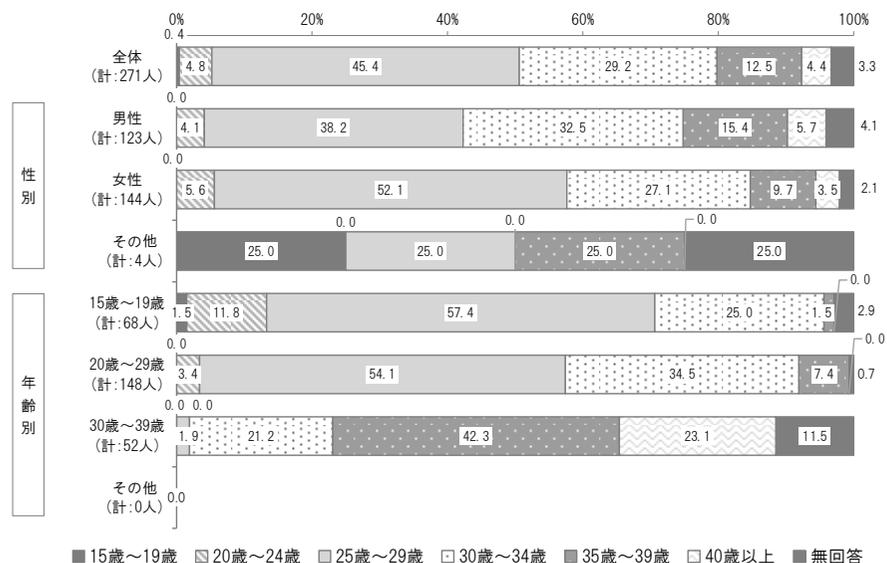


(%)	まだ結婚するには若いと思う	仕事や学業に専念したい	趣味や娯楽を楽しみたい	結婚していない方が自由で気楽	結婚する必要性を感じない	相手にめぐり合わない	異性とうまく付き合えない	結婚資金や、結婚後の生活の経済的な不安がある	親の介護など、家庭の事情がある	親や周囲の人が結婚に同意しない	子どもが生まれた後のことが不安	結婚に対していいイメージがない	その他	無回答
結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいてほしい) (計:59人)	13.6	6.8	37.3	42.4	42.4	20.3	23.7	15.3	6.8	0.0	11.9	33.9	11.9	0.0
結婚する気はない・生涯独身でいたい(恋人はいなくてよい) (計:64人)	7.8	10.9	42.2	51.6	42.2	4.7	9.4	21.9	3.1	0.0	10.9	43.8	6.3	0.0

問 41-5 あなたは、何歳くらいで結婚したいか（ ）内に数字でご記入ください。

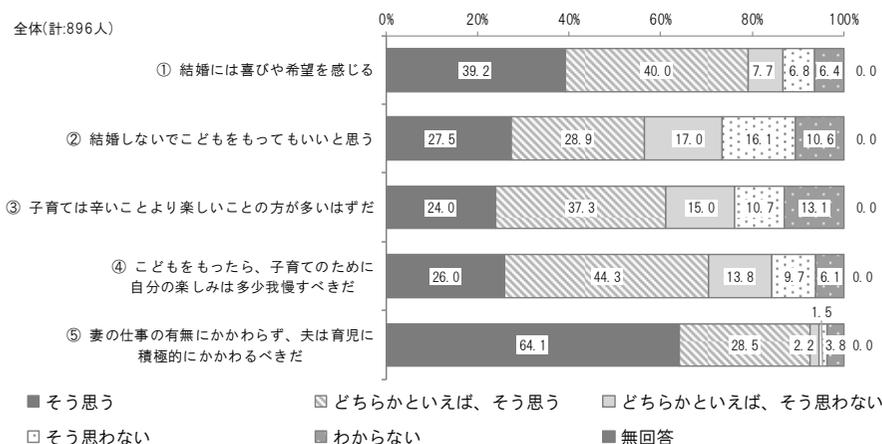
(問 41-3 で「1. 結婚を前提に付き合っている相手がいる」、「2. いつかは結婚したい(現在、結婚が前提ではないが、恋人はいる)」、「3. いつかは結婚したい(現在、恋人はいる)」に○をつけた方にかがいます。)

- ◆ 結婚経験のない方に、何歳頃に結婚したいかとたずねたところ、全体では「25歳～29歳」と回答した人の割合が最も高く、45.4%となっています。次いで、「30歳～34歳」(29.2%)、「35歳～39歳」(12.5%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「25歳～29歳」と回答した人の割合が低く、男性より女性の方が「30歳～34歳」、「35歳～39歳」と回答した人の割合が低くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「25歳～29歳」と回答した人の割合が低くなり、「35歳～39歳」と回答した人の割合が高くなっています。



問 44 あなたは、次のことについて、どのように思っていますか。(1つずつ○)

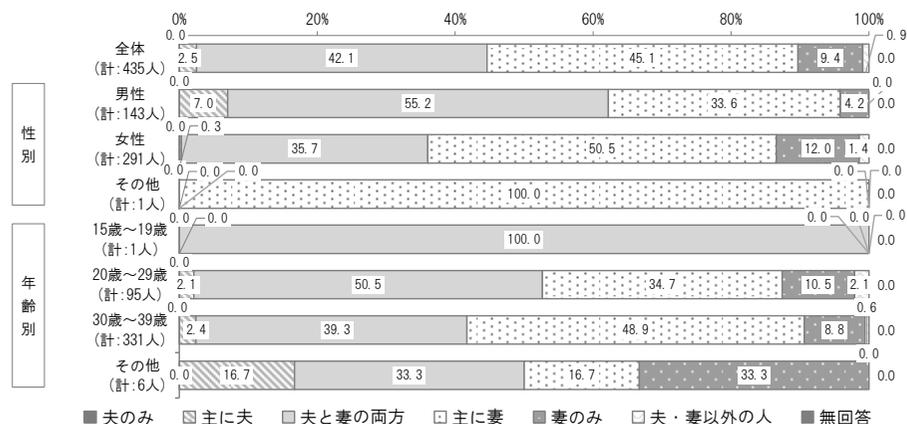
- ◆ 「そう思う(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う)」と回答した人の割合は、「⑤ 妻の仕事の有無にかかわらず、夫は育児に積極的にかかわるべきだ」が92.6%と最も高くなっています。次いで、「① 結婚には喜びや希望を感じる」(79.2%)、「④ 子どもをもったら、子育てのために自分の楽しみは多少我慢すべきだ」(70.3%)となっています。
- ◆ 「そう思わない(「どちらかといえば、そう思わない」+「そう思わない)」と回答した人の割合は、「② 結婚しないで子どもをもってもいいと思う」が33.1%と最も高くなっています。次いで、「③ 子育ては辛いことより楽しいことの方が多くはずだ」(25.7%)、「④ 子どもをもったら、子育てのために自分の楽しみは多少我慢すべきだ」(23.5%)となっています。



問 45 炊事、掃除、洗濯などの日常的な家事は、主にどなたが行っていますか。(1つに○)

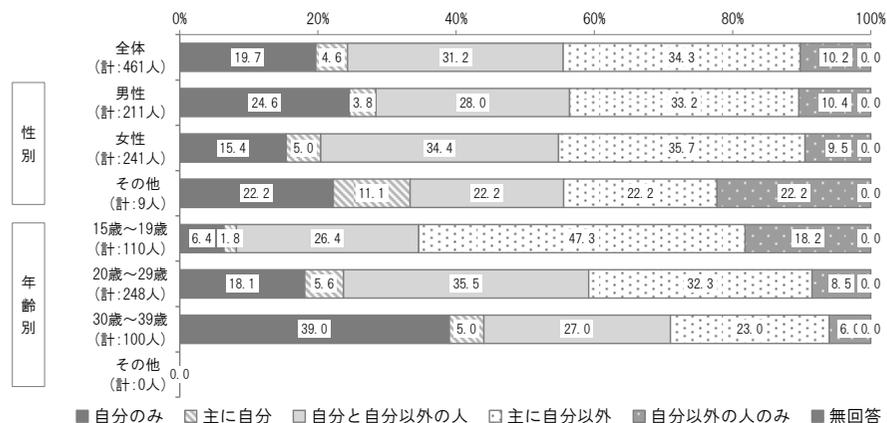
①既婚の方

- ◆ 既婚の方に、炊事、掃除、洗濯などの日常的な家事は、主にどなたが行っていますかとたずねたところ、全体では「主に妻」と回答した人の割合が最も高く、45.1%となっています。次いで、「夫と妻の両方」(42.1%)、「妻のみ」(9.4%)となっています。



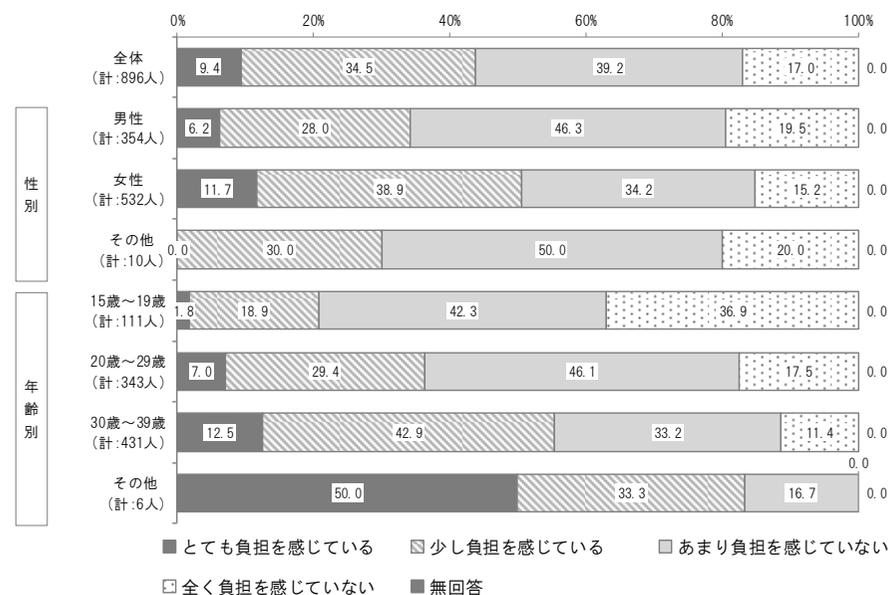
②独身の方

- ◆ 独身の方に、炊事、掃除、洗濯などの日常的な家事は、主にどなたが行っていますかとたずねたところ、全体では「主に自分以外」と回答した人の割合が最も高く、34.3%となっています。次いで、「自分と自分以外の人」(31.2%)、「自分のみ」(19.7%)となっています。



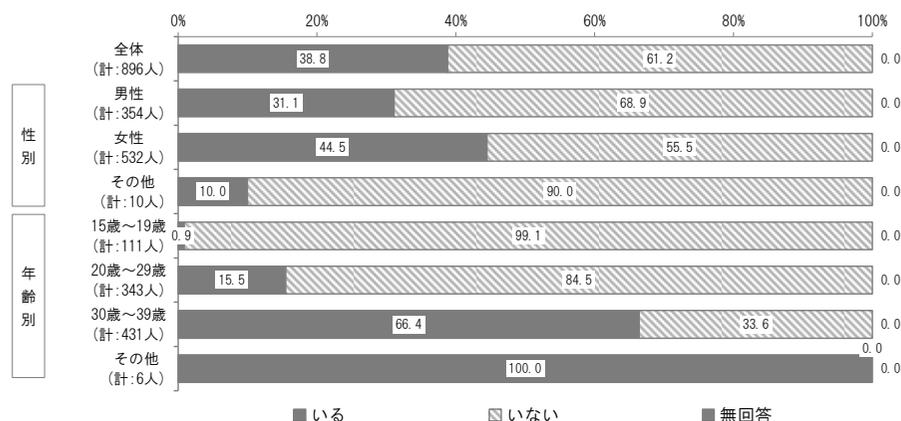
問 46 あなたは、家事にどの程度負担を感じていますか。(1つに○)

- ◆ 家事にどの程度負担を感じていますかとたずねたところ、全体では「あまり負担を感じていない」と回答した人の割合が最も高く、39.2%となっています。次いで、「少し負担を感じている」(34.5%)、「全く負担を感じていない」(17.0%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「負担を感じている(「とても負担を感じている」+「少し負担を感じている」)」と回答した人の割合が低く、男性より女性の方が「負担を感じていない(「あまり負担を感じていない」+「全く負担を感じていない」)」と回答した人の割合が低くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「負担を感じている(「とても負担を感じている」+「少し負担を感じている」)」と回答した人の割合が高くなる一方で、「負担を感じていない(「あまり負担を感じていない」+「全く負担を感じていない」)」と回答した人の割合が低くなっています。



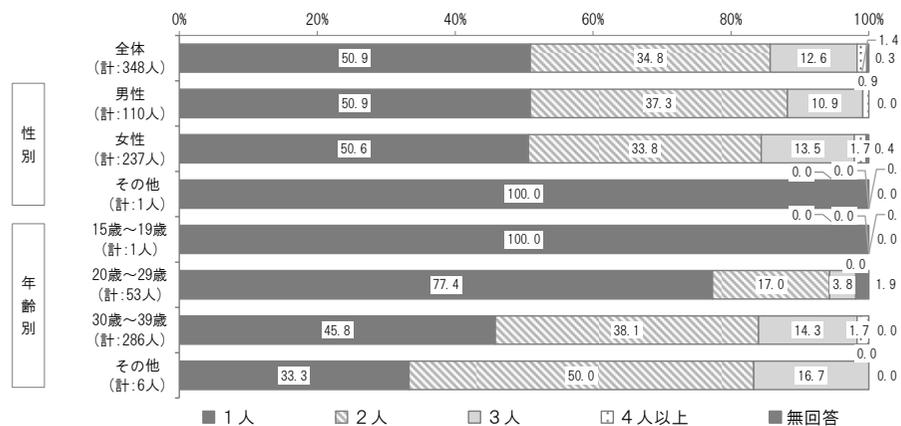
問 47 あなたには、お子さんがいますか。(1つに○)

◆ お子さんがいますかとたずねたところ、「いる」と回答した人の割合は38.8%、「いない」と回答した人の割合は61.2%となっています。



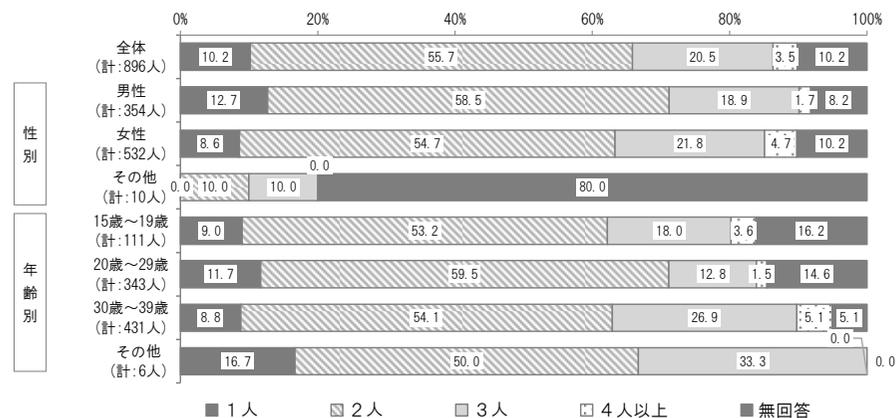
問 47-1 あなたには、お子さんが何人いますか。別居しているお子さんも含めてお答えください。(数字を記入)(問 47で「1. いる」に○をつけた方にかがいます。)

◆ 問 47 でお子さんが「いる」と回答した方に、お子さんの人数をたずねたところ、全体では「1人」と回答した人の割合が最も高く、50.9%となっています。次いで、「2人」(34.8%)、「3人」(12.6%)となっています。



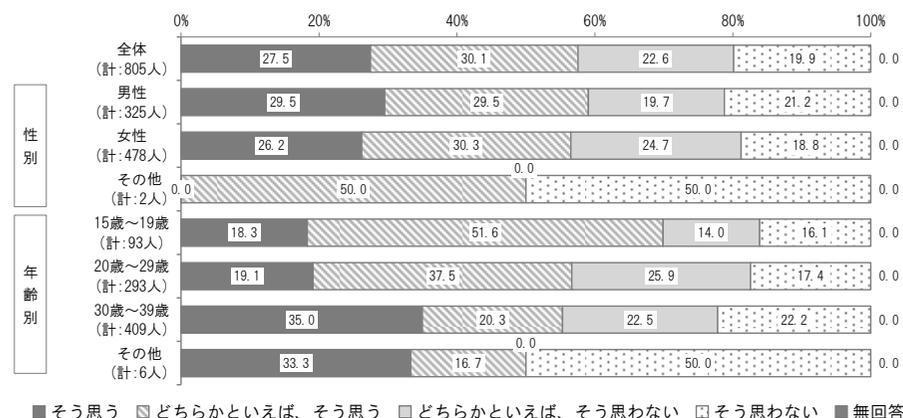
問 52 あなたが理想とする(可能なら授かりたいと思う)お子さんの数は、今いるお子さんも含めて何人ですか。(数字を記入)

◆ 理想とする(可能なら持ちたいと思う)お子さんの数は、今いるお子さんも含めて何人ですかとたずねたところ、全体では「2人」と回答した人の割合が最も高く、55.7%となっています。次いで、「3人」(20.5%)、「1人」(10.2%)となっています。



問 53 あなたは、問 52 で答えた理想とするお子さんの人数を将来的に実現できそうだと思いますか。(1つに○)

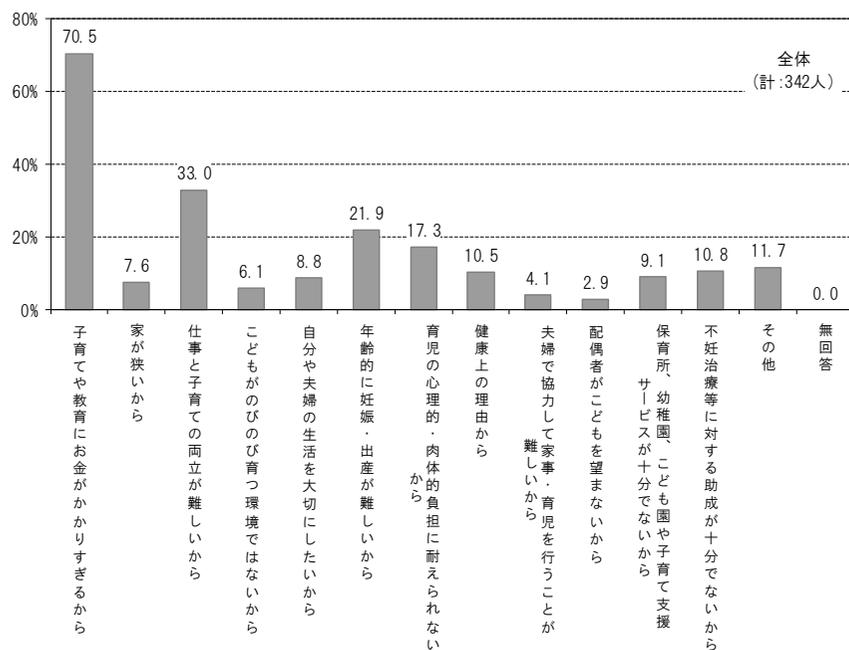
◆ 問 52 で答えた理想とするお子さんの人数を将来的に実現できそうだと思いますかとたずねたところ、全体では「どちらかといえば、そう思う」と回答した人の割合が最も高く、30.1%となっています。次いで、「そう思う」(27.5%)、「どちらかといえば、そう思わない」(22.6%)となっています。



問 53-1 その理由は何ですか。(3つまでに○)

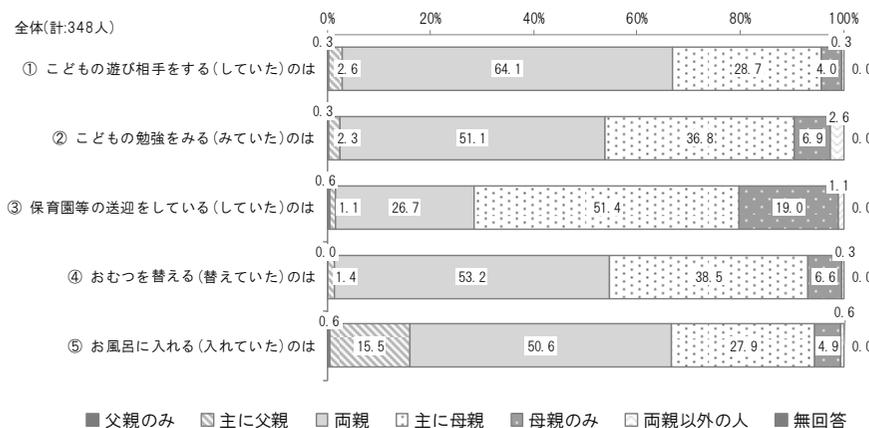
(問 53 で「3. どちらかといえば、そう思わない」または「4. そう思わない」に○をつけた方にかがいます。)

- ◆ 理想とするお子さんの人数を持ってそうにないと思うと回答した方に、その理由をたずねたところ、全体では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した人の割合が最も高く、70.5%となっています。次いで、「仕事と子育ての両立が難しいから」(33.0%)、「年齢的に妊娠・出産が難しいから」(21.9%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、概ね全体同様の傾向となっています。
- ◆ 年齢別で見ると、概ね全体同様の傾向となっていますが、30歳～39歳で「年齢的に妊娠・出産が難しいから」と回答した人の割合が高くなっています。



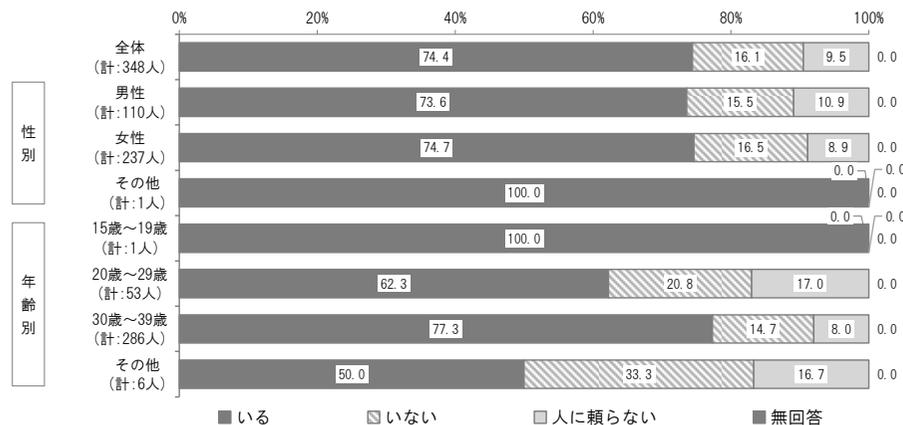
問 48 育児やこどもの世話はどなたが行っていますか(いましたか)。(1つずつ○)

- ◆ 「父親(「父親のみ」+「主に父親」)と回答した人の割合は、「⑤お風呂に入れる(入っていた)のは」が16.1%と最も高くなっています。次いで、「①子どもの遊び相手をする(していた)のは」(2.9%)、「②子どもの勉強をみる(みていた)のは」(2.6%)となっています。
- ◆ 「母親(「主に母親」+「母親のみ」)と回答した人の割合は、「③保育園等の送迎をしている(していた)のは」が70.4%と最も高くなっています。次いで、「④おもつを替える(替えていた)」(45.1%)、「②子どもの勉強をみる(みていた)のは」(43.7%)となっています。
- ◆ 両親と回答した人の割合は、「③保育園等の送迎をしている(していた)のは」(26.7%)を除く4項目で5割を超えています。



問 49 あなたは、こどもの世話や看病について頼れる人がいますか。(1つに○)

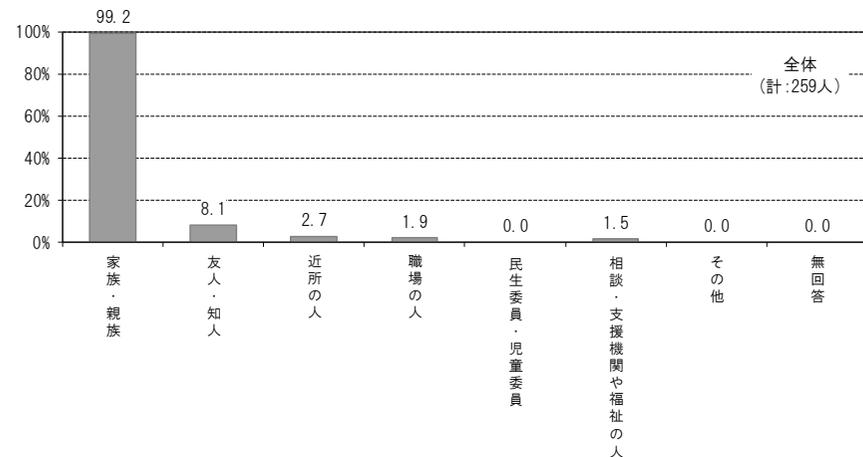
◆ こどもの世話や看病について頼れる人がいますかとたずねたところ、全体では「いる」と回答した人の割合が最も高く、74.4%となっています。次いで、「いない」(16.1%)、「人に頼らない」(9.5%)となっています。



問 50 それは誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

(問 49 で「1. いる」に○を付けた方にうかがいます。)

◆ 問 49 で「1. 頼れる人がいる」と回答した人に、それは誰ですかとたずねたところ、全体では「家族・親族」と回答した人の割合が最も高く、99.2%となっています。次いで、「友人・知人」(8.1%)、「近所の人」(2.7%)となっています。

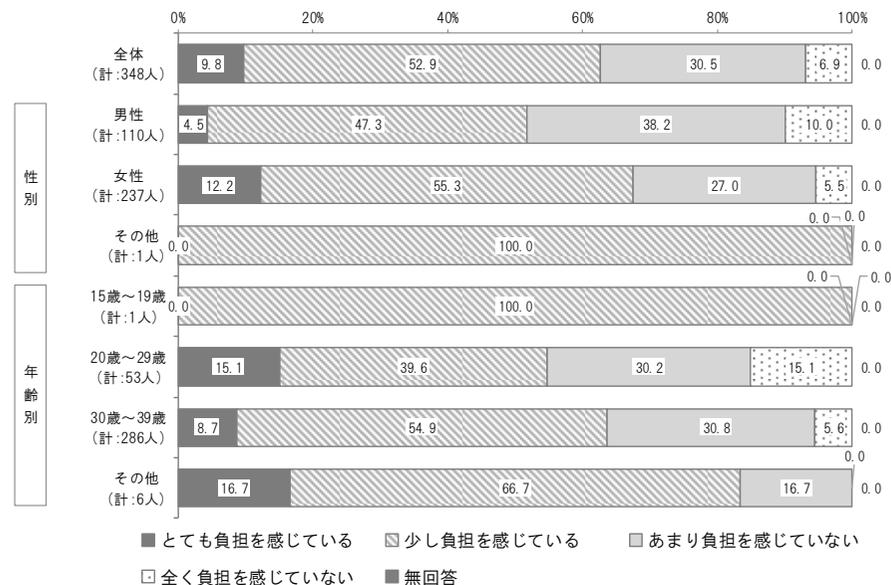


問 51 あなたは、育児・こどもの世話にどの程度負担を感じていますか。(1つに○)

◆ あなたは、育児・こどもの世話にどの程度負担を感じていますかとたずねたところ、全体では「少し負担を感じている」と回答した人の割合が最も高く、52.9%となっています。次いで、「あまり負担を感じていない」(30.5%)、「とても負担を感じている」(9.8%)となっています。

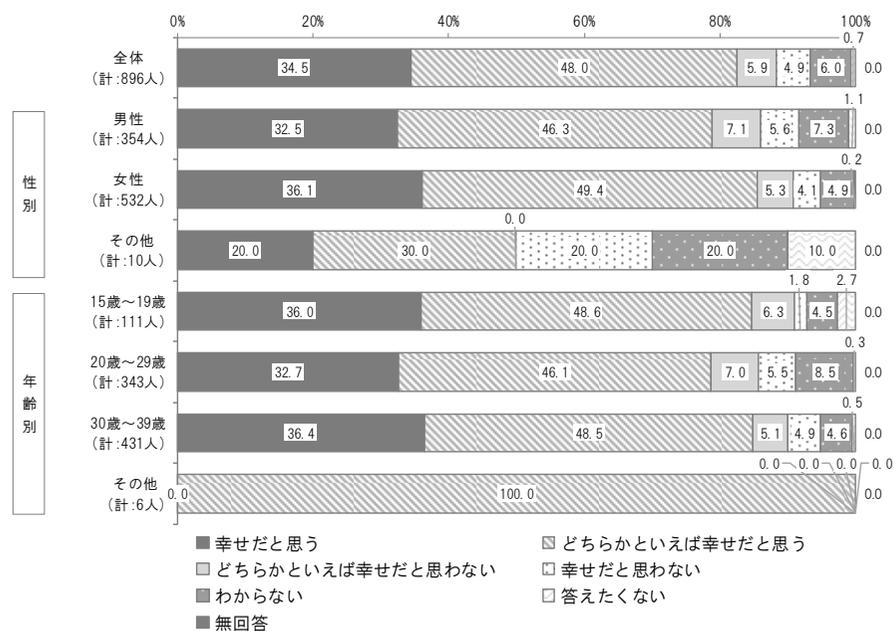
◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「負担を感じている(「とても負担を感じている」+「少し負担を感じている」)」と回答した人の割合が低く、男性より女性の方が「負担を感じていない(「あまり負担を感じていない」+「全く負担を感じていない」)」と回答した人の割合が低くなっています。

◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「負担を感じている(「とても負担を感じている」+「少し負担を感じている」)」と回答した人の割合が高くなる一方で、「負担を感じていない(「あまり負担を感じていない」+「全く負担を感じていない」)」と回答した人の割合が低くなっています。



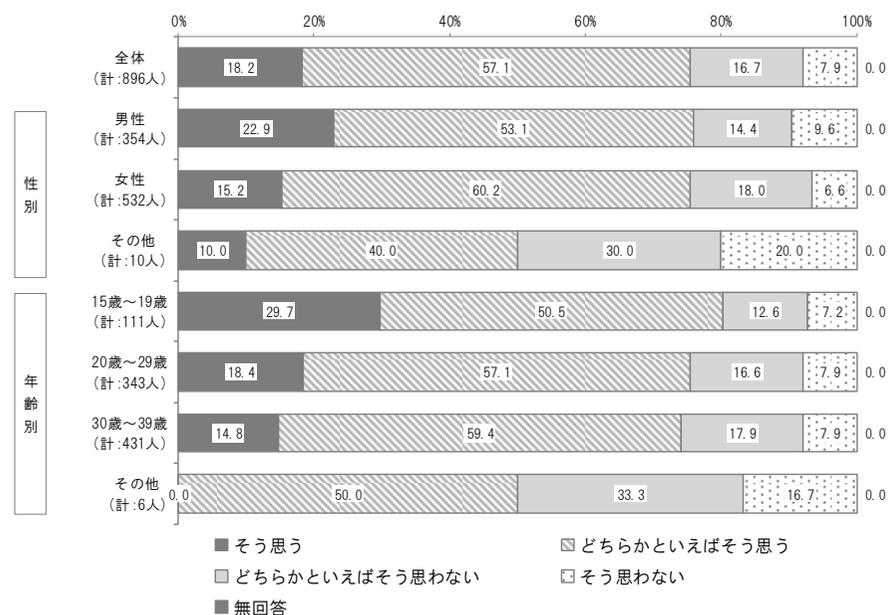
問 55 今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください(1つに○)

- ◆ 今、自分が幸せだと思いますかとたずねたところ、全体では「どちらかといえば幸せだと思う」と回答した人の割合が最も高く、48.0%となっています。次いで、「幸せだと思う」(34.5%)、「わからない」(6.0%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、女性より男性の方が「幸せだと思う(「幸せだと思う」+「どちらかといえば幸せだと思う」)」と回答した人の割合が低く、男性より女性の方が「幸せだと思わない(「どちらかといえば、幸せだと思わない」+「幸せだと思わない」)」と回答した人の割合が低くなっています。
- ◆ 年齢別で見ると、全体と比べて 20 歳～29 歳で「幸せだと思う(「幸せだと思う」+「どちらかといえば幸せだと思う」)」と回答した人の割合が低くなっています。



問 56 あなたは、みよし市が子どもや若者が希望を持って暮らしていくことができるまちだと思いますか。(1つに○)

- ◆ みよし市が子どもや若者が希望を持って暮らしていくことができるまちだと思いますかとたずねたところ、全体では「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も高く、57.1%となっています。次いで、「そう思う」(18.2%)、「どちらかといえばそう思わない」(16.7%)となっています。
- ◆ 性別で見ると、全体同様の傾向となっています。
- ◆ 年齢別で見ると、年齢が高くなると「そう思う(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)」と回答した人の割合が低くなる一方で、「そう思わない(「どちらかといえば、そう思わない」+「そう思わない」)」と回答した人の割合が高くなっています。



令和 6（2024）年度 みよし市子ども会議 実施要項

みよし市子ども未来部子ども政策課

1 目的

令和 5（2023）年 4 月施行の子ども基本法に基づき、新たに国の子ども大綱が策定されました。これまでの「少子化社会対策大綱」、「子ども・若者育成支援推進大綱」、「子どもの貧困対策に関する大綱」の 3 つの大綱が子ども大綱に一元化されたことから、本市においても子ども大綱の内容を踏まえて「子ども計画」を策定します。

また、これに合わせて新たに「(仮称) 子ども基本条例」の制定を目指しています。

これらの計画、条例を有用なものとし、かつ実効性をもたせるために、子どもの率直な意見を反映させることは何よりも肝要であると考え、子ども自身の参画の場を設けます。

2 開催時期

夏休み期間中に 2 回、冬休み期間中に 1 回の会議を予定しています

- 1 回目（夏休み期間中） 令和 6（2024）年 8 月 5 日（月） 午後 1 時から午後 4 時 30 分まで
 - 2 回目（夏休み期間中） 令和 6（2024）年 8 月 23 日（金） 午後 1 時から午後 4 時 30 分まで
 - 3 回目（冬休み期間中） 令和 6（2024）年 12 月 26 日（木） 午後 1 時から午後 3 時 30 分まで
- ※終了時間は予定です

3 開催場所

みよし市役所 3 階 研修室

4 選出人数等

区分	対象者	人数	選定方法
小学生	市内小学校の在校生	小、中合わせて 24 名程度	本人応募（小中学校を經由）
中学生	市内中学校の在校生		
高校生	愛知県立三好高等学校の在校生	4～6 名	学校推薦を依頼

※学年、性別は問わない

5 子ども会議の主な協議内容

1 回目

- ・趣旨説明
- ・グループ討議（子ども計画、(仮称) 子ども基本条例）
- ・インタビュー

2 回目

- ・グループ討議（子ども計画、(仮称) 子ども基本条例）
- ・インタビュー

3 回目

- ・子ども計画（案）、(仮称) 子ども基本条例（案）の報告

6 こども会議の進め方、目指すもの

(1回目・2回目)

- ・小、中、高の出席者を少人数のグループに分ける。
- ・進行役としてファシリテーターを配置する。
- ・1回の会議を前半、後半に分け、それぞれ、こども計画、(仮称) こども基本条例について自由に意見を出しあう。
- ・討議の合間にインタビューを行う。
- ・グループ討議、インタビューで出された出席者の率直な意見をこども計画、(仮称) こども基本条例に反映させる。

(こども計画、(仮称) こども基本条例の作成)

- ・こども会議での意見を反映した、こども未来会議での協議、検討

(3回目)

- ・反映された内容等を出席者に情報共有する。

7 こども計画策定・(仮称) こども基本条例制定までの流れ

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
I こども未来会議			●			●		●	●		答申	
II こども計画												公表
分析・目標・案作成	→											
パブリックコメント										→		
III (仮称) こども基本条例												議会
案作成					→							
パブリックコメント									→			
IV意見徴収												
こども会議					2回				1回			

8 その他

会場へは各自で御参集ください。

インタビュー実施計画

1 目的

こども計画及び（仮称）こども基本条例を策定するにあたり、広くこどもたちの声を聴取するため、こども達の利用が多く見込まれる市内児童館等で、下記インタビュー内容について小中学生から日頃から感じている思いや率直な意見を聞き取り、こども計画等の策定に反映させる

2 実施日

令和 6（2024）年 7 月 2 4 日（水）

3 実施会場

市内 4 地区の、児童館等で各 1 施設ずつ実施

おおよし地区：黒笹ふれあいセンター

きたよし地区：蒔生児童館

なかよし地区：西一色児童館

みなよし地区：打越児童館

4 インタビュー対象者

各児童館等施設来館中の小、中学生

5 インタビュー内容

(1) こども計画について

・「こどもまんなか社会」の実現に向けたこどもの「幸せ」について

・こどもが意見を言う機会や場所について

(2) こども条例について

6 事務局出席者（予定）

こども政策課職員 2 名

Next-i（株） 2 名

7 当日のスケジュール

7月24日(水)

午前

- 10:15 市役所集合
公用車にて移動
- 10:30 打越児童館
インタビュー
- 11:30 終了
公用車にて移動
- 11:45 市役所

午後

- 13:00 市役所集合
公用車にて移動
- 13:15 西一色児童館
インタビュー
- 14:15 終了
公用車で移動
- 14:30 蒔生児童館
インタビュー
- 15:30 終了
公用車で移動
- 15:45 黒笹ふれあいセンター
インタビュー
- 16:45 終了
公用車で移動
- 17:00 市役所

